

## 平成17年 1 月－平成17年12月研究業績目録

( 前段：和文業績 )  
( 後段：欧文業績 )

院長

Director-General

### 学術雑誌に発表した総説

篠崎英夫, 瀬上清貴. 脳卒中と日本の医療行政. 脳卒中. 2005; 27(1): 91.

公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 166.

篠崎英夫. 「高齢社会における健康づくり」－健康日本21のめざすもの－. 第50回平成17年度予防医学事業推進全国大会; 2005.10.21; 福岡. (特別講演)

### 抄録のある学会報告

篠崎英夫. 脳卒中と日本の医療行政. 第30回日本脳卒中学会総会; 2005.4.21; 盛岡.

篠崎英夫. 21世紀の医療制度改革. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 和光. 同抄録集. p.66.

篠崎英夫. 国立保健医療科学院の教育訓練. 第64回日本

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

篠崎英夫. これからの健康危機管理. 地研ニュース 2005; 2005.8.11.

次長

Deputy Director-General

### 抄録のある学会報告

林謙治. 青少年の生活習慣と健康. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 和光. (会長講演)

久保秀一, 井上孝夫, 山崎彰美, 羽田明, 加藤則子, 林謙治. 女性が働きかつ多くの子どもを持つ条件とは何か次世代育成策における保健所の役割. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8 特別附録): 492.

武村真治, 曾根智史, 林謙治. イギリスにおける公衆衛生専門家の養成システム. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 492.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金厚生労

働科額特別研究事業「終末期における望ましい医療の内容に関するガイドラインの策定に関する研究」平成16年度報告書. 東京: 2005.

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上) に関する研究」平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究ヒトゲノム遺伝子治療研究事業「ヒトゲノム研究事業の企画と評価に関する研究」平成16年度報告書. 東京: 2005.

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「未成年者の喫煙実態状況に関する調査研究」平成16年度報告書. 東京: 2005.

技術評価部

Department of Technology Assessment and Biostatistic

### 学術雑誌に発表した原著論文

丹後俊郎. ごみ焼却施設周辺におけるダイオキシン汚染に起因する周産期の健康影響. 保健医療科学 2005; 54(1): 46-53.

山岡和枝, 丹後俊郎, 渡辺満利子. 糖尿病の食事療法の進歩 糖尿病予防のための栄養教育の効果の評価. New Diet Therapy 2005; 20(5): 26-9.

### 学術雑誌に発表した総説

横山徹爾. 【生活習慣病のすべて】 生活習慣病を理解するための基礎知識 生活習慣病と動脈硬化. 臨床看護. 2005; 31(13): 1871-5.

横山徹爾, 田中平三. 【虚血性心疾患2006】 日本人における虚血性心疾患の疫学. 成人病と生活習慣病. 2005; 35(10): 1081-6.

## 著書

山岡和枝. 疫学 (3) リスク指標と統計学推定・検定. 矢野栄二, 大脇和浩, 編著. ケースで学ぶ公衆衛生学. 東京: 篠原出版新社; 2005. p.33-40.

横山徹爾. 調査地区および調査対象者の抽出方法. 日本栄養改善学会, 編. 食事調査マニュアル. 東京: 南山堂; 2005. p.13-15.

横山徹爾, 田中平三. 疫学における因果論. 青山英康, 監修. 今日の疫学 (第2版). 東京: 医学書院; 2005. p.22-49.

横山徹爾. 衛生の主要指標. 厚生統計協会, 編. 図説・国民衛生の動向2005. 東京: 厚生統計協会; 2005. p.24-37.

## 抄録のある学会報告

相田潤, 安藤雄一, 青山旬, 丹後俊郎, 森田学. 地域相関研究による3歳児う蝕有病者率の経年変化と歯科保健水準に関する指標との関連—経験ベイズ推定値を用いたアプローチ. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1; 大津. 同講演集. p.138.

三砂ちづる, 嶋根卓也, 野口真貴子, 竹内正人, 菅原ますみ, 福島富士子, 丹後俊郎, 榊原洋一, 小林秀資. TBE変革につながるような産経験の決定因子—出産ケアについて. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1; 大津. 同講演集. p.241.

山岡和枝, 丹後俊郎. 糖尿病予防の栄養教育に関するシステマティック・レビューとメタ・アナリシス. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1; 大津. 同講演集. p.197.

丹後俊郎, 高橋邦彦, 横山徹爾. 疾病の集積地域同定のための新しい検定法. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1; 大津. 同講演集. p.180.

横山徹爾, 高橋邦彦, 丹後俊郎. Flexible scan法を用いた疾病集積地域同定ソフトウェアの開発と応用例. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1; 大津. 同講演集. p.181.

岡本和士, 小橋元, 鷲尾昌一, 阪本尚正, 佐々木敏, 三宅吉博, 横山徹爾, 稲葉裕. 筋萎縮性側索硬化症発症要因解明に関する症例対照研究. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1.21; 大津. 同講演集. p.73.

齋藤京子, 横山徹爾, 藤井絃子, 由田克士, 吉池信男. フラッシング反応別にみた飲酒による食欲の変化. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1.22; 大津. 同講演集. p.212.

松下勲, 高橋邦彦, 西川正子, 丹後俊郎. 薬物動態モデルにおける個体間変動および個体内変動が最大効果モデルの推定精度に及ぼす影響. 2005年度日本計量生物学会シンポジウム; 2005.5.21; 横浜. 講演予稿集. p.37-42.

山岡和枝, 吉野諒三. 東アジアの人々の健康感と関連する要因. 日本行動計量学会第33回大会; 2005.8.26; 長岡. 発表論文抄録集. p.70-73.

角田弘子, 山岡和枝. 健康満足度に及ぼす人間関係における信頼感の影響. 2004年日本調査. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52

(8 特別附録): 415.

渡辺満利子, 山岡和枝, 丹後俊郎, 横塚昌子, 粕谷美佐子. 青少年における食生活の現状評価と効果的食育のための調査票の開発. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 364.

安達美佐, 山岡和枝. 食生活改善のための栄養情報の活用推進に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 981.

土井徹, 安藤雄一, 磯野威, 岡本悦司, 増田宏, 望月友美子, 山岡和枝. 国立保健医療科学院のインターネットによる遠隔教育. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 491.

横山徹爾. 歯科補綴研究に役立つ統計学 医学統計のつづ. 日本補綴歯科学会第114回学術大会; 2005.9; 新潟. p.46.

大坪浩一. 地域医療計画の研究の推移からみた「医療圏」の概念の誤解と展望. 日本健康科学学会第21回学術大会; 2005.10; 東京. Health Sciences. 2005; 21(4): 461.

大坪浩一, 信川益明, 長屋憲. 地域医療計画における計画圏域の導出方法と資源配分モデルの提案. 第34回日本医療福祉設備学会; 2005.11; 東京. 学会予稿集 p.129.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

丹後俊郎, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「ダイオキシン類汚染に起因する悪性新生物死亡の超過リスクに関するコホート研究」平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3.

丹後俊郎, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「ダイオキシン類汚染に起因する悪性新生物死亡の超過リスクに関するコホート研究」平成14-16年度総合研究報告書. 2005.3.

丹後俊郎, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3.

丹後俊郎, 高橋邦彦. メタ・アナリシスにおける2つの回帰直線の傾きの比の信頼区間. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.19-22

丹後俊郎, 高橋邦彦. 集積地域同定のための新たな検定手法の開発に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地理及び社会状況を加味した地域分析方法の開発に関する研究」(主任研究者: 浅見泰司) 平成16年度分担研究報告書. 2005, p3-1~3-6.

丹後俊郎. 情報の伝播の統計モデルに関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における新たな普及啓発方法の開発に関する研究」(主任研究者:

浮田徹嗣) 平成16年度分担研究報告書. 2005, p11-14, 27-31.

山岡和枝, 丹後俊郎. 糖尿病予防のための栄養教育効果の評価とメタ・アナリシスに関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成16年度分担研究報告書. 2005. p.49-54.

山岡和枝. 「医療」と「文化」の多次元連関に関する統計科学的研究. 平成14年度ー平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)) 研究成果報告書(研究代表者: 山岡和枝)

山岡和枝, 李相侖. 国際比較調査データの安定性についての検証ー. Pp15-25 吉野諒三編. 東アジア価値観国際比較調査ー「信頼感」の統計科学的解析 2003年度韓国調査報告書(主任研究者: 吉野諒三) 2005.3

横山徹爾. 循環器疾患の危険因子・予防因子に関するメタ・アナリシス. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.45-48.

横山徹爾. 標本抽出方法及びデータ解析手法の検討. 厚生労働省科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民健康・栄養調査における各種指標の設定及び精度に関する研究」(主任研究者: 吉池信男) 平成16年度研究報告書. 2005.3. p.9-20.

横山徹爾. 間脳下垂体機能障害の予後調査法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「間脳下垂体機能障害調査研究班」(主任研究者: 千原和夫) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3. p.85-89.

横山徹爾, 中島正光, 江石義信, 三宅吉博, 佐々木敏, 岡本和土, 小橋元, 阪本尚正, 鷺尾昌一. サルコイドーシスの症例対照研究計画. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究班」(主任研究者: 稲葉裕) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3. p.35-37.

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

高橋邦彦, 横山徹爾, 丹後俊郎. FleXScan: Software for the flexible spatial scan statistic. 国立保健医療科学院, 2005.

### Originals

Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Sasaki S, Yokoyama T, Miyake Y, et al. Descriptive epidemiology of amyotrophic lateral sclerosis in Japan, 1995-2001. J Epidemiol 2005 Jan; 15: 20-3.

Sakamoto N, Kono S, Wakai K, Fukuda Y, Satomi M, Shimoyama T, Inaba Y, Miyake Y, Sasaki S, Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Yokoyama T, et al. Dietary risk factors for inflammatory bowel disease: a multicenter case-control study in Japan. Inf Bowel Dis 2005 Feb; 11: 154-63.

Tango T. Linear equations with random variables. Statistics in Medicine 2005; 24: 3213-3222.

Yamaoka K and Tango T. Efficacy of lifestyle education to prevent type 2 diabetes? A meta-analysis of randomized controlled trials. Diabetes Care 2005; 28: 2780-2786.

Nomura K., Yamaoka K., Nakao M. Yano E. Impact of insomnia on individual health dissatisfaction in Japan, South Korea, and Taiwan. SLEEP 2005; 28: 1302-6.

Matsushita Y, Yokoyama T, Homma T, Tanaka H, Kawahara K. Relationship between the ability to recognize energy intake and expenditure, and blood sugar control in type 2 diabetes mellitus patients. Diabetes Res Clin Practice 2005 Mar; 67: 220-6.

Tango T, Takahashi K. A flexibly shaped spatial scan statistic for detecting clusters. International Journal of Health Geographics 2005; 4: 11.

Yokoyama T, Saito K, Lwin H, Yoshiike N, Yamamoto A, Matsushita Y, et al. Epidemiological Evidence that Acetaldehyde Plays a Significant Role in the Development of Decreased Serum Folate Concentration and Elevated Mean Corpuscular Volume in Alcohol Drinkers. Alcohol Clin Exp Res 2005 Apr; 29(4): 622-30.

Ohwada H, Nakayama T, Suzuki Y, Yokoyama T, Ishimaru M. Energy Expenditure in Males with Mental Retardation. J Nutr Sci Vitaminol. 2005 Apr; 51: 68-74.

Lwin H, Yoshiike N, Yokoyama T, Saito K, Date C, Tanaka H. The relationships between plasma total homocysteine and selected atherosclerotic risk factors according to the C677T methylenetetrahydrofolate reductase gene in Japanese. Eur J Card Prev Rehabil 2005 Apr; 12(2): 182-4.

Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, et al. Occupational and environmental factors and idiopathic pulmonary fibrosis in Japan. Annals Occup Hygiene 2005 Apr; 49(3): 259-65.

Yokoyama M, Yokoyama A, Yokoyama T, Funazu K, Hamana G, Kondo S, et al. Hangover Susceptibility in Relation to Aldehyde Dehydrogenase-2 Genotype, Alcohol Flushing, and Mean Corpuscular Volume in Japanese Workers. Alcohol Clin Exp Res 2005 Jul; 29(7): 1165-71.

Yokoyama A, Omori T, Yokoyama T, Tanaka Y, Mizukami T, Matsushita S, et al. Esophageal Melanosis, an Endoscopic Finding Associated with Squamous Cell

Neoplasms of the Upper Aerodigestive Tract, and Inactive Aldehyde Dehydrogenase-2 in Japanese Alcoholic Men. *J Gastroenterol* 2005 Jul; 40: 676-84.

Takimoto H, Yokoyama T, Yoshiike N, Fukuoka H. Increase in low-birth-weight infants in Japan and associated risk factors, 1980-2000. *J Obstetr Gynaecol Res.* 2005 Aug; 31(4): 314-22.

Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, et al. Case-control study of medical history and idiopathic pulmonary fibrosis in Japan. *Respirol.* 2005 Sep; 10(4): 504-9.

Kamei Y, Lwin H, Saito K, Yokoyama T, Yoshiike N, Ezaki O, Tanaka H. The 2.3 genotype of ESRRA23 of the ERR alpha gene is associated with a higher BMI than the 2.2 genotype. *Obes Res.* 2005 Oct; 13(10): 1843-4.

Yokoyama A, Yokoyama T, Kumagai Y, Kato H, Igaki H, Tsujinaka T, et al. Mean Corpuscular Volume, Alcohol Flushing and the Predicted Risk of Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus in Cancer-free Japanese Men. *Alcohol Clin Exp Res.* 2005 Oct; 29(10): 1877-83.

Hojo M, Miwa H, Yokoyama T, Ohkusa T, Nagahara A, Kawabe M, et al. Treatment of functional dyspepsia with antianxiety or antidepressive agents: systematic review. *J Gastroenterol.* 2005 Nov; 40(11): 1036-42.

### Proceedings with abstracts

Yokoyama T, Tango T. Blood levels of vitamin C and the subsequent risk of stroke in cohort studies: a systematic review. In: *International Symposium: Systematic Review and Meta-Analysis*; Feb 25 2005; Wako, Saitama, Japan. *Proceedings.* 2005. p.20.

Yamaoka K, Tango T. Effects of dietary education to prevent type 2 diabetes mellitus: A meta-analysis. In: *International Symposium: Systematic Review and Meta-Analysis*; Feb 25 2005; Wako, Saitama, Japan. *Proceedings.* 2005. p.16.

Lwin H, Yokoyama T, Yoshiike N, Saito K, Date C, Yamamoto A, Tanaka H. Effects of daily smoking on plasma total homocysteine and B-vitamins levels in Japanese men. In: 第15回日本疫学会学術総会 ; 2005.1.22 ; 大津. 同講演集. p.204.

Takahashi K, Tango T. Confidence intervals for the ratio of regression slopes in meta-analysis. In: *International Symposium: Systematic Review and Meta-Analysis*; Feb 25 2005; Wako, Saitama, Japan. *Proceedings.* 2005. p.27.

Yamaoka K. Cross national study on health and culture in the East Asia. In: *37th International Institute of Sociology*; Ju. 9 2005; Stockholm. *Proceedings.* 2005. p.38.

Tango T. A new system of linear equations with the unknowns assumed to be unobserved values of random variables. In: *The 26 th Annual Conference of International Society of Clinical Biostatistics*; Aug 23 2005; Seged, Hungary. *Proceedings.* 2005. p.68.

Watanabe M, Yamaoka K, Yokotsuka M, Tango T. Effects on dietary energy intakes by a new dietary education program to prevent diabetes in a high-risk group of Japanese male workers: Result from randomized controlled trial study. In: *13th Biennial Arahe Congress: Developing Values, Innovation and Enterprise in Home Economics*; Aug 2-5 2005; Orchard Hotel, Singapore. *Proceedings.* 2005. p.11.

Yamaoka K, Tango T. Concordance between meta-analyses and a mega-trial: Examples from the dietary education for preventing type 2 diabetes. In: *26th Annual Conference of the International Society for Clinical Biostatistics*; Aug 20-25 2005; Szeged, Hungary. *Proceedings.* 2005. p.49.

Yokoyama T, Yokoyama A, Omori T. Alcohol flushing, alcohol and aldehyde dehydrogenase genotypes, and risk of esophageal squamous cell carcinoma in Japanese. In: *Zhengzhou University International Symposium on Esophageal Cancer*; Aug 27 -30 2005; Zhengzhou, China. *Proceedings.* 2005. p.175-182.

Tango T, Takahashi K. FleXScan: A flexible scan statistic for detecting clusters. In: *Geomed 2005*; Sep 15-17 2005; Cambridge, UK. *Abstracts.* 2005. p.1.

### Visual Media

Takahashi K, Yokoyama T, Tango T. FleXScan v1.1: Software for the flexible scan statistic. *National Institute of Public Health, Japan*, 2005.

## 政策科学部

### Department of Policy Sciences

#### 学術雑誌に発表した総説

長谷川敏彦. 包括医療下でのクリティカルパスの意義. *外科治療* 2005; 92: 512-6.

長谷川敏彦. 精神科病院と医療安全. *精神科病院マネジ*

メント 2005; 1: 2-5.

長谷川敏彦. 超高齢社会を乗り切れるかは、この10年にかかっている. *月刊地域保健* 2005.5; 2-5.

長谷川敏彦. 「DPCは粗診粗療を生まず」医療の質の把握

と向上には厚い壁. 日経メディカル 2005.6; 31.

長谷川敏彦. 医師は過剰なのか? 不足なのか? OECD 29か国中, 医師数26位 先進各国の医師増加の動きに驚き. ばんぼう 2005.7; (291): 74-7.

長谷川敏彦. 「医師不足」の真相. 日経メディカル; 2005. 9; 45.

秋山昌範, 長谷川敏彦, 長谷川友紀. これからの医療情報・システム・評価. 病院 2005.10; 64(1): 45-56

長谷川敏彦. 医療の質, 新たな展望. 日本病院会雑誌 2005; 52(12): 1744-77.

長谷川敏彦. 糖尿病疾病管理には「グランドデザイン」と「エビデンス」を. DITN 2005.10; 1.

長谷川敏彦. 東方医学に期待されるもの 医療行政の立場から. 東方医学 2005; 21(1): 11-7.

長谷川敏彦. 循環器疾患の最新先進医療 先端医療と政策医療の並立. 医療 2005; 59(3): 127-9.

石川雅彦. 医療安全対策とヒューマンエラー. クリニカルプラクティス 2005; 24(8): 897-900.

石川雅彦, 長谷川敏彦, 種田憲一郎. 医療事故未然防止システム -HFMEA (医療における失敗モード影響分析法) の適用-. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(3): 571-5.

石川雅彦, 前沢政次. 地域住民の参画による「こころの健康増進活動」の誘導と評価に関する研究. 日本プライマリ・ケア学会誌 2005; 28(3): 175-6.

児玉知子, 杉下智彦, ルーシー・ンカヤ, カール・リモ. 東アフリカ, タンザニア共和国におけるHIV/AIDSのVCTについて. 国際保健医療 2005; 20(Suppl.): 108.

## 著書

長谷川敏彦. 21世紀の日本の新健康政策「健康日本21」. 第1章 世界の健康増進政策「概要と進行状況」. ヘルスプロモーションの科学-第4回「栄養とエイジング」国際会議. 東京: 建帛社; 2005. p.3-8.

## 抄録のある学会報告

長谷川敏彦. シンポジウム 包括医療の中での糖尿病診療-糖尿病疾病管理モデルと医療経済. 第39回糖尿病学の進歩; 2005.2.18-19; 仙台.

Toshihiko Hasegawa, MD, PhD. Is Health Resource Enough for Japan - Answer is too much, but not Enough for Safety & Quality - The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society; 2005.3.19-21; Yokohama.

長谷川敏彦. わかりやすい人事が病院を変える 戦略的人事管理の提案. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 84. (特別パネルディスカッション)

松本邦愛, 長谷川敏彦. 医師の地域偏在と診療科偏在に関する研究. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.

6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 215.

種田憲一郎, 石川雅彦, 長谷川敏彦. コンピテンシーに基づいた医療安全教育. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 219.

長谷川敏彦, 清水佐知子. 臨床指標を用いた医療の質評価研究. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 254.

長谷川敏彦, 松本邦愛. 地域医療計画の新たな提案と施設間連携. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 263.

石川雅彦, 長谷川敏彦, 種田憲一郎. 事故報告分析システム-Healthcare FMEA (HFMEA) の適用. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 2005; 6(1): 283.

石川雅彦, 長谷川敏彦, 種田憲一郎. 手術における患者同定-VAにおける5Step法の有用性. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 2005; 6(1): 285.

山本美和子, 長谷川敏彦, 石川雅彦, 種田憲一郎. 医療事故発生時の説明とは. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 214.

清水佐知子, 長谷川敏彦. 患者属性及び入院時の各シーンが患者満足感へ与える影響. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 296.

西尾由記子, 種田憲一郎, 石川雅彦, 長谷川敏彦. 患者安全分化の現状診断及びインシデントレポートの関連. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 357.

関山真美子, 長谷川敏彦, 石川雅彦, 種田憲一郎. 患者満足度と職員満足度とヒヤリハット報告数の関連分析. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 376.

古田康之, 石川雅彦, 長谷川敏彦. 誤薬予防の組織自己診断ツールの開発. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 363.

長谷川敏彦. 医療技術評価 (医療サービス供給学) の観点から. 第105回日本外科学会定期学術集会; 2005.5.11-13; 愛知. 日本外科学会雑誌106巻臨時増刊号 2005; 106: 97.

長谷川敏彦. 糖尿病疾病管理にはグランドデザインとエビデンスを. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会; 2005.5.12-14; 兵庫. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集 2005; 48(Suppl.2): S-16. (特別講演)

長谷川敏彦. 医療の質, 新たな展望. 第55回日本病院学会; 2005.7.18-19; 愛知. 第55回日本病院学会プログラム講演集 2005: 155.

長谷川敏彦. 大きく変わる病院経営…焦点は「資源」か

ら「結果」へ. 日本職業・災害医学会会誌. 2005; 53(臨増): 別111.

長谷川敏彦, 松本邦愛. 地域医療計画における各県別評価指標の提唱. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 502.

松本邦愛, 長谷川敏彦. 小児科医師数の地域間格差の分析. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 503.

池田奈由, 長谷川敏彦, 平尾智. 1960年出生コホートの40歳死亡率の都道府県較差の要因に関する生涯疫学的分析. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 276.

平尾智広, 星野礼子, 辻よしみ, 池田奈由, 長谷川敏彦. 平均寿命算出に与える居住地人口と住民登録地人口の影響. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 277.

雑賀公美子, 長谷川敏彦, 松本邦愛. 虚血性心疾患の開胸手術の技術集積性に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 287.

清水佐知子, 長谷川敏彦. 主成分分析法による退院患者満足因子の抽出に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 288.

佐藤敏彦, 池田奈由, 細井香, 長谷川敏彦. インタビュー調査による保健医療システム評価—世界健康調査による応需性の結果 (1)—. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 288.

細井香, 池田奈由, 佐藤敏彦, 長谷川敏彦. わが国における応需性の評価に関連する因子—世界健康調査による応需性の結果 (2)—. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 289.

近藤正英, 長谷川敏彦. 計画立案ツールとしてのGunnの完全実施の条件の応用—医療計画制度の事例検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 509.

長谷川敏彦, 松本邦愛. 需要に基づく医師数地域間格差分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌 2005; 60(2): 299.

長谷川敏彦, 松本邦愛, 長谷川友紀. 地域医療計画のためのライフコース・アプローチを用いた県別評価. 日本衛生学雑誌. 2005; 60(2): 299.

松本邦愛, 長谷川敏彦. 医療資源移転と県民所得から見た公平性の分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌. 2005; 60(2): 299.

長谷川敏彦, 清水佐知子. 患者満足度に影響を及ぼす患者属性の分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌 2005; 60(2): 306.

長谷川敏彦, 池田奈由, 渡邊智之, 宮尾克, 平尾智広. ポ

ード法による沖縄県と全国平均の平均寿命格差の原因に関する分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌 2005; 60(2): 301.

池田奈由, 佐藤敏彦, 長谷川敏彦. 我が国の保健医療サービスへの満足度の要因分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌 2005; 60(2): 306.

池田奈由, 長谷川敏彦, 平尾智広. 都道府県別寿命・死亡歴史変遷パターンに関するクラスター分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌 2005; 60(2): 301.

浅野昌彦, 長谷川敏彦. 都道府県版健康日本21計画の目標値分析. 第75回日本衛生学会総会; 2005.3.27-30; 新潟. 日本衛生学雑誌. 2005; 60(2): 298.

長谷川敏彦. 日本の現状と未来. 国際高齢者学; 2005.09.23; スイス.

長谷川敏彦. 医療の質, 新たな展望. 第55回日本病院学会; 2005.7.18-19; 名古屋. 日本病院学会雑誌 2005; 52(12): 1744-1776. (特別講演)

石川雅彦: 卒前看護教育における医療安全教育のストラテジー: 日本看護学教育学会第15回学術集会; 2005.7.24; さいたま. 日本看護学教育学会誌 2005.7; 15: 202.

石川雅彦, 長谷川敏彦, 種田憲一郎. 卒前医学教育における医療安全教育ストラテジー. 第37回日本医学教育学会総会; 2005.7.30; 東京. 医学教育(増刊) 2005; 36: 70.

石川雅彦, 長谷川敏彦. 医療の安全性と公衆衛生の役割—職種横断的な教育・研修における公衆衛生領域の参画. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.15; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8): 505.

石川雅彦, 長谷川敏彦. 医療安全におけるクルー・リソース・マネジメント (CRM) の応用領域. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.28; 東京. 病院管理 2005; 42: 151.

石川雅彦. パネルディスカッション 医療におけるCRMの活用. 第2回医療安全成功事例大会; 2005.10.29, 横浜, 第2回医療安全成功事例大会抄録集 2005: 36-37.

児玉知子, 杉下智彦, ルーシー・ンカヤ, カール・リモ. 東アフリカ, タンザニア共和国におけるHIV/AIDSのVCTについて. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌2005; 52 (8 特別附録): 1054.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

長谷川敏彦. 厚生労働科学特別研究「医師需給と医学教育に関する研究」(主任研究者: 長谷川敏彦. 課題番号: H16-特別-031) 平成17年度報告書. 東京: 2005.

石川雅彦. 医療の質と医師需給「卒前・卒後医学教育」. 厚生労働科学特別研究「医師需給と医学教育に関する研究」(主任研究者: 長谷川敏彦. 課題番号: H16-特別-031) 平成17年度報告書. 東京: 2005.

長谷川敏彦. 医師としてのコンピテンシー. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療の質の確保のためのコアとなる職種横断的資質に関する研究」(主任

研究者：平尾智広. H16－医療－043) 平成16年度総括・分担研究報告書. 東京：2005.3.

石川雅彦. 病院職員に対する医療安全教育の現状調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療の質の確保のためのコアとなる職種横断的資質に関する研究」(主任研究者：平尾智広. H16－医療－043) 平成16年度総括・分担研究報告書. 東京：2005.3.

石川雅彦. 患者参加の医療安全対策についての検討－患者参加の医療安全対策調査と「外来診療準備メモ」の有用性. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療安全の評価指標の開発と情報利用に関する研究」(主任研究者：長谷川友紀. H15－医療－033) 総括・分担研究報告書. 東京：2005.3.

石川雅彦. レジデントへの患者安全カリキュラム. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「コア・コンペタンシーに基づいた医療安全教育についての研究」(主任研究者：長谷川友紀. H16－医療－038) 総括研究報告書. 東京：2005.3.

児玉知子. 法的・倫理的考察－英国例－. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「終末期医療の質の向上に関する研究」(主任研究者：林謙治. H17－医療－001) 平成17年度報告書. 東京：2005.

児玉知子. 終末期医療のエビデンスと医療供給体制につ

いて. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「終末期医療の質の向上に関する研究」(主任研究者：林謙治. H17－医療－001) 平成17年度報告書. 東京：2005.

長谷川敏彦. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者：長谷川敏彦. H17－医療－一般－014) 平成17年度報告書. 東京：2005.

児玉知子. 女性医師の活動性評価について. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者：長谷川敏彦. H17－医療－一般－014) 平成17年度報告書. 東京：2005.

児玉知子. 国内における動向. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者：長谷川敏彦. H17－医療－一般－014) 平成17年度報告書. 東京：2005.

長谷川敏彦. がん研究助成金「公的がん専門医療機関の機能と経営の評価に関する研究」(主任研究者：長谷川敏彦. 課題番号：17－20) 平成17年度報告書. 東京：2005.

児玉知子. 公的がん専門医療機関の役割に関する研究. がん研究助成金「公的がん専門医療機関の機能と経営の評価に関する研究」(主任研究者：長谷川敏彦. 課題番号：17－20) 平成17年度報告書. 東京：2005.

## Originals

Kitamura Y, Ohno Y, Kasahara S, Murata K, Sugiyama H, Hasegawa T. Statistical estimation of the number of breast cancer patients with disabilities resulting from surgery. Breast Cancer. 2005;4; 12(2): 130-4.

Kimball AM, Wong KY, Taneda K. An evidence base for international health regulations: quantitative

measurement of the impacts of epidemic disease on international trade. Revue scientifique et technique (International office of Epizootics) 2005; 24(3). (in press)

Taneda K. The Sarin nerve gas attack on the Tokyo subway system: hospital response to mass casualties and psychological issues in hospital planning. Traumatology 2005; 11(2): 75-85.

## 経営科学部

### Department of Management Science

#### 学術雑誌に発表した原著論文

五味郁子, 杉山みち子, 梶井文子, 大越ひろ, 安藤高朗, 小山秀夫. 複合型高齢者ケア施設におけるタンパク質・エネルギー低栄養状態. 日本健康・栄養システム学会誌 2005; 4(2): 147-55.

小山秀夫. 国立保健医療科学院における「病院管理研修」の実績と課題. 病院経営のプロをどう養成するのか. 病院 2005; 64(8): 619-23.

藤林慶子, 小山秀夫. 介護保険施設における介護報酬改定に対する意識および経営意識などに関する研究. 厚生の指標 2005; 52(15): 1-6.

熊川寿郎, 高野優子, 堀口京子, 馬渡法子, 金沢千恵子, 鈴木まさ代, 他. バランスト・スコアカード (BSC) を活用した医療リスクマネジメントシステムの構築. 第2回リ

スクマネジメント論文コンクール DREAM AWARD 2005 最優秀論文賞受賞授賞 2005.

#### 学術雑誌に発表した総説

小山秀夫. 介護保険と医療保険の関係. 社会保険旬報 2005; (2231): 6-10.

小山秀夫. 介護保健制度の持続性向上の課題. 月刊介護保険 2005; (109): 22-23.

小山秀夫. 介護保険制度の見直しを理解して質の確保や職員の配置に力の集結を. ～療養病床にとっての介護保険制度改正～介護保険制度見直しでこう変わる医療・介護現場. LTC 2005; (46): 41-45.

小山秀夫. マネジメントの時代と介護保険. マネジメントで読み解く介護保険(1). 介護保険情報 2005; 6(1): 26-29.

小山秀夫. 「介護サービス情報の公表」と情報開示. 東京の国保 2005; 46(5): 8-12.

小山秀夫. 経営用語で改正法案を読んでみる. マネジメントで読み解く介護保険(2). 介護保険情報 2005; 6(2): 30-33.

柳澤直子, 小山秀夫. 高齢者の人権の扱われかたと権利擁護. 抑制廃止の取り組みを見直す. 月刊総合ケア 2005; 15(5): 17-20.

小山秀夫. システムの目標と問題. マネジメントで読み解く介護保険(3). 介護保険情報 2005; 6(3): 30-33.

小山秀夫. 市町村権限の強化. マネジメントで読み解く介護保険(4). 介護保険情報 2005; 6(4): 36-39.

小山秀夫. 介護保険制度見直しの方向性を理解し地域医療の一環として存在価値のある経営を. 療養病床の役割. WAM 2005; (487): 3-8.

小山秀夫. 栄養ケア・マネジメント. マネジメントで読み解く介護保険(5). 介護保険情報 2005; 6(5): 48-51.

小山秀夫. 栄養ケア・マネジメント革命. 月刊介護保険 2005; (115): 22-23.

小山秀夫. インセンティブ. マネジメントで読み解く介護保険(6). 介護保険情報 2005; 6(6): 30-33.

小山秀夫. 介護労働の質のマネジメント. マネジメントで読み解く介護保険(7). 介護保険情報 2005; 6(7): 30-33.

小山秀夫. 経営利益の適正化. マネジメントで読み解く介護保険(8). 介護保険情報 2005; 6(8): 34-37.

小山秀夫. 介護保険施設のドメイン. マネジメントで読み解く介護保険(9). 介護保険情報 2005; 6(9): 46-49.

岡本悦司. レセプト電子化と情報活用ー医療保険改革の最優先課題. 社会保険旬報 2005; (2260): 10-15.

岡本悦司. 個人情報保護法と医療保険制度. 東京の国保 2005; 46(6): 8-12.

岡本悦司. 社会医療診療行為別調査で読む診療報酬 急性期入院加算・紹介外来加算から 入院の医療連携を見る. 医療経営情報 2005; 22(1): 27-29.

岡本悦司. DPCが病院経営に及ぼした影響. 医療経営情報 2005; 22(2): 15-19.

岡本悦司. 生活習慣病指導管理料を迫る. 医療経営情報 2005; 22(3): 19-22.

岡本悦司. レセプト審査 会計検査院が指摘する問題点 明らかになった審査の内容と考え方. 医療経営情報 2005; 22(5): 10-4.

岡本悦司. レセプト審査 会計検査院が指摘する問題点 処置料(人工腎臓). 医療経営情報 2005; 22(6): 20-3.

岡本悦司. レセプト審査 会計検査院が指摘する問題点 各種施設基準. 医療経営情報 2005; 22(8): 20-3.

岡本悦司, 木村真也. レセプト情報を活用した有害事象検出データマイニング手法とその応用ーフェニルプロパノラミン(PPA)と脳出血. 薬剤疫学. 2005; 10(Suppl.): 54-5.

熊川寿郎. BSCはヘルスケアシステムに何をもたらすのかー看護管理の何を変えるのかー. 看護管理 2005; 15(1):

40-4.

熊川寿郎. バランススコアカード導入のポイント第2回 看護管理者の心構えとBSCのコモンセンス. 看護部長通信 2005; 2(6): 76-9.

熊川寿郎. 高齢社会, ユビキタス社会の看護必要度. ナースマネジャー 2005; 7(2): 6-15.

熊川寿郎. BSCはストレス・スコアカード? バランススコアカード導入のポイント第3回. 看護部長通信 2005; 3(1): 56-9.

熊川寿郎. バランス・スコアカードによる戦略的マネジメントシステムの構築 看護管理にどう活かすか. 看護管理 2005; 15(5): 348-56.

高野優子, 古田愛子, 馬渡法子, 堀口京子, 熊川寿郎. 看護管理におけるバランスト・スコアカードの導入成果. 看護管理 2005; 15(5): 379-84.

上野真弓, 菊池たき子, 深澤英代, 高野優子, 馬渡法子, 熊川寿郎. 病棟におけるバランスト・スコアカード導入の成果. 看護管理 2005; 15(5): 385-91.

堤福子, 加藤美保, 植松由起子, 戸井田奈美, 中薫, 高野優子, 熊川寿郎. 看護科安全推進委員会におけるバランスト・スコアカード導入の成果. 看護管理 2005; 15(5): 392-7.

熊川寿郎. バランス・スコアカードの導入ポイントー萩市民病院のBSCの取り組みを踏まえて. 看護部マネジメント 2005; (208): 15-23.

熊川寿郎. バランススコアカード導入のポイント第4回 BSCに取り組む前にやるべきこと. 看護部長通信 2005; 3(2): 56-9.

熊川寿郎. バランススコアカード導入のポイント第5回 BSCによる戦略マネジメントシステムの可視化ーシステムの可視化とコミュニケーションー. 看護部長通信 2005; 3(3): 86-9.

平山佳伸, 熊川寿郎, 飯塚悦功, 桑嶋健一, 小宮山靖, 松井研一, 栗原雅直, 清水直容, 椿広計. 医薬品とその開発をめぐる様々なリスク (座談会). 臨床評価 2005; 32(2・3): 345-74.

熊川寿郎. バランススコアカード導入のポイント第6回 BSCとベンチマーキング(Benchmarking). 看護部長通信 2005; 3(4): 102-5.

熊川寿郎. バランススコアカード導入のポイント第7回 大規模病院の看護部門におけるBSC導入・運用のポイントーファシリテーターの重要性についてー. 看護部長通信 2005; 3(5): 92-6.

## 著書

岡本悦司. 保健医療論. 岡本悦司, 小橋元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 横山英世, 編. subnote保健医療論・公衆衛生学. 東京: メディックメディア; 2005. p.2-137.

岡本悦司. 研究実施にあたっての倫理的配慮. 横山美江編. 看護研究の進め方・まとめ方. 東京: 医歯薬出版; 2005.

p92-99.

熊川寿郎. II BSCとリスクマネジメント. 高橋淑郎監修, 日本能率協会総合研究所編集. 病院価値を高めるバランス・スコアカード-BSC推進者のための実践ガイドブッカー. 東京: メディカル・パブリケーションズ; 2005. p.33-45.

### 抄録のある学会報告

長澤紀美子, 小山秀夫. イギリス長期ケアにおける医療と社会的ケアの供給の分断に対する戦略の検討. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 同演題抄録集. 病院管理 2005; 42(suppl): 101.

寛淳夫, 小山秀夫, 藤林慶子. 特殊疾患療養病棟等の現状把握に関する調査分析. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 同演題抄録集. 病院管理 2005; 42(Suppl.): 194.

岡本悦司. レセプト傷病分析の原理と手法の開発に関する研究(奨励賞受賞講演). 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 193.

岡本悦司, 谷原真一, 小林廉毅. レセプト情報を活用した腸管感染症動向のマッピングの試み. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 268.

岡本悦司, 木村真也. レセプト情報を活用した有害事象検出データマイニング手法とその応用—フェニルプロパノラミン (PPA) と脳出血. 第11回日本薬剤疫学会学術総会; 2005.11.12-13; 福井. 薬剤疫学 2005; 10(Suppl): S54-55.

岡本悦司. 喘息有病率のコホート分析. 第24回日本思春期学会総会; 2005.8.20-22; 和光. 抄録集. 151.

熊川寿郎. 戦略的病院経営とBSC. 第5回医療マネジメント学会東京地方会学術集会; 2005.2.19; 東京. 同抄録集. 2005. p.20-1.

市川幾恵, 塚原恭子, 熊川寿郎. バランス・スコアカード (BSC) と病院機能評価. 第5回医療マネジメント学会東京地方会学術集会; 2005.2.19; 東京. 同抄録集. 2005. p.122.

馬渡法子, 高野優子, 堀口京子, 熊川寿郎. BSCによる看護管理のPDCAサイクルの可視化. 第5回医療マネジメント学会東京地方会学術集会; 2005.2.19; 東京. 同抄録集. 2005. p.123.

上野真弓, 菊地たき子, 深澤英代, 梅本健三, 木下さゆり, 馬渡法子, 熊川寿郎. バランス・スコアカード (BSC) による病棟管理の実践. 第5回医療マネジメント学会東京地方会学術集会; 2005.2.19; 東京. 同抄録集. 2005. p.124.

植松由起子, 鳥井幸子, 村松典子, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. BSC (バランス・スコアカード) による安全パトロールの成果測定. 第5回医療マネジメント学会東京地方会学術集会; 2005.2.19; 東京. 同抄録集. 2005. p.127.

堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. BSCによる豊島病院看護

科安全推進委員会の活動報告. 第5回医療マネジメント学会東京地方会学術集会; 2005.2.19; 東京. 同抄録集. 2005. p.128.

市川幾恵, 熊川寿郎, 塚原恭子. 病院機能評価とバランス・スコアカード (BSC) 導入成果との関連性. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 213.

高野優子, 馬渡法子, 堀口京子, 古田愛子, 熊川寿郎. 看護管理におけるバランス・スコアカード (BSC) の導入成果. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 354.

上野真弓, 菊池たき子, 深澤英代, 梅本健三, 木下さゆり, 熊川寿郎. バランス・スコアカード (BSC) による病棟管理の実践とその成果. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 355.

堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. バランス・スコアカード (BSC) による安全推進委員会の活動成果. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 362.

植松由起子, 鳥井幸子, 村松典子, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. バランス・スコアカード (BSC) による安全パトロールの成果測定. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 362.

加藤美保, 山崎照代, 菊池たき子, 宮本茂子, 金沢千恵子, 熊川寿郎. 「リスク認知能力判定テスト」の有用性について. 第7回医療マネジメント学会学術総会; 2005.6.24-25; 福岡. 医療マネジメント学会雑誌 2005; 6(1): 367.

熊川寿郎. Delphi processによる医療リスクの重大さの判定基準の作成. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 421.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

小山秀夫, 主任研究者. 平成16年度長寿科学総合研究事業「介護老人保健施設及び介護療養型医療施設における経営実態及びマネジメント実施状況に関する研究」(課題番号: H16-長寿-029) 平成16年度総括研究報告書. 2005.

小山秀夫, 中村知夫, 宮坂勝之, 上泉和子, 藤野忠彦, 佐藤進, 吉川清志. 平成16年度成育医療研究委託事業「NICUの後方医療に関する研究」(主任研究者: 小山秀夫. 課題番号: 15公-4) 研究報告書. 2005. p.38-42.

岡本悦司. レセプトによる経口感染症サーベイランスと医療費推計. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「わが国における飲食に起因する経口感染症の被害推計精密化に関する研究」(主任研究者: 谷原真一. 課題番号: H16-新興-05) 平成16年度研究報告書. 2005. p.14-33.

岡本悦司. 不妊治療需要推計のモデル化と効果的な公費助成に関する研究. 厚生労働科学政策科学推進研究報告書「少子化社会における妊娠・出産に係る政策提言に関する研

究」(主任研究者:福島富士子, 課題番号:H16-政策-016) 平成16年度研究報告書. 2005. p.57-69.

熊川寿郎, 高野優子, 馬渡法子, 堀口京子, 金沢千恵子, 鈴木まさ代, 堤福子, 菊池美佐子, 古田愛子, 佐野廣子, 秋野たみ子, 神田律子. バランスト・スコアカードを活用

した新しい医療リスクマネジメントシステムの構築. 横浜市立大学医学部創立60周年記念事業「21世紀の安心・安全の医療をめざす研究・活動への助成」報告書. 横浜市立大学医学部創立60周年記念事業実行委員会; 2005. p.33-36.

## Originals

Okamoto E, Hata E. A new method of magnitude estimation for PDM using an optimization technique and validation by Monte Carlo simulation. J of Health Care & Society 2005; 14(4): 117-26.

Okamoto E, Sekita Y. Woodwork effects of the Long-term Care Insurance: an ecological study. Health Sciences 2005; 21(3): 325-6.

Okamoto E. How the change of classifiers affected the disease classification of health insurance claims? 医療経済研究. 2005; 17: 43-58.

Okamoto E. An analysis of administrative sanctions and criminal prosecutions of doctors in Japan. Japanese J of Public Health 2005; 52(11): 994-8.

## Book

Okamoto E. Public health of Japan. Tokyo: Japan

Public Health Association; 2005.

## Proceedings with abstracts

Okamoto E, Sekita Y. Estimation of disease-specific costs and inpatient days in a large dataset of hospital discharges using the Proportional Distribution Method (PDM). In: The 5<sup>th</sup> World Congress of the International Health Economics Association; Jul 10-13 2005; Barcelona, Spain. Proceedings. 2005. p.132-133.

Okamoto E. Coordination of pension and nursing home benefits: Japan's experience. In: The 133rd annual meeting of American Public Health Association; Dec 10-14 2005; Philadelphia, USA. Final Program. 2005. p.163. [http://apha.confex.com/apha/133am/techprogram/paper\_108946.htm]

## 人材育成部

### Department of Human Resources Development

#### 学術雑誌に発表した原著論文

橘とも子. 現場が動く! 健康危機管理 セラチア院内感染. 公衆衛生 2005; 69(8): 670-2.

橘とも子. 【感染症情報】 HIV感染予防対策と情報 性生活習慣病予防対策における「施策評価」「リスクコミュニケーション」ツールとしての情報活用. 公衆衛生 2005; 69(11): 895-9.

有川かがり, 服部悟, 橘とも子. 結核定期外健診受診者の「不安」に関する研究. 保健師・看護師の結核展望 2005; 42(2): 141-5.

橘とも子, 阿保満, 杉下由行, 前田秀雄, 山口剛, 永井正規, 他. 東京都定点HIV検査相談センターにおけるHIV非感染受検者の動向, 1993-2002. 厚生指標 2005; 52(5): 9-16.

橘とも子. 自発的匿名HIV検査相談センターの受検者調査(2000-2002年, 東京)に関する検討...HIV検査相談施策の充実に向けて. 昭和医学会誌 2005; 65(5): 421-32.

#### 学術雑誌に発表した総説

橘とも子. 視点. 公衆衛生行政管理に求められる competency. 健康危機管理を中心として. 公衆衛生 2005; 69(11): 522-3.

谷村晋, 坂野晶司, 山本秀樹, 水嶋春朔, 石井明, 溝田勉. 国際医療協力活動に従事する医師の確保をめぐる英国

の取り組み. 国際保健医療 2005; 20(2): 38-42.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 有効性評価ってどういうこと? 公衆衛生情報 2005; 35(7): 28-31.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 健康情報リテラシーっていったい何? 公衆衛生情報 2005; 35(8): 18-21.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 有効性評価ってどう進めればいいのか? 公衆衛生情報 2005; 35(10): 24-7.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 地域診断が健康政策の基本です! 公衆衛生情報 2005; 35(11): 20-3.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 地域診断にはどのような指標を使えばいいのか? 公衆衛生情報 2005; 35(12): 32-5.

水嶋春朔. 【エビデンスからみた糖尿病食事療法】 EBN (Evidence-based Nutrition) 食事療法とエビデンス. Diabetes Frontier. 2005; 16(4): 426-9.

水嶋春朔. 日本から世界への医学教育国際協力の方略 アフガニスタン国医学教育プロジェクト. 医学教育. 2005; 36(Suppl.): 20.

水嶋春朔, 大滝純司, 北村聖, 加我君孝. 【各国の医学教育】アフガニスタンにおける医学教育の再構築. 医学教育. 2005; 36(6): 365-9.

水嶋春朔, 渡辺芳子, 井上千鹿子, 大滝純司, 北村聖, 加我君孝. 医学・歯学教育における模擬患者 (SP) の協力を得る卒前教育の現状. 医学教育. 2005; 36(Suppl.): 48.

水嶋春朔. 生活習慣病の現状と予防対策のすすめ方. 食品と開発. 2005; 40(7): 4-8.

## 著書

橘とも子. 第6章 健康危機管理. 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会; 2005.7. p.374-81.

兵井伸行. 人口と家族計画. 日本国際保健医療学会, 編. 国際保健医療学. 第2版. 東京: 杏林書院; 2005.5. p.129-34.

大井田隆, 編. 横山徹爾, 山懸然太郎, 水嶋春朔, 尾島俊之, 青山旬, 谷原真一, 中山健夫, 吉池信男, 藤本眞一, 小橋元, 曾根智史. 図説国民衛生の動向2005. 東京: 厚生統計協会; 2005.10.

## 抄録のある学会報告

橘とも子, 武村真治, 緒方裕光, 谷畑健生, 曾根智史, 瀬上清貴. 健康危機管理において公衆衛生行政管理者に要するcompetencyの分析. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 525.

Hiltruda C. TEMBA, Tomoko Tachibana, Nobuyuki Hyoi. Quality of care of STIs in TANZANIA. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 1064.

曾根智史, 武村真治, 橘とも子, 谷畑健生, 緒方裕光, 加藤則子. 健康危機管理研修における演習プログラムの開発・評価に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 455.

早田紀子, 緒方裕光, 橘とも子. 東京都の市町村健康日本21地方計画策定及び推進のための情報提供支援に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 392.

橘とも子, 中瀬克己, 嶋貴子, 今井光信, 工藤伸一. 保健所等におけるHIV検査相談事業への即日検査相談導入に要する研修に関する検討. 日本エイズ学会誌. 2005; 7(4): 357.

橘とも子. 国立保健医療科学院における専門課程 (保健所長資格要件研修)・結核対策研修が提供すべき教育要素に関する検討について. 結核. 2005; 80(3): 339.

橘とも子, 阿保満, 杉下由行, 前田秀雄, 谷畑健生, 市川誠一. 東京都定点検査相談センターにおける受検者情報の解析について. 公衆衛生情報研究協議会, 国立保健医療科学院. 第18回公衆衛生情報研究協議会研究会抄録集. 2005. p.53-4.

渡辺志津, 畑栄一, 兵井伸行. シリアにおける喫煙および受動喫煙に対する母親の知識・意識・行動に関する研究. 第20回日本国際保健医療学会; 2005.11.5-6; 東京. 国際保

健医療. 2005.11; 20巻特別号: 81.

兵井伸行, Wu Jiabing. 中国安徽省農村部成人における高血圧の有病率と危険因子に対する理解に関する調査. 第20回日本国際保健医療学会; 2005.11.5-6; 東京. 国際保健医療. 2005.11; 20巻特別号: 181.

佐藤准子, 工藤芳子, 兵井伸行. 臨床検査分野における国際保健医療協力の方向性に関する研究. 第20回日本国際保健医療学会; 2005.11.5-6; 東京. 国際保健医療. 2005.11; 20巻特別号: 112.

水嶋春朔, 渡辺芳子, 當山紀子, 別府文隆, 柳堀朗子, 一戸貞人, 天野恵子. 千葉県鴨川市・天津小湊町住民を対象としたコホート研究「おたっしや調査」. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1.21-22; 大津. Journal of Epidemiology. 2005; 15; 1 (suppl, 第15回日本疫学会学術総会講演集): 114.

水嶋春朔. アミールSを用いた未治療軽症高血圧者への無作為化比較対照試験の実際. 第12回JEA疫学セミナー「研究の具体例から学ぶ疫学研究の推進: 研究開始後に生じた問題点とその解決に向けての方策」. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1.20; 大津. 第12回JEA疫学セミナープログラム. 2-11.

水嶋春朔. 根拠に基づく医療 (EBM) の考え方と展開. “根拠に基づく医療 (EBM; Evidence based medicine) とは—獣医領域における現状と今後の展開—”. 第18回獣医疫学会学術集會; 2005.3.31; 和光. (シンポジウム)

古屋博行, 水嶋春朔, 渡辺良久, 山多美代子, 長岡正, 山崎洋美, 岡崎勲. 基本健康診査受診者における多重リスク有所見者の地域比較. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 420.

水嶋春朔, 齋藤陽子, 渡辺芳子, 武見ゆかり, 土井由利子. 乳幼児健診等の機会を活用した家族の望ましい健康生活習慣形成に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 660.

村山伸子, 中嶋康博, 水嶋春朔, 小林陽子, 渡邊裕司, 武見ゆかり. 地域における栄養教育と食環境づくり総合プログラムの評価: 3報 食環境の変化. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌. 2005; 52 (8 特別附録): 975.

綿引信義, 西田茂樹. 青森県と山形県の男子平均寿命の格差について. 第70回日本民族衛生学会総会; 2005.11; 東京. 民族衛生. 2005; 第71巻付録: 132-3.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

橘とも子. 「新たな結核対策」の方向性. 第80回日本結核病学会に参加して. 複十字. 2005; 2005(7): 9.

橘とも子. 健康危機事例を用いた健康危機管理に必要な能力・技術の構造分析に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理

研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.312-46.

橘とも子. アメリカの健康危機管理研修の実態. 諸外国の健康危機管理研修の実態調査. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.138-89.

橘とも子, 谷畑健生. 感染症・食中毒事例の演習プログラムの開発・実施・評価. 健康危機管理研修のプログラムの開発・実施・評価. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.10-56.

谷畑健生, 橘とも子. 事例分析(自然災害)の演習プログラムの開発・実施・評価. 健康危機管理研修のプログラムの開発・実施・評価. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.57-61.

谷畑健生, 橘とも子. 組織管理シミュレーション(感染症)の演習プログラムの開発・実施・評価. 健康危機管理研修のプログラムの開発・実施・評価. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.62-66.

橘とも子, 谷畑健生. 事例分析組織管理シミュレーション(原因不明事例)の演習プログラムの開発・実施・評価. 健康危機管理研修のプログラムの開発・実施・評価. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.67-102.

橘とも子. 保健所等のHIV検査相談事業への即日検査導入に要する必要追加研修および事業モニタリング・評価に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV検査体制の構築に関する研究」(主任研究者:今井

光信). 平成16年度研究報告書. 2005. p.132-146.

橘とも子, 他 作成委員. 保健所等に於けるHIV即日検査のガイドライン第2版. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV検査体制の構築に関する研究」(主任研究者:今井光信). 2005.

橘とも子, 副会長. 府中市保健計画「健康ふちゅう21」. 2005年3月. (府中市保健計画策定検討協議会 会長:平林竹一)

橘とも子. 大規模食中毒の疫学研究に関する検討. 食品企業における健康危機管理に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金食品安全確保研究事業「食品企業における健康危機管理に関する研究」(主任研究者:玉木武). 平成16年度研究報告書. 2005. p.525-34.

橘とも子. 食中毒様疾患及び大規模食中毒の危機管理及び疫学に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金食品安全確保研究事業「食品企業における健康危機管理に関する研究」(主任研究者:玉木武). 平成14-16年度総合研究報告書. 2005. p.349-65.

兵井伸行. 第2章要約, 第3章調査結果詳細. インドネシア国草の根技術協力事業(地域提案型)「プライマリヘルスケアと看護」評価・フォローアップ調査報告書. 独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター. 2005年3月. p.6-17, 18-22.

水嶋春朔, 武見ゆかり, 土井由利子. 健やか親子21の推進のための乳幼児検診等の機会を活用した家族の望ましい健康習慣形式に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「健やか親子21の推進のための乳幼児検診等の機会を活用した家族の望ましい健康習慣形式に関する研究」(主任研究者:水嶋春朔). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.1-56.

## 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

兵井伸行. 「健康転換」, 「人口転換」, 「疫学転換」, 「人口保健調査(DHS)」, 「健康都市」, 「参加型アクションリサーチ」. 日本国際保健医療学会用語集. 2005.9.

Abstract. Kobe, 2005. p.243.

Nakase K, Shima T, Kudo S, Tsukada M, Shiomi S, Tachibana T, Imai M, Omoto Y. Impact of the rapid HIV test introduction in voluntary HIV counseling and testing (VCT) in Japan. In: Seventh International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (7<sup>th</sup> ICAAP). Seventh International Congress on AIDS in Asia and the Pacific. Abstract. Kobe, 2005. p.370.

Aiboshi S, Ishihara J, Masuda T, Nishimura Y, Okibe K, Saitou M, Tachibana T. What should we do to support people living with HIV/AIDS (=PLWHA) in Japanese community in the future? In: Seventh International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (7<sup>th</sup> ICAAP). Seventh International Congress on AIDS

## Originals

Tachibana T, Takemura S, Sone T, Segami K, Kato N. Competences necessary for Japanese public health center directors in responding to public health emergencies. Japanese Journal of Public Health 2005; 52(11): 943-56.

## Proceedings with abstracts

Tachibana T, Abo M, Maeda H, Tanihata T, Ichikawa S. Assessment of factors associated with the interval between anxiety about infection and voluntary HIV testing, Tokyo. In: Seventh International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (7<sup>th</sup> ICAAP). Seventh International Congress on AIDS in Asia and the Pacific.

in Asia and the Pacific. Abstract. Kobe, 2005. p.207.

Hyo N, Wu J. Prevalence of hypertension and the status of awareness of hypertension risk factors in the rural adult population of Anhui Province, China. Journal of International Health 2005; 20(Suppl.): 181.

Hiltruda T, Tachibana T, Hyoi N. Quality of care of STIs in Tanzania. In: 64<sup>th</sup> Nihon Kosho Eisei Gakkai

Sokai; Sep 2005; Sapporo. Japanese Journal of Public Health 2005; 52(Suppl.): 1064.

Mizushima S. Influence of parents' tobacco use on asthma history among elementary school children in an urban region, Tokyo. In: The XVII<sup>th</sup> International Epidemiology Association Congress of Epidemiology; Aug 2005; Bangkok, Thailand. Abstracts book. 2005. p.53.

## 公衆衛生政策部

### Department of Public Health Policy and Administration

#### 学術雑誌に発表した原著論文

寺田勇人, 曾根智史, 武村真治. 中小規模事業場に対する嘱託産業医活動の実態と地域産業保健活動への参画に関する研究. 産業衛生学雑誌 2005; 47: 259-68.

竹上未紗, 笠島茂, 山崎新, 中山健夫, 福原俊一. The Epworth Sleepiness Scaleの性・年齢階級別得点分布と日中の過度の眠気の有症割合の推定: 地域住民を対象とした調査. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(2): 137-45.

#### 学術雑誌に発表した総説

曾根智史. 死体検案に関する研修. 公衆衛生. 2005; 69(4): 292-5.

曾根智史. 地域保健法を支える人づくり 国立保健医療科学院の教育訓練. 公衆衛生. 2005; 69(2): 106-9.

笠島茂. 生活習慣改善のためのワンポイントアドバイス ストレス いびきと心血管系疾患. 動脈硬化予防. 2005; 4(1): 51.

逢見憲一. Y駅異臭事件において保健所の果たした役割 10年後から振り返って. 公衆衛生. 2005; 69(8): 685-7.

#### 著書

曾根智史. 公衆衛生の歴史. ナーシンググラフィカ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.4-13.

曾根智史. ヘルスプロモーションの考え方で, 住民・患者支援の方法が変わる. ナーシンググラフィカ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.54-56.

曾根智史. アドボカシーとエンパワメント. ナーシンググラフィカ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.126-9.

武村真治. 経済学からみた公衆衛生・地域保健サービスの公的責任. ナーシンググラフィカ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.58-59.

武村真治. ソーシャルマーケティング. ナーシンググラフィ

カ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.59-61.

武村真治. 健康危機管理. ナーシンググラフィカ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.61-63.

武村真治. 公衆衛生・地域保健サービスの効率性. ナーシンググラフィカ⑧ 社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 大阪; メディカ出版; 2005. p.125-6.

#### 抄録のある学会報告

曾根智史, 武村真治, 橘とも子, 谷畑健生, 緒方裕光, 加藤則子. 健康危機管理研修における演習プログラムの開発・評価に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 455.

曾根智史, 田口眞, 中野修治, 堀江正知, 広部一彦. 事業場における在職者の性別死亡率と性・年齢階級別死因 (サンユー会学術QQプロジェクト, 2003年). 第78回日本産業衛生学会; 2005.4.20-23; 東京. 産業衛生学雑誌 2005; 47 (増刊): 441.

川南勝彦. 地域保健医療臨床研修指導医を養成する講習会のモデルカリキュラムと標準テキスト. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 489.

土井由利子, 東美希, 川南勝彦. 標準化死亡比を用いた地域診断. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 279.

武村真治. 地域保健サービスの経済的評価に関する理論的・実証的研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 191. (奨励賞受賞者講演)

武村真治, 曾根智史, 林謙治. イギリスにおける公衆衛生専門家の養成システム. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 492.

岩室紳也, 藤内修二, 岩永俊博, 櫃本真事, 中瀬克己, 中川

昭生, 国吉秀樹, 新山徹二, 中本稔, 松村康弘, 武村真治, 下田智久. 健康日本21の推進, 評価における都道府県の役割の検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 399.

橘とも子, 武村真治, 緒方裕光, 谷畑健生, 曾根智史, 瀬上清貴. 健康危機管理において公衆衛生行政管理者に要するcompetencyの分析. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 525.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」平成16年度総括・分担研究報告書 2005.

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「死体検案業務の質の確保等に関する研究」平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.

曾根智史. 健康危機管理研修のプログラムの開発・実施・評価. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.6-134.

笠島茂, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金統計情報高度利用総合研究事業「データ・リンケージによる産業別生命表の作成とその応用に関する研究」平成16年度報告

書. 2005.

川南勝彦, 曾根智史, 林謙治. プライマリケア指導医を養成する講習会のモデルカリキュラムと標準テキスト. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上) に関する研究」(主任研究者: 林謙治) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.7-14.

川南勝彦, 曾根智史, 林謙治. 各臨床研修プログラムの二次医療圏における実施状況 (救急, 精神科). 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上) に関する研究」(主任研究者: 林謙治) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.15-19.

武村真治, 曾根智史. イギリスの公衆衛生専門家 (Consultant/Specialist in Public Health) の養成システム. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(主任研究者: 曾根智史) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.15-145.

武村真治. 健康危機事例の収集・分析の方法論の開発. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.347-73.

武村真治. 「健康日本21」地方計画推進・評価事業報告書 (分担事業者: 下田智久). 平成16年度地域保健総合推進事業, 2005.

### Originals

Yamazaki S, Sokejima S, Nitta H, Nakayama T, Fukuhara S. Living close to automobile traffic and quality of life in Japan: a population-based survey. *Int J Environ Health Res.* 2005; 15(1): 1-9.

Yamazaki S, Sokejima S, Mizoue T, Eboshida A, Fukuhara S. Health-related quality of life of mothers of children with leukemia in Japan. *Qual Life Res.* 2005; 14(4): 1079-85.

Suzuki J, Kikuma H, Kawaminami K, Shima M. Predictors of smoking cessation during pregnancy among the women of Yamato and Ayase municipalities in Japan. *Public Health* 2005; 119(8): 679-85.

Hara S, Matsushita H, Yamaguchi Y, Kawaminami K, Horita S, Furusawa M. Allograft glomerulitis: histologic characteristics to detect chronic humoral rejection. *Transplantation Proceedings* 2005; 37(2): 714-6.

Traikov L, Ushiyama A, Lawlor G, Sasaki R, Ohkubo C. Subcutaneous arteriolar vasomotion changes during and after ELF-EMF exposure in mice in vivo. *The Environmentalist* 2005; 25(2-4): 93-101.

Matsushima M, Jiabing W, Banda C, Watanabe S, Gyau B, Yabe S, Temba H, Tokunaga A, Okamoto E,

Watahiki N, Lawlor G. Role of an NGO in the Health Care of Foreign Residents - GENKI Activities and Perceptions of its Collaborators -. *J Natl Inst Public Health* 2005; 54(1): 83-6.

Takemura S, Ohida T, Sone T, Fukuda T, Takemura Y. Influences of the absence of random assignment of bids on estimating willingness to pay using a discrete-choice question. *Health Economics.* 2005; 14(2): 209-213.

Kaneita Y, Ohida T, Uchiyama M, Takemura S, Kawahara K, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Yagi Y, Kaneko A, Tsutsui T, Akashiba T. Excessive daytime sleepiness among the Japanese general population. *Journal of Epidemiology.* 2005; 15(1): 1-8.

Suzuki K, Ohida T, Yokoyama E, Kaneita Y, Takemura S. Smoking among Japanese nursing students: nationwide survey. *Journal of Advanced Nursing.* 2005; 49(3): 268-275.

Kaneita Y, Ohida T, Takemura S, Sone T, Suzuki K, Miyake T, Yokoyama E, Umeda T. Relation of smoking and drinking to sleep disturbance among Japanese pregnant women. *Preventive Medicine.* 2005; 41: 877-882.

Tachibana T, Takemura S, Sone T, Segami K, Kato N. Competences necessary for Japanese public health

center directors in responding to public health emergencies. Japanese Journal of Public Health. 2005; 52(11): 943-956.

### Books

Traikov L, Ushiyama A, Lawlor G, Ohkubo C. Changes of the magnitude of arteriolar vasomotion during and after ELF-EMF exposure in vivo. In: Ayrapetyan NS, Markov MS editors. Bioelectromagnetics. Amsterdam: Springer; 2006. p.377-89.

### Proceedings with Abstracts

Fu J, Lawlor GF, Ushiyama A, Masuda H, Ohkubo C.

Changes in blood flow dynamics related to increased thermal effects of RF-EMF irradiation on rabbit ear skin. In: 26th Annual meeting of the Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.303-4 on CD-ROM.

Traikov LL, Ushiyama A, Sasaki R, Lawlor GF, Ohkubo C. Low frequency-electromagnetic fields induced alterations in arteriolar vasomotion in vivo. In: 26th Annual meeting of the Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.529-30 on CD-ROM.

## 疫学部

### Department of Epidemiology

#### 学術雑誌に発表した原著論文

細田武伸, 藤田利治, 谷畑健生, 武本和之, 足立三紀, 亀崎幸子, 他. 救急搬送者の追跡調査. 厚生指標 2005; 52(6): 27-34.

藤田利治. 入院および外来で受療中の精神疾患患者数の年次推移. 臨床精神医学 2005; 34(7): 923-931.

川上桂子, 木村幹男, 橋本迪子, 青木和子, 浜田勝, 谷畑健生. 日本人渡航者のマラリア予防対策についての状況. 厚生指標. 2005; 52(4): 23-7.

片岡大輔, 曾根智史, 谷畑健生, 谷口栄作, 牧野由美子, 中川昭生. 益田市における地区活動と部会活動による介入効果の検討. 日本公衆衛生雑誌 2005, 52(10): 898-905.

橋とも子, 阿保満, 杉下由行, 前田秀雄, 山口剛, 谷畑健生, 他. 東京都定点HIV検査相談センターにおけるHIV非感染受検者の動向, 1993-2002. 厚生指標 52(5): 9-16.

松田智大, 山口昌澄. 【青少年暴力の原因究明と対策】 子どものメンタルヘルスプロブレムの発生時期とその対応調査票調査の提案. 保健医療科学. 2005; 54(2): 113-8.

#### 学術雑誌に発表した総説

藤田利治. 精神障害者の長期在院の実態：年齢的傾向と歴史的背景. 公衆衛生情報 2005; 35(1): 1-3.

藤田利治. 長期在院の実態解明に有用な尺度とは：精神障害者の診断ごとの退院曲線. 公衆衛生情報 2005; 35(2): 1-3.

藤田利治. 精神障害者の退院促進に退院指標を適用する：退院の関連要因の分析. 公衆衛生情報 2005; 35(3): 1-3.

藤田利治. 様相が変貌した2003年の自殺死亡の状況：都市部から地方へ. 公衆衛生情報 2005; 35(4): 1-3.

藤田利治. 保健統計から見た乳幼児突然死症候群（SIDS）：経年変化と出生時要因との関係. 公衆衛生情報 2005; 35(5): 1-3.

藤田利治. 乳児突然死における診断の実態：死体検案書

などから見た現状. 公衆衛生情報 2005; 35(6): 1-3.

藤田利治. 医療保護入院後の退院患者の追跡調査：精神障害者の再入院と受療中断. 公衆衛生情報 2005; 35(7): 1-3.

藤田利治. 精神障害者の通院受療圏を二次医療圏との関連から見る：福岡県における調査研究より. 公衆衛生情報 2005; 35(8): 1-3.

藤田利治. インフルエンザ脳炎・脳症と解熱剤：脳炎・脳症の悪化と発症. 公衆衛生情報 2005; 35(9): 33-35.

土井由利子. 診断の指針 治療の指針－成人の睡眠障害の疫学. 総合臨床 2005; 54: 1427-1428.

土井由利子. 疫学研究からみた睡眠の性差. 性差と医療 2005; 2: 51-56.

土井由利子. 日本人の眠りの特徴－疫学研究からわかったこと－. こころの科学 2005; 119: 21-25.

土井由利子. 睡眠障害に性差はありますか？肥満と糖尿病 2005; 4: 484-485.

谷畑健生. 【慢性疲労症候群（CFS）研究の進歩と診療への手引き】 国の世論調査と一般住民の疲労調査にみる日本人の疲労の実態. Progress in Medicine 2005; 25(5): 1236-41.

谷畑健生. 【疲労・倦怠】 国の統計と疫学調査から見てきた疲労と病的な疲労・慢性疲労. 総合臨床 2006; 55(1): 12-25.

簗輪眞澄, 梅家模, 谷畑健生. 日中両国において未成年者の喫煙防止のために何をすべきか. 保健医療科学 2005; 54(1): 63-7.

松田智大. 子どもの新しい健康度調査について. チャイルドヘルス 2005; 8(11): 834-7.

## 著書

土井由利子. 母子保健の現状と動向. 鈴木庄介・久道茂編. シンプル衛生公衆衛生学2005. 東京：南江堂；2005. p.201-207.

## 抄録のある学会報告

今井博久. 二次医療圏の周産期医療における医師と医療指標との関連性. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 病院管理 2005; 42(1 Suppl): 191.

今井博久. 高校生のクラミジア感染症の蔓延状況と予防対策. 第54回日本感染症学会東日本地方会総会・第52回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会; 2005.10.27-28; 東京. 同プログラム・講演抄録集. p.54. (シンポジウム2 ティーンエイジャーにおける性感染症の蔓延とその予防)

毛利光子, 廣瀬奈津子, 福田敬, 大住省三, 向井博文, 今井博久, 他. 研究者主導がん臨床試験におけるコストデータ収集方法の検討. 第11回日本薬剤疫学会学術総会; 2005.11.12-13; 福井. 薬剤疫学 2005; 10(1 Suppl): 42-43.

藤田利治. 解剖割合が異なる地域間でのSIDS死亡率の比較と関連要因の検討. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1.21-22; 大津. 同講演集. p.240.

片野田耕太, 松村康弘, 高木廣文, 李廷秀, 藤田利治, 林邦彦. 出生時体重および若年期の生活習慣と糖尿病の関係: Japan Nurses' Health Study. 第15回日本疫学会学術総会; 2005.1.21-22; 大津. 同講演集. p.63.

藤田利治. 保健統計からみた近年の自殺死亡急増の特徴. 第11回日本行動疫学会学術総会; 2005.2; 京都. 同抄録集. p.27.

藤田利治. 疫学研究と統計データの活用: 死亡情報の活用を中心に. 第18回公衆衛生情報研究協議会研究会; 2005.2.17-18; 東京. 同抄録集. p.11-12.

藤田利治. 疫学・統計からみたSIDSの現状: 解剖との関係を中心に. 第11回日本SIDS学会学術集会; 2005.3.4-5; 盛岡. 同抄録集. p.10.

藤田利治, 反町吉秀. 乳幼児突然死例の死体検案書(死亡診断書)の記載に関する実態調査. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 同抄録集. p.282.

細川美恵子, 片野田耕太, 麻生武志, 鈴木庄亮, 藤田利治, 水沼英樹, 林邦彦. Japan Nurses' Health Studyにおける出生時体重と乳がん既往歴との関連. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 同抄録集. p.591.

三徳和子, 藤田利治, 簗輪眞澄, 後藤忠雄. 要介護(支援)認定者における認知症の実態. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 同抄録集. p.856.

藤田利治. 医薬品の安全性監視と薬剤疫学研究. 2005年度統計関連学会 連合大会; 2005.9.12-15; 広島. 統計関連学会 連合大会 チュートリアルセミナー資料集. p.1-27.

藤田利治. これからの求められる医薬品副作用情報. 平成17年度第1回JASDIフォーラム; 2005.10.19; 東京. 平成17年度第1回JASDIフォーラム「ファーマコビジランス」資料集. p.1-11.

藤田利治. 自殺の実態・原因・動機: 保健統計からみた自殺死亡の実態. 第49回精神保健シンポジウム; 2005.11; 東京. 同資料集. p.8-10.

藤田利治, 片野田耕太, 李廷秀, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦

彦. 女性看護職における疾患の既往割合: Japan Nurses' Health Study. 第20回日本更年期医学会学術集会; 2005.11.12-13; 大宮. 同プログラム・要旨集. p.158.

土井由利子, 東美希, 川南勝彦, 榊井幸輔. 標準化死亡比を用いた地域診断. 第64回日本公衆衛生学会, 札幌, 2005.9.14-16.

水嶋春朔, 武見ゆかり, 土井由利子. 乳幼児健診等の機会を活用した家族の望ましい健康生活習慣形成に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会, 札幌, 2005.9.14-16.

土井由利子, 簗輪眞澄, 内山真, 大川匡子. 短時間睡眠者と長時間睡眠者の主観的睡眠と精神的健康の特性について. 第15回日本疫学会学術総会, 大津. 2005.1.22. (抄録集 pp. 82).

## その他学術報告(研究調査報告書含む)

藤田利治. 精神疾患の受療有病数と在院期間の年次推移. 厚生科学研究費補助金 障害保健総合研究事業「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究」(主任研究者: 岩崎榮. 課題番号: H14-障害-008) 平成16年度総括・分担報告書. 2005. p.447-483.

藤田利治. 精神病院からの退院とその関連要因. 厚生科学研究費補助金 障害保健総合研究事業「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究」(主任研究者: 岩崎榮. 課題番号: H14-障害-008) 平成16年度総括・分担報告書. 2005. p.485-493.

藤田利治. 増加した自殺死亡の変貌. 厚生科学研究費補助金 障害保健総合研究事業「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究」(主任研究者: 岩崎榮. 課題番号: H14-障害-008) 平成16年度総括・分担報告書. 2005. p.437-446.

藤田利治. 精神保健医療の評価にかかわる疫学関連指標の検討. 厚生科学研究費補助金 障害保健総合研究事業「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究」(主任研究者: 岩崎榮. 課題番号: H14-障害-008) 平成16年度総括・分担報告書. 2005.

藤田利治. 自殺の実態に関する人口動態調査に基づく保健統計学的研究: 社会経済要因との関連. 厚生科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」(主任研究者: 上田茂) 平成16年度総括・分担報告書. 2005. p.57-76.

藤田利治. 入院した精神障害者の残存率および退院率についての患者調査に基づく検討. 厚生科学研究費補助金 特別研究事業「新たな精神病床算定式に基づく, 早期退院と社会復帰促進のための精神保健福祉システムに関する研究」(主任研究者: 竹島正) 平成16年度総括・分担報告書. 2005. p.95-108.

藤田利治. 地域特性に応じた自殺予防地域介入研究: 研究計画. 厚生科学研究費補助金 特別研究事業「うつ病関連の自殺予防戦略研究課題の提案と評価に関する研究」(主任研究者: 樋口輝彦, 国立精神・神経センター武蔵病院・病院

長)平成16年度総括・分担報告書. 2005. p.10-25.

藤田利治, 反町吉秀. 乳幼児突然死例の死体検案書(死亡診断書)の記載に関する実態調査. 厚生科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業「乳幼児突然死症候群の診断のためのガイドラインの作成およびその予防と発症率軽減のための研究」(主任研究者:坂上正道. 課題番号:H14-子ども-002)平成16年度研究報告書. 2005. p.85-93.

藤田利治, 岩崎学, 松下泰之. 医薬品の副作用自殺報告データベースを用いたシグナル検出の統計手法についての検討. 厚生科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「医薬品, 医療機器等の安全性情報の提供・収集・解析方法及び企業による市販後安全管理のあり方に関する研究」(主任研究者:幸田幸直. 課題番号:H16-医薬-049)平成16年度総括研究報告書. 2005.

土井由利子. 厚生労働省 精神・神経疾患治療研究委託

費「睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究を用いた臨床的実証研究」平成14年度~16年度総括・分担報告書(主任研究者:内山真). 2005.

土井由利子. 厚生労働科学研究補助金 健康科学総合研究事業「温泉利用健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善果たす役割に関する研究」(H16-健康-005)平成16年度総括・分担報告書(主任研究者:鏡森定信). 2005. 土井由利子. 厚生労働科学研究補助金 子ども家庭総合研究「健やか親子21の推進のための乳幼児健診等の機会を活用した家族の望ましい健康生活習慣形成に関する研究」平成16年度総括・分担報告書(主任研究者:水嶋春朔). 2005.

土井由利子, 主任研究者. 科学研究費補助金「眠剤に関する大規模薬剤疫学研究-外来処方を中心に」平成17年度研究実績報告書. 2005.

## Originals

Fujita T, Miura Y, Mayama Y. A pilot study to build a database on seven anti-hypertensive drugs. *Pharmacoepidemiology and Drug Safety* 2005; 14: 41-46.

Doi Y, Minowa M, Uchiyama M, Okawa M. Sleep-medication for symptomatic insomnia in the general population of Japan. *Sleep and Biological Rhythms* 2005; 3: 149-157.

Sharp GB, Lagarde F, Mizuno T, Sauvaget C, Fukuhara T, Allen N, et al. Relationship of hepatocellular carcinoma to soya food consumption: A cohort-based, case-control study in Japan. *International Journal of Cancer* 2005; 115: 290-295.

Sauvaget C, Lagarde F, Nagano J, Soda M, Koyama K, Kodama K. Lifestyle factors, radiation and gastric cancer in atomic bomb survivors. *Cancer Causes & Control* 2005; 7: 773-80.

Sauvaget C, Lagarde F, Nishi N, Soda M. Lifestyle factors and risk of oesophageal cancer. *Journal of Epidemiology* 2005; 15(1): 171.

Sauvaget C, Nagano J, Yamada M. Fat and protein from vegetable source and the risk of cerebral infarction death in Japanese. *Journal of Nutrition, Health & Aging*. 2005; 9: 155.

Nishi N, Sugiyama H, Sauvaget C, Soda M, Shimizu Y, Kasagi F, et al. Education level and cancer risk in a longitudinal study. *Journal of Epidemiology*. 2005; 15(1): 251.

Dzodzomenyo M, Kaneko A, Kikuchi M, Ubalee R, Osawa K, Tanihata T, et al. IL4 Polymorphisms and IgE levels on malaria-endemic islands in Vanuatu. *Journal of Tokyo Women's Medical University*. 2005; 75: 3-4: 82-89.

## Review

Doi Y. An epidemiologic review on occupational sleep research among Japanese workers. *Industrial Health* 2005; 43: 3-10.

Matsuda T, Takayama T, Tashiro M, Nakamura Y, Ohashi Y, Shimosuma K. Mild cognitive impairment after adjuvant chemotherapy in breast cancer patients--evaluation of appropriate research design and methodology to measure symptoms. *Breast Cancer*. 2005; 12 (4): 279-87.

## Proceedings with abstracts

Imai H. School-based study of asymptomatic chlamydial infection among high school students. In: American Public Health Association 133rd Annual Meeting; Nov 10-14 2005; Philadelphia, PA, USA.

Kodama T, Katanoda K, Fujita T, Suzuki S, Mizunuma H, Aso T, Hayashi K. Prevalence of hormone replacement therapy in Japan before and after the publication of the study results from WHI: Japan Nurses' Health Study. In: 21th International Conference on Pharmacoepidemiology; Aug 21-24 2005; Nashville, Tennessee, USA. *Pharmacoepidemiology and Drug Safety* 2005; 14 Suppl. 2: S151.

Doi Y. Working hours and psychosomatic characteristics by employment grades in Japanese male and female workers. In: The 2<sup>nd</sup> International Congress of Occupational Health; Aug 23-26 2005; Okayama.

Doi Y. Epidemiologic method on sleep habit and problems for Japanese children. In: Focus group symposium on culture and biology of children's sleep. The Interim Congress of World Federation of Sleep Research and Sleep Medicine Society; Sep 22-26 2005; Delhi, India.

Doi Y, Uchiyama M, Okawa M. Population-based survey of sleep-medication use in Japan. In: The Interim Congress of World Federation of Sleep Research and Sleep Medicine Society; Sep 22-26 2005; Dehli, India.

Sauvaget C. Fat and protein from vegetable source and the risk of cerebral infarction death in Japanese. In: 3rd annual congress of the International Academy on Nutrition and Aging; May 6-8 2005; Saint Louis, USA.

Sauvaget C. Combined effects of lifestyle factors on esophageal cancer risk. In: 17<sup>th</sup> World Congress of

Epidemiology; Aug 21-25 2005; Bangkok, Thailand.

Sauvaget C. Lifestyle factors and risk of oesophageal cancer. In: The 15<sup>th</sup> Japanese Epidemiological Association meeting; Jan 21-22 2005; Otsu.

野口真貴子, 松田智大, スザンナ・オナニヤン, 三砂ちづる, 竹内正人, 高橋央, 大宮正範, チチャヤン・ホバネス, ヘンリック・ナリマンヤン, ラズミック・アブラハミヤン. アルメニア共和国における根拠に基づいた周産期ケアに関する知識と実践 (英語). 第20回国際保健医療学会総会; 2005.11. 5-6; 東京. 国際保健医療 2005; 20 (1 Suppl): 100.

## 公衆衛生看護部

### Department of Public Health Nursing

#### 学術雑誌に発表した原著論文

末永カツ子, 瀬川香子, 平野かよ子. 精神障害者ホームヘルプサービス事業におけるヘルパー利用者間の関係性に関する分析—ホームヘルパーと利用者へのフォーカスグループインタビューを実施して—. 東北大学医学部保健学科紀要 2005; 14(1): 21-32.

梶井文子, 山崎好美, 田代順子, 堀内成子, 有森直子, 平野かよ子, 他. 開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究—国際ワークショップ報告—. 聖路加看護大学紀要 2005; 31: 17-35.

末永カツ子, 平野かよ子, 上埜高志. 公共性理論についての論考. 東北大学大学院教育研究科研究年報 2005; 53(2): 281-299.

平野かよ子, 池田信子, 金川克子, 潮見重毅, 鈴木晃, 平山朝子, 他. 看護系大学・短大専攻科・専修学校別の保健師養成について—教員と保健師活動の認識等の実態調査—. 日本公衆衛生誌 2005; 52(8): 746-55.

中山貴美子, 岡本玲子, 赤松佳代, 鳩野洋子, 塩見美抄, 岩本里織. 研究者の働きかけによる保健活動と保健師の変化—難病保健活動を改善したアクションリサーチ事例より—. 日本地域看護学会誌 2005; 7(2): 33-39.

鳩野洋子, 平野かよ子. 自殺予防にかかわる地域住民の知識・意識の実態—40歳代から60歳代の住民基本健康診査受診者に対する調査より—. 自殺予防と危機介入 2005; 26(1): 40-45.

工藤芳子, 藤脇伸一郎, 佐藤准子, 鳩野洋子, 石塚文平, 他. 日本の都市部と農村部における更年期症状発現の差異に関する検討. 日本更年期医学会雑誌 2005; 13(1): 47-54.

鳩野洋子, 岡本玲子, 関戸好子. 要介護状態の危険性が高い高齢者にみられる日常生活 尺度開発にむけた項目の収集. 神戸大学医学部保健学科紀要. 2005; 20: 1-10.

三砂ちづる, 菅原ますみ, 福島富士子, 丹後俊郎, 榊原洋一, 小林秀資, 他. 変革につながるような出産経験尺度 (TBE—scale) の開発—主体的出産経験を定義する試み—.

臨床婦人科産科 2005; 59(9): 1301-1311.

#### 学術雑誌に発表した総説

平野かよ子. 「地域全体をどうするのか」という視点でさらなる展開を. コミュニティケア 2005; 7(3): 37.

平野かよ子. 事例でみる保健師活動の評価—ここさえ押さえればクリアになる! 保健師活動の評価はなぜ必要なのか?—. 保健師ジャーナル 2005; 61(1): 8-12.

平野かよ子. 保健活動の表出. 聖路加看護学会誌 2005; 9(1): 97-99.

山田和子, 平野かよ子. 総合健康保険組合加入事業場における自殺念慮を含むメンタルヘルス調査より. 産業精神保健 2005; 13(3): 148-155.

鳩野洋子, 岩本里織, 岡本玲子. 大規模自治体における介護予防が必要な対象の把握経路に関する調査. 保健師ジャーナル 2005; 61(2): 146-151.

鳩野洋子, 岩本里織. 介護予防の必要性の高い対象の把握に向けて. 保健師ジャーナル 2005; 61(3): 244-248.

岡本玲子, 塩見美佐, 中山貴美子, 塩見美抄, 鳩野洋子, 千葉由美, 他. 英国に学ぶ公衆衛生の原点—地域看護活動の基盤と実際. 保健師ジャーナル 2005; 61(7): 636-643.

岡本玲子, 塩見美佐, 中山貴美子, 鳩野洋子, 千葉由美, 尾島俊之, 他. 英国の地域看護職の専門性を高めるしくみ. 保健師ジャーナル 2005; 61(8): 762-767.

鳩野洋子, 岡本玲子, 塩見美佐, 中山貴美子, 千葉由美, 尾島俊之, 他. 米国・英国に学ぶ保健師に求められる能力明確化の試み. 保健師ジャーナル 2005; 61(9): 865-871.

鳩野洋子, 菊間博子, 山口佳子, 飯田恵久子, 坂口佳江, 鈴木恵子. 保健事業委託に関する現状—調査からみた委託の実際と課題—. 保健師ジャーナル 2005; 61(10): 906-910.

山口佳子, 菊間博子, 鳩野洋子, 飯田恵久子, 坂口佳江, 鈴木恵子. 効果的かつ質の高い委託をするための市町村保健師の役割. 保健師ジャーナル 2005; 61(10): 926-931.

福島富士子. いまなぜ, 継続支援が必要なのか. ペリネイタルヘア 2005; 24(2): 114-117.

福島富士子. 次世代育成支援計画と健やか親子21の推進. 北海道の公衆衛生 2005; 31: 15-16.

奥田博子. 新潟中越地震と阪神・淡路大震災の比較から災害発生時の保健師活動を考える. 公衆衛生 2005; 69(6): 468-470.

森田桂, 宮本ふみ, 大木幸子, 甲斐静江, 小宮山佳子, 中板育美, 他. 保健師活動の戦略を整理するー保健師活動の戦略を考える前提. 保健師ジャーナル 2005; 61(1): 66-71.

森田桂, 宮本ふみ, 大木幸子, 甲斐静江, 小宮山佳子, 中板育美, 他. 保健師活動の戦略を整理するー戦略基礎シート (個別編) の提案. 保健師ジャーナル 2005; 61(2): 172-6.

森田桂, 宮本ふみ, 大木幸子, 甲斐静江, 小宮山佳子, 中板育美, 他. 保健師活動の戦略を整理するー戦略基礎シート (地域編) の提案. 保健師ジャーナル 2005; 61(3): 270-6.

森田桂, 宮本ふみ, 大木幸子, 甲斐静江, 小宮山佳子, 中板育美, 他. 保健師活動の戦略を整理するー戦略基礎シート (施策化編) の提案. 保健師ジャーナル 2005; 61(4): 360-365.

中板育美, 牧野忍, 東坂美穂子, 高橋ゆきえ, 渡辺好恵. 児童虐待予防活動における保健師の自己評価と課題. 子どもの虐待とネグレクト 2005; 7(1): 24-30.

中板育美. 虐待防止に向けた保健師活動ー特集これから子ども虐待防止を考えるー母子保健情報. 母子愛育会 2005; (50): 65-8.

中板育美. 児童虐待早期発見のためにー保健師の担う役割ー. 子ども未来 2005; 2: 10-1.

中板育美, 田上美千佳, 新村順子. 保健と福祉の連携ー保健師と児童福祉司, それぞれの思いー. 保健師ジャーナル 2005; 61(10): 938-42.

中板育美. 子どもの虐待を予防していくために. 保健師ジャーナル 2005; 61(5): 446.

中板育美. 特集児童虐待「専門性を生かした予防活動のために」. 地域保健 2005; 36(10): 8-13.

## 著書

平野かよ子. 保健活動とは: 保健活動の成立要件. 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.6-15.

平野かよ子. 保健師の保健活動: 保健活動の対象. 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.56-57.

平野かよ子. 保健師の保健活動: 地域活動の技術. 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.91-96.

平野かよ子. 保健師の保健活動: 活動の展開の実践. 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.100-105.

鳩野洋子, 高齢者. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 他編. 公衆衛生と関連法規. 東京: メディカ出版; 2005.

p.171-194.

Alison Moton-Cooper. 岡本玲子, 関戸好子, 鳩野洋子訳. ヘルスケアに活かすアクションリサーチ. 東京: 医学書院; 2005.

鳩野洋子, 閉じこもり高齢者の看護. 金川克子, 野口美和子, 編. 高齢者看護プラクティスー地域・在宅における高齢者への看護. 東京: 中央法規; 2005. p.68-80.

福島富士子, 地域における妊産婦支援の取り組み. 中村正雄, 安達知子, 監修. この道のプロとなるための母と子の健康教育ー妊産婦の保健相談・子育て支援ー. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2005. p.193-196.

福島富士子, 奥田博子, 池添津江. ヘルスプロモーション・健康教育. 宮里和子監修. 新クイックマスター母性看護学. 東京: 医学芸術社; 2005. p.73-81.

福島富士子, 奥田博子, 池添津江. 母子保健と社会資源. 宮里和子監修. 新クイックマスター母性看護学. 東京: 医学芸術社; 2005. p.82-85.

奥田博子, 母子保健と社会資源. 宮里和子, 編. 新クイックマスター母性看護学. 東京: 医学芸術社; 2005. p.82-85.

奥田博子, 地区管理. 情報管理. 日本看護協会, 編. 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.115-116, 123.

中板育美. 児童虐待に向けた保健師活動. 中林正雄, 安達知子, 編. この道のプロとなるための母と子の健康教育. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2005. p.296-300.

平野かよ子, 中板育美. 保健師の保健活動 活動の展開の実践. 池田信子, 漆崎育子, 金川克子, 新藤京子, 平野かよ子, 編. 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.97-100.

中板育美. 小児保健 児童虐待の予防, 地域精神保健福祉活動における法的基盤と役割. 池田信子, 漆崎育子, 金川克子, 新藤京子, 平野かよ子, 編. 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p.265-9, 452-8.

才村純, 中板育美, 御園愛子, 田母神裕美. 子どもの笑顔に出会えるためにー乳幼児保育者のための虐待防止ガイドブッカー. 東京: 財団法人母子衛生研究会; 2005. p.1-33.

## 抄録のある学会報告

平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 山田和子, 他. 地域保健活動の評価視点の標準化の試み. 日本地域看護学会第8回学術集会; 2005.6.11; 豊田. 2005. p.86.

尾島俊之, 齊藤恵美子, 藤内修二, 今川晃, 平野かよ子, 古屋好美. 市町村合併における保健活動の推進に関する検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 502.

琵琶坂和江, 橋本功, 稲葉洋子, 鳩野洋子, 平野かよ子, 島田美喜. 岩手県N保健所管内の在宅終末期ケアに関する調査 (第1報)ー専門職意識調査からー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌

2005; 52 (8 特別付録): 556.

島田美喜, 鳩野洋子, 平野かよ子, 琵琶坂和江, 稲葉洋子. 岩手県N保健所管内の在宅終末期ケアに関する調査(第2報)ー住民意識調査からー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 556.

平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 米澤洋美, 他. 市町村合併に伴う住民の日常生活圏域と保健福祉サービスのあり方. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 476.

鳩野洋子, 平野かよ子, 川底トシエ. 自殺予防に対する住民の意識. 日本地域看護学会第8回学術集会; 2005.6.11; 豊田. 2005. p.81.

鳩野洋子, 岡本玲子, 塩見美抄, 中山貴美子, 別所遊子, 尾島俊之, 他. 保健師に必要な能力の明確化に関する研究その1ー文献からの考察ー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 469.

岡本玲子, 鳩野洋子, 塩見美抄, 中山貴美子, 別所遊子, 尾島俊之, 他. 保健師に必要な能力の明確化に関する研究その2ーインタビュー結果からの考察ー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 469.

西山真弓, 丸山寿江, 鳩野洋子. 相模原市におけるヘルスアセスメント事業(1) 虚弱高齢者スクリーニング質問紙の作成. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 825.

丸山寿恵, 西山真弓, 鳩野洋子. 相模原市におけるヘルスアセスメント事業(2) 本実施結果と課題. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 826.

菊間博子, 坂口佳江, 鈴木恵子, 飯田恵久子, 鳩野洋子, 山口佳子, 他. 市町村における保健事業委託に関する調査1報ー質問紙調査からー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 450.

飯田恵久子, 鈴木恵子, 菊間博子, 坂口佳江, 鳩野洋子, 山口佳子, 他. 市町村における保健事業委託に関する調査2報ー聞き取り調査からー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 450.

福島富士子. 子どもを見ると親がわかる?ー家庭保健の推進ー. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 和光. 同抄録集. p.47.

福島富士子, 待鳥美光. 思春期の子どもを持つ親の‘気づき’を促すワークショップの実践. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 和光. 同抄録集. p.153.

待鳥美光, 福島富士子. 子どもを犯罪から守る住民主体の地域ネットワークの展開. 第24回日本思春期学会総会学

術集会; 2005.8.20-22; 和光. 同抄録集. p.115.

渡辺幸子, 福島富士子. 思春期精神保健相談の実態と課題. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 和光. 同抄録集. p.95.

澤麗子, 福島富士子, 待鳥美光. 学校と児童館における高校生の居場所の実際ー大人がかかわることの意味. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 埼玉. 同抄録集. p.143.

福永一郎, 櫃本真事, 山崎嘉久, 福島富士子. 地域資源の有効活用による児童虐待予防に関する研究ー妊娠・出産期ー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 646.

藤内修二, 尾崎米厚, 糸数公, 尾島俊之, 櫃本真事, 福島富士子, 他. 健やか親子21の推進に関する研究(第14報) 健やか親子21関連事業の実施状況. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 718.

福島富士子, 藤内修二, 尾島俊之, 尾崎米厚, 櫃本真事, 糸数公, 他. 健やか親子21の推進に関する研究(第15報) 一次世代育成支援行動計画の策定状況ー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 719.

藤内修二, 尾崎米厚, 櫃本真事, 糸数公, 尾島俊之, 福島富士子, 他. 健やか親子21の推進に関する研究(第16報) ー次世代行動計画策定に影響を及ぼす要因ー. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 719.

井伊久美子, 宮崎美砂子, 奥田博子. 中越震災被災者の健康ニーズ支援のあり方の検討保健師の役割と派遣システム(第1報). 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 459.

宮崎美砂子, 井伊久美子, 奥田博子. 中越震災被災者の健康ニーズ支援のあり方の検討保健師の役割と派遣システム(第2報). 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 459.

栗原南海子, 奥田博子. 児童虐待予防として行う保健所MCGのあり方に関する検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 726.

斉藤ひろみ, 青柳玲子, 小川田鶴子, 奥田博子, 平野かよ子, 他. 地域保健における保健師活動に求められる看護管理の概念整理. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 497.

相馬幸恵, 小山歌子, 歌川孝子, 奥田博子. 派遣保健師の効果的な災害支援活動のあり方ー中越大震災における活動実態からー. 第27回全国地域保健師学術研究会; 岐阜. 2005. p.236-237.

中板育美. 親支援グループを保健機関が行うことの意味とその評価に関する研究. 第11回日本子どもの虐待防止学会学術集会; 2005.9.3-4; 江別. JASPCAN; 2005. p.59.

石山直子, 中板育美, 田熊恵子, 對馬かな子, 藤原千秋, 野山修. 子どもの虐待予防活動の展開 第13報～虐待要因点数化の検証～. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 725.

對馬かな子, 中板育美, 田熊恵子, 藤原千秋, 野山修. 子どもの虐待予防活動の展開 第14報～虐待予防における社会資源の課題について～. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 725.

佐野裕美子, 中板育美, 浅井澄代, 赤田佳子. 母子保健事業における保健所と市町村の協働. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 644.

谷村千里, 近藤良伸, 片岡大輔, 井上五月, 中板育美, 青山旬, 他. 幼児健診受診児の両親を対象とした歯科保健調査に基づく保健サービスの検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 907.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

平野かよ子. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進事業「市町村合併に伴う住民参加型の日常生活圏域の設定と保健福祉サービスの提供体制のあり方に関する研究」平成16年度研究報告書; 2005.

田代順子, 平野かよ子, 他. 国際医療協力研究委託費「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」平成16年度研究報告書; 2005.

岡本玲子, 鳩野洋子, 塩見美佐, 中山貴美子, 別所遊子, 尾島俊之. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「変革期に対応する保健師の新たな専門技能獲得に関する研究」(主任研究者: 岡本玲子) 平成16年度研究報告書; 2005.

岩永俊博, 平野かよ子, 曾根智史, 鳩野洋子, 他. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「保健従事者に対する国及び地方自体での教育研修のあり方に関する研究」(主任研究者: 岩永俊博) 平成14年～15年度研究報告書; 2005.

福島富士子, 小林秀資, 岡本悦司, 柳澤秀明, 宮里和子. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「少子化

社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」(主任研究者・福島富士子) 平成16年度研究報告書; 2005.

三砂ちづる, 福島富士子, 小林秀資. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究」(主任研究者・三砂ちづる) 平成16年度研究報告書; 2005.

山縣然太郎, 尾島俊之, 藤内修二, 福島富士子. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「健やか親子21の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」(主任研究者・山縣然太郎) 平成16年度研究報告書; 2005.

松田宣子, 奥田博子. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「保健師による母子保健活動における児童虐待リスクアセスメントツールの開発」(主任研究者: 松田宣子. 課題番号: H-15子ども-008) 平成15年度研究報告書; 2005. p.1-47.

井伊久美子, 宮崎美砂子, 奥田博子. 新潟県中越地震被災者の健康ニーズへの緊急時および中期的支援のあり方の検討. 厚生労働科学研究費補助金特別研究事業「新潟中越地震を踏まえた保健医療における対応・体制に関する調査研究」(主任研究者: 近藤達也); 2005. p.1-68.

奥田博子. 新潟中越地震の被災地を訪ねて「新潟中越地震における保健師活動について中間報告書」. 厚生労働省健康局総務課保健指導室; 2005. p.99.

奥田博子, 村上祥子, 櫻井和子, 五十川房子, 太田昭子, 宇田優子, 他. 災害時保健師活動ガイドラインー新潟県ー. 新潟県福祉保健部; 2005. p.1-105.

田上美千佳, 新村順子, 近藤直司, 野中猛, 青木豊, 中板育美, 他. 児童環境づくり等総合調査研究事業「児童福祉施設と地域の合同による養育支援計画の実施方法と体制整備に関する研究」(主任研究者 田上美千佳) 平成15年度研究報告書; 2005. p.1-103.

長野みさ子, 石田東生, 北島和子, 東海林文夫, 井口ちよ, 中板育美, 他. 地域保健総合推進事業「児童虐待予防対策における保健所の役割に関する研究」(主任研究者 長野みさ子) 平成15年度研究報告書; 2005. p.1-105.

中板育美, 他. 東京都課題別推進プラン事業「子どもの虐待予防活動の展開」(代表 中板育美) 平成16年度報告書; 2005.

### Reviews

Okuda H. Relief activities in large earthquakes -Kobe 1995, Taiwan 1999 and Niigata 2004. Public Health of Japan 2005; 114-121.

### Proceedings with Abstracts

Tashito J, Hirano K, et al. Design of educational programs for International Nursing Collaborators in Japan: Evidence-based curricula. In: 3rd Japan Academy Nursing Science International Nursing Research

Conference; May 2005. Proceedings. 2005. p.177.

Hirano K, Yamada K, Hatono Y. A Study in development of evaluation points regarding community health nursing in Japan. In: American Public Health Association 133rd Annual Meeting; 2005; Philadelphia, USA. Proceedings. 2005. p.72.

Hatono Y, Okamoto R. Development of long-term care risk assessment scale for the elderly. In: The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research; Oct 2005; Tokyo. Proceedings. 2005. p.148.

Hirano K, Yamada K, Hatono Y. A Study in development of view points of evaluation regarding community health nursing. In: American Public Health Association 133rd Annual Meeting and Exposition; Dec 2005; LA. Proceedings. 2005.

Shiomi M, Okamoto R, Makayama K, Ojima T, Sesso Y,

Hatono Y, et al. A study of desirable competencies to be acquired by public health nurses. In: The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research; Oct 2005; Tokyo. Proceedings. 2005. p.66.

## 生涯保健部

### Department of Health Promotion and Research

#### 学術雑誌に発表した原著論文

石井博子, 田中哲郎, 佐原康之. 地域子育て支援センターにおける支援内容と事故防止指導の可能性. 保育と保健 2005; 11(1): 40-44.

田中哲郎, 内山有子, 石井博子. わが国の全死因と不慮の事故の死亡率の国際比較. 日本小児救急医学会雑誌 2005; 4(1): 127-134.

石井博子, 田中哲郎, 市川光太郎, 大田千晴, 山田至康, 津田文史朗. 患者指導用リーフレットに対する保護者の考え方. 日本小児救急医学会雑誌 2005; 4(1): 135-137.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 山田至康. 市町村における小児救急医療の現状と対応. 日本小児救急医学会雑誌 2005; 4(1): 138-144.

石井博子, 田中哲郎: 子どもの事故防止の可能性と保育園・保護者の望む事故防止情報入手先. 保育と保健 2005; 11(2): 29-35.

石井博子, 田中哲郎. 子どもたちを危険から守る 園での不慮の事故の現状 保育園での事故の現状とリスクマネジメント. チャイルド ヘルス. 2006; 9(1): 4-8.

内山有子, 田中哲郎. 子どもたちを危険から守る 園での不慮の事故の現状 アメリカにおける事故防止・安全教育プログラム. チャイルド ヘルス. 2006; 9(1): 9-11.

田中哲郎, 内山有子, 石井博子: 健康のために必要な知識とは. 健康教育 2005; 658: 63-67.

小林正子. 身長・体重の季節変動からみた小児の発育に関する一考察. 子どもと発育発達. 2005; 3(2): 115-9.

須藤紀子, 佐藤加代子. 胎児期のアルコール曝露の影響に関する前向きコホート研究の動向と少量飲酒が子どもの身体発育に及ぼす影響についての系統的レビュー. 栄養学雑誌 2005; 63(5): 291-9.

須藤紀子, 佐藤加代子. 市町村保健センターにおける妊婦に対する飲酒指導の実態. 栄養学雑誌 2005; 63(4): 227-33.

#### 学術誌に発表した総説

田中哲郎. 小児救急が問題となる社会的背景. 日本医師会雑誌 2005; 134(5): 793-796.

田中哲郎. 保育園における事故防止と危機管理. 保育と保健 2005; 11(1): 80-5.

内山有子, 田中哲郎. 青少年暴力の原因究明と対策 ADHDの実態と診療体制について. 保健医療科学 2005;

54(2): 94-100.

小林正子. 青少年暴力の原因究明と対策「キレる」に関する中高生の生活状況調査からの検討. 保健医療科学 2005; 54(2): 101-7.

小林正子. 身体計測値を活用した健康管理のためのグラフソフトの提供. 学校保健研究 2005; 47(2): 196-7.

小林正子. 発育発達を基盤とした健康教育と養護教諭の役割. 全国養護教諭連絡協議会第10回研究協議会誌 2005; 26-29.

小林正子. 母子健康手帳を活用した子育て支援. 月刊母子保健 2005; 555: 3.

小林正子. 身体発育学を基盤とした子どものからだ・健康～発育を知らばからだも心もみえてくる～. 健康教室 2005; 11月増刊号: 126-145.

佐藤加代子. 保健所・保健センター栄養士・管理栄養士への提言. 食生活 2005; 99(1): 21-24.

佐藤加代子. 学童期の食, 学校給食は現代において適正な栄養を供給しているか, 肥満を増加させている一因では?. 小児内科 2005; 37(5): 657-659.

須藤紀子. 青少年暴力に関連する食生活因子. 保健医療科学 2005; 54(2): 108-12.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 若い女性のやせの増加と問題点. 臨床栄養 2006; 108(1): 14.

#### 著書

田中哲郎, 土地安昭, 編. 学校の危機管理研修. 救急処置・応急処置訓練. 東京: 教育開発研究所; 2005. p.220-223.

田中哲郎, 高橋悦二郎, 編. 子育ての保健学—第3章事故と応急手当—. 東京: 大修館書店; 2005.

田中哲郎. 保育園における事故防止と危機管理マニュアル(改訂第二版). 東京: 日本小児医事出版社; 2005.

田中哲郎. 幼稚園・保育園・家庭防災ハンドブック. 東京: 学習研究社; 2005. p.146-176.

瀧本秀美. 妊娠期. 戸谷誠之, 藤田美明, 伊藤節子, 編. 応用栄養学. 東京: 南江堂; 2005. p.47-62.

瀧本秀美, 杉山みち子, 秋吉美穂子, 大輪陽子. 更年期(閉経期). 戸谷誠之, 藤田美明, 伊藤節子, 編. 応用栄養学. 東京: 南江堂; 2005. p.203-16.

小林正子. 地域保健・母子保健 国立健康・栄養研究所

監修「管理栄養士全科のまとめ」．東京：南山堂；2005. p.28-30.

小林正子．子どものたちの発育・発達を分析する一身体計測値の活用法．「養護教諭-毎日の執務とその工夫」．東京：第一法規；2005. p.1-21.

佐藤加代子．ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育，乳・幼児期．武見ゆかり，丸山千寿子，足立淑子編．栄養教育論．東京：南江堂；2005. p.207-220.

佐藤加代子．公衆栄養学の概念．独立行政法人 国立健康・栄養研究所，監修．管理栄養士全科のまとめ．東京：南江堂；2005. p.272.

佐藤加代子．公衆栄養活動．独立行政法人 国立健康・栄養研究所監修，管理栄養士全科のまとめ．南山堂(株)：東京，2005. p.273.

佐藤加代子．教育機関の立場から保健所・保健センター栄養士・管理栄養士への提言，栄養士・管理栄養士まるとガイド 2005: 43-46.

須藤紀子．栄養疫学．独立行政法人国立健康・栄養研究所監修．管理栄養士全科のまとめ．東京：南山堂；2005. p.284-6.

須藤紀子．諸外国の健康・栄養問題の現状と課題，及び健康・栄養政策．独立行政法人国立健康・栄養研究所監修．管理栄養士全科のまとめ．東京：南山堂；2005. p.297-8.

須藤紀子．栄養教育の国際的動向．岸田典子，菅淑江，編．ウエルネス栄養教育・栄養指導論 第3版．東京：医歯薬出版；2005. p.36-42.

須藤紀子．食環境づくりにおける栄養教育．中村丁次，編．食生活と栄養の百科事典．東京：丸善；2005. p.726-8.

須藤紀子．栄養教育の国際的動向．中村丁次，編．食生活と栄養の百科事典．東京：丸善；2005. p.729-34.

須藤紀子．公衆栄養学の概念．中村丁次，編．食生活と栄養の百科事典．東京：丸善；2005. p.835-9.

須藤紀子，山田和彦．エネルギーとタンパク質代謝．小林彰夫監訳．ケンブリッジ世界の食物史大百科事典3．東京：朝倉書店；2005. p.375-402.

須藤紀子．諸外国の栄養状況と施策．八倉巻和子，編著．Nブックス公衆栄養学．東京：建帛社；2005. p.207-17.

### 抄録のある学会報告

石井博子，田中哲郎，市川光太郎，大田千晴，山田至康，津田文史朗．患者指導用リーフレットに対する保護者の考え方．第19回日本小児救急医学会；2005.07；仙台．日本小児救急医学会雑誌 2005; 4(1): 102.

内山有子，田中哲郎，石井博子．母子保健事業で用いて事故防止マニュアルと指導機材の作成．第64回日本公衆衛生学会総会；2005.9.14-16；札幌．日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 664.

田中哲郎，内山有子，石井博子．わが国の全死因と不慮の事故の死亡率の国際比較．第64回日本公衆衛生学会総会；2005.9.14-16；札幌．

石井博子，田中哲郎，内山有子．子どもの事故防止の可能性．第64回日本公衆衛生学会総会；2005.9.14-16；札幌．日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 665.

田中哲郎．年齢別にみた子どもの事故防止の可能性と保育園保護者の望む事故情報入手先．2005.10. 第52回日本小児保健学会；2005.10.6-8；下関．

瀧本秀美，加藤則子．若年妊婦に置ける低出生体重児分娩．第24回日本思春期学会総会学術集会；2005.8.20-22；和光．第24回日本思春期学会総会学術集会抄録集．p.108.

小林正子，松村真木子．夏太りが肥満児をつくる－30年に亘る小学生の月次体重データの時系列解析による立証－．第3回日本発育発達学会；2005.3；東京．講演集．p.40.

小林正子．心身の健康状態を示す発育グラフ～思春期の健康管理に役立てるために．第24回日本思春期学会；2005.8；和光．抄録集．p.153.

小林正子．身体計測値を用いた子どもの健康管理のためのグラフソフトの開発と活用．第14回日本健康教育学会；2005.8；福岡．講演集．p.248-9.

小林正子，高石昌弘，衛藤隆，中村安秀．子どもを一貫して見守るための母子健康手帳の活用に関する研究．第64回日本公衆衛生学会総会；2005.9.14-16；札幌．日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 737.

小林正子，小林麻衣子．心身状態把握に役立つ身長・体重グラフ．第64回日本公衆衛生学会総会；2005.9.14-16；札幌．日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 896.

小林正子，高石昌弘，衛藤隆他．母子健康手帳のさらなる活用に関する研究第3報－常陸大宮市「親子健康手帳」の改訂版作成と啓発－．第52回日本小児保健学会；2005.10.6-8；下関．第52回日本小児保健学会講演集．p.514-515.

小林正子，中村安秀．母子健康手帳のさらなる活用に関する研究第4報－家庭・地域・学校の連携による子どもを巡るネットワーク構築についての検討－．第52回日本小児保健学会；2005.10.6-8；下関．第52回日本小児保健学会講演集．p.516-517.

山口類，小林正子，向井田紀子．状態空間モデルの生体データへの適用について－乳幼児の体重の解析－．第16回日本成長学会；2005.11；福岡．抄録集．p.40.

小林正子，山口類，向井田紀子．出生から4歳までの体重発育における日内変動・週内変動・自己回帰過程等のリズム形成に関する検討．第16回日本成長学会；2005.11；福岡．抄録集．p.41.

小林正子，高石昌弘，三木とみ子他．母子健康手帳および学校健康手帳の役割と活用に関する研究：第3報－子どもの発育と健康を継続して見守るために，生涯の健康づくりのために－．第52回日本学校保健学会；2005.10；仙台．講演集．p.346-347.

澤口真規子，本田栄子，伊藤佳代子，岩田信子，宮田美恵子，沢野香代子，佐藤加代子．保健所栄養士の政策能力向上をめざして（第1報）－配置・業務・研修体系の現状と課題－．第52回日本栄養改善学会講演集；2005.9.27-29；

徳島. 栄養学雑誌 2005; 63(5): 339.

澤口真規子, 本田栄子, 伊藤佳代子, 岩田信子, 宮田美恵子, 沢野香代子, 佐藤加代子. 保健所栄養士の政策能力向上をめざして(第2報)ー行政能力を生かした事業展開への課題ー. 第52回日本栄養改善学会講演集: 2005.9.27-29; 徳島. 栄養学雑誌 2005; 63(5): 339.

須藤紀子, 佐藤加代子, 岩永俊博. 国立保健医療科学院における研修についてのアンケート調査ー受講経験のある栄養士とない栄養士の比較ー. 第52回日本栄養改善学会講演集: 2005.9.27-29; 徳島. 栄養学雑誌 2005; 63(5): 440.

加藤則子, 松田智大, 須藤紀子. わが国における双胎及び品胎の最適出産体重並びに妊娠期間に関する検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 282.

須藤紀子, 大塚柳太郎. 早番と遅番が女子交替制勤務者の睡眠, 疲労, 食事摂取に及ぼす影響. 第78回日本産業衛生学会; 2005.4.20-23; 東京. 産業衛生学雑誌 2005; 47(増刊): 673.

加藤則子, 須藤紀子, 瀧本秀美, 佐藤加代子. 0歳から18歳までのBMI基準値の試作. 第52回日本小児保健学会; 2005.10.6-8; 下関. 第52回日本小児保健学会講演集. p.338-339.

加藤則子, 須藤紀子, 瀧本秀美, 佐藤加代子. 0歳から18歳までのBMI基準値の試作. 第24回日本思春期学会総会学術集会; 2005.8.20-22; 和光. 第24回日本思春期学会総会学術集会抄録集. p.154.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

田中哲郎, 石井博子. 子どもの事故防止の可能性と保護者の望む事故防止情報入手先. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「子どもの事故予防のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年報告書. 2005.03. p.5-11.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 安藤昭和. 健診時に安全チェックリストを用いた事故防止指導の効果. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「子どもの事故予防のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年報告書. 2005.03. p.12-24.

亀井美登里, 田中哲郎, 石井博子, 梅田勝. 市町村の事故防止活動の現状と希望するマニュアル内容. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「子どもの事故予防のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年報告書. 2005.03. p.25-30.

田中哲郎, 亀井美登里, 能勢修, 長村敏生, 布野史子, 東美佐江, 西村由美, 野村ひろみ, 田中あや子, 福留浩子, 石井博子, 内山有子. 母子保健事業で用いる事故防止マニュアル. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「子どもの事故予防のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年報告書.

2005.03. p.31-77.

市川光太郎, 田中哲郎, 山田至康, 菅野好史, 戸叶正義. テレビ会議システムによる小児救急遠隔システム実験. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.6-11.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 山田至康. 市町村における小児救急医療の現状と対応. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.12-24.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 山田至康. 小児医療の採算性と今後の小児科運営ー臨床研修病院長への調査よりー. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.25-37.

田中哲郎, 市川光太郎, 山田至康. 新臨床研修制度と小児救急医療の充実ー研修の現状と小児医療関係者の考えー. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.38-47.

市川光太郎, 田中哲郎, 山田至康. 新臨床研修医における小児救急医療研修に関する調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.48-56.

石井博子, 田中哲郎, 市川光太郎, 大田千晴, 山田至康, 津田文史朗. 患者指導用リーフレットに対する保護者の考え方. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.57-61.

田中哲郎, 内山有子, 石井博子, 須藤紀子. わが国の小児の保健医療水準ー先進国との死亡率の比較よりー. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎) 平成16年度報告書. 2005.03. p.62-67.

瀧本秀美. 妊娠中の母体体重増加量と妊娠転帰との関連. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「若い女性の食生活はこのままで良いのか? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討」(主任研究者: 吉池信男) 平成16年度研究報告書. 2005. p.74-110.

小林正子. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」(主任研究者: 小林正子. 課題番号: H14ー子どもー003) 平成16年度総括報告書. 2005. p.1-6.

小林正子, 高石昌弘, 衛藤隆他. 母子健康手帳のさらなる活用に関する研究Ⅲ. 厚生労働科学研究費補助金子ども

家庭総合研究事業「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」(主任研究者: 小林正子, 課題番号H14-子ども-003) 平成16年度分担研究報告書. 2005. p.7-54.

小林正子. 子どもの発育を継続して見守るためのグラフソフトの開発と活用. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児から思春期まで一貫し

た子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」(主任研究者: 小林正子) 分担研究報告書. 2005. p.55-58.

小林正子. 平成14~16年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」(主任研究者: 小林正子) 総合研究報告書. 2005. p.91-103.

## Originals

Takimoto H, Yoshiike N, Fukuoka H, Yokoyama T: Increase in low birth weight infants in Japan and associated risk factors, 1980-2000. J Obstet Gynaecol Res 2005; 31(4): 314-322.

## Proceedings with abstracts

Sudo N, Yokoyama T, Sato K, Mizushima S. Develop-

ment of a food service system that enables consumers to plan and assess their diet and provides practice in healthy eating. In: The 6th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress; Oct 22-26 2005; Bangkok, Thailand. J Med Assoc Thai 2005; 88 (Suppl. 6): S93.

## 福祉サービス部

## Department of Health and Social Services

### 学術雑誌に発表した原著論文

宮野尚哉, 山腰みゆき, 東野定律, 筒井孝子. 一般化されたHighly Optimized Toleranceモデルによるセンサネットワークの設計. 電気学会論文誌C 2005; 125(4): 93-8.

東野定律, 桐野匡史, 種子田綾, 矢嶋祐樹, 筒井孝子, 中嶋和夫. 介護者における老親扶養義務感と人口学的要因の関係. 厚生指標 2005; 52(2):1 -6.

東野定律. 痴呆性高齢者の状態の経年的変化と介護サービス利用に関する研究. 日本病院管理学会誌 2005; 42(1): 75-87.

桐野匡史, 矢嶋裕樹, 柳漢守, 筒井孝子, 中嶋和夫. 在宅要介護高齢者の主介護者における介護負担感と心理的虐待の関連性. 厚生指標 2005; 52(3): 1-8.

東野定律. 在宅要援護高齢者の問題行動と主介護者の負担感の関係. 日本保健科学学会誌 2005; 7(4): 250-56.

東野定律. 介護保険制度下における基幹的社会福祉協議会の「地域福祉権利擁護事業」における連携実態に関する研究-基幹的社会福祉協議会における市町村介護保険制度担当課等との連携体制に関する全国調査から-. 日本公衆衛生学雑誌 2005; 52(3): 264-72.

### 学術誌に発表した総説

筒井孝子, 野村陽子. 保健師の業務時間分析からみた地域保健活動の今後. 保健師ジャーナル 2005; 61(8): 720-9.

森川美絵. 書評と紹介 杉本貴代栄編著『フェミニスト福祉政策原論-社会福祉の新しい研究視角を求めて』. 大原社会問題研究所雑誌 2005.2; (555): 66-9.

### 抄録のある学会発表

森川美絵. 生活保護現業員の業務負担・自立支援に対す

る意識-担当ケース数との関連を中心に-. 福祉社会学会第3回大会; 2005.6.25-6; 札幌市. 同報告予稿集. 2005. p.49-50.

筒井孝子, 東野定律, 栗田仁子. 市町村における保健師の業務実態および連携能力に関する全国調査結果 (1). 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 537.

筒井孝子, 東野定律, 栗田仁子. 市町村における保健師の業務実態および連携能力に関する全国調査結果 (2). 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 537.

森川美絵, 谷川ひとみ. 生活保護業務の民間委託に対する現業員の意識. 日本社会福祉学会第53回全国大会; 2005. 10.8-9; 仙台. 同要旨集. 2005. p.385.

東野定律, 筒井孝子. 急性期入院医療における看護サービスの評価指標の開発に関する研究 (1) -特定集中治療室, ハイケア病棟, 一般急性期病棟の比較-. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 第43回日本病院管理学会学術総会抄録集. p36.

筒井孝子, 東野定律. 急性期入院医療における看護サービスの評価指標の開発に関する研究 (2) -病棟間における患者の状態と看護提供実態-. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 第43回日本病院管理学会学術総会抄録集. p36.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「介護報酬改定が地域における介護サービスの質に与える影響に関する統計的研究」平成16年度研究報告書. 2005.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「介護報酬改定が地域における介護サービスの質に与える影響に関する統計的研究」平成15-16年度総合研究報告書. 2005.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合研究事業「急性期入院医療における医療および看護の集中度を基礎とした患者分類方法に関する研究」平成16年度研究報告書. 2005.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合研究事業「急性期入院医療における医療および看護の集中度を基礎とした患者分類方法に関する研究」平成14-16年度総合研究報告書. 2005.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健サービスの担当職員における連携評価指標開発に関する統計的研究」平成16年度研究報告書. 2005.

筒井孝子, 主任研究者. 老人保健事業推進費等補助金老

人保健健康増進等事業「(2) 介護保険制度の適切な実施及びサービスの質の向上に寄与する調査研究事業 要介護状態の改善に資するサービスプログラム及びアセスメント手法の開発並びに検証事業 要介護状態とサービス提供状況の検証・分析」平成16年度研究報告書. 2005.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生省保健局医療課による委託事業「看護必要度に関する基礎的研究」平成16年度報告書. 2005.

筒井孝子, 西村和雄, 小山秀夫, 池田省三, 浦坂純子, 柴尾慶次, 他. 大津市研究事業「介護保険サービスの質の向上に関する研究」平成16年度研究報告書. 滋賀: 大津市; 2005.

森川美絵. 生活保護業務とその民間委託に関する意識調査(1). 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「社会福祉行政事務の民間委託(アウトソーシング)に関する研究」(主任研究者: 栗田仁子) 平成16年度研究報告書. 2005. p.5-30.

## Originals

Kaneita Y, Ohida T, Uchiyama M, Takemura S, Kawahara K, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Yagi Y, Kaneko A, Tsutsui T, Akashiba T. Excessive daytime sleepiness among the Japanese general population. *Journal of Epidemiology*. 2005; 15(1): 1-8.

Tsutsui T, Muramatsu N. Care needs certification in the long-term care insurance system of Japan. *J Am Geriatrics Soc* 2005; 53(3): 522-527.

Tsutsui T, Yu H, Kirino M, Yajima Y, Kim Y-T, Nakajima K. The state of research on elder abuse in

Japan and future directions. *Int J Welfare for the Aged* 2005; 12: 3-21.

Higashino S, Yu H, Kirino M, Yajima Y, Tsutsui T, Tsutsui S, Nakajima K. The relationship between mental health and care burden in the primary caregivers of seniors requiring support care. *J Japan Academy of Health Sciences* 2005; 8(3): 147-153.

Miyano T, Tsutsui T, Seki Y, Higashino S, Taniguchi H. Prediction of care class by local additive reference to prototypical examples. *IEEE Trans Information Technology in Biomedicine* 2005; 9(4): 502-507.

## 口腔保健部

### Department of Oral Health

#### 学術雑誌に発表した原著論文

安藤雄一, 瀧口徹, 深井穫博. フッ化物洗口・家庭応用法の歯科医院における指導に関する全国実態調査. *口腔衛生学会雑誌* 2005; 55: 22-31.

渡辺猛, 安藤雄一, 金崎信夫, 埴岡隆. 高齢者の現在歯数と歯科医療費の関連 市町村別データによる検討. *口腔衛生学会雑誌* 2005; 55: 32-40.

瀧口徹, 深井穫博, 青山旬, 安藤雄一, 高江洲義矩. 都道府県の人口10万人当たり歯科医師数の20年間の変化と歯科大学(歯学部)の特性との関連 一般化線形モデル(GLIM)分析による検証. *口腔衛生学会雑誌* 2005; 55: 524-36.

相田潤, 安藤雄一, 青山旬, 丹後俊郎, 森田学. 経験的ベイズ推定値を用いた市町村別3歳児う蝕有病者率の地域比較および歯科保健水準との関連. *口腔衛生学会雑誌* 2005; 54: 566-76.

木本一成, 安藤雄一, 晴佐久悟, 田浦勝彦, 小林清吾, 荒川

浩久, 磯崎篤則, 境脩. 日本における集団応用でのフッ化物洗口に関する実態調査(第2報) 施設別, 都道府県別の普及状況. *口腔衛生学会雑誌* 2005; 55: 608-15.

岡山秀仁, 井田博久, 野村義明, 花田信弘. 唾液中の口腔レンサ球菌とミュータンスレンサ球菌定量に対する2種類の歯垢染色剤の影響. *口腔感染症学会誌* 2005; 12(2): 15-17.

武内博朗, 奥田健太郎, 西川原総生, 泉福英信, 花田信弘. 光学的手法による検出法の検討. *Bacterial Adherence & Biofilm* 2005; 19: 21-26.

花田信弘. 口腔保健からみたWHO疾病分類の問題点. *ヘルスサイエンス・ヘルスケア* 2005; 5(1): 31-34.

#### 学術誌に発表した総説

今井奨. 【歯の保健と食を考える】 虫歯と糖. *FFIジャーナル* 2005; 210: 317-24.

今井奨. 【「内科的う蝕治療」への転換に向けて】 再石灰化のメカニズム キシリトールの効果と限界. *日本歯科評*

論 2005; (752): 67-72.

今井奨. 【齲蝕の予防と治療 外科的治療から内科的治療へ】 食品による齲蝕予防. 細胞 2005; 37(3): 96-9.

増田宏, 安藤雄一, 土井徹, 宮間浩史, 山岡和枝, 岡本悦司, 望月友美子, 磯野威. 国立保健医療科学院・遠隔教育受講者アンケート調査報告. 保健医療科学 2005; 54: 205-215.

安藤雄一, 土井徹. 国立保健医療科学院における遠隔研修の現状と展望. 保健医療科学 2005; 54: 198-204.

安藤雄一. 歯科衛生士のためのコクランレビュー抄訳集 電動歯ブラシは手用歯ブラシに比べてプラーク除去・歯肉炎抑制に有効か? 歯科衛生士 2005; 29(12): 84-6.

安藤雄一. 歯科衛生士のためのコクランレビュー抄訳集 定期健診受診患者の適切なリコール間隔は? 歯科衛生士 2005; 29(11): 89-91.

安藤雄一. 歯科衛生士のためのコクランレビュー抄訳集 シーラントは小児の永久歯う蝕予防に有効か? 歯科衛生士 2005; 29(10): 81-3.

安藤雄一. 歯科衛生士のためのコクランレビュー抄訳集 定期的スクレーピング・研磨は, 成人の歯周病に有効か? 歯科衛生士 2005; 29(9): 74-6.

安藤雄一. 歯科衛生士のためのコクランレビュー抄訳集 フッ化物局所応用によるう蝕予防法の有効性. 歯科衛生士 2005; 29(8): 63-5.

安藤雄一. 歯科衛生士のためのコクランレビュー抄訳集 コクランレビューって何? 歯科衛生士 2005; 29(7): 60-3.

安藤雄一. 構造化抄録で読むクリニカルトピックス 長期ケア施設に在住する高齢者のう蝕予防に有効なのは, フッ化物洗口か? クロルヘキシジンか?. The Quintessence 2005; 24: -.

安藤雄一. 構造化抄録で読むクリニカルトピックス 患者・歯科医師の主観的判断は, う蝕による治療の必要性を予測できるか?. The Quintessence 2005; 24: -.

安藤雄一. 構造化抄録で読むクリニカルトピックス 学校教師の監督によるフッ化物配合歯磨剤を用いたブラッシングは, う蝕予防に有効か. The Quintessence 2005; 24: 1850-1852.

安藤雄一. 構造化抄録で読むクリニカルトピックス 幼児のう蝕は健全な食生活と関連するか. The Quintessence 2005; 24: -.

安藤雄一. 構造化抄録で読むクリニカルトピックス 水道水フッロリデーション実施地域におけるボトルウォーターの飲用は乳歯う蝕の増加につながるか?. The Quintessence 2005; 24: -.

安藤雄一. 構造化抄録で読むクリニカルトピックス う蝕修復の過剰治療は, 忙しい/広告を出す/シーラントに消極的な歯科医師によって行われる頻度が高い. The Quintessence 2005; 24: -.

安藤雄一, 瀧口徹, 深井穫博. フッ化物洗口・家庭応用法の歯科医院における指導に関する全国実態調査. 口腔衛生学会雑誌. 2005; 55(1): 22-31.

若井建志, 川村孝, 内藤真理子, 内藤徹, 小島正彰, 中垣晴男, 梅村長生, 横田誠, 花田信弘. 歯科医師を対象とした歯と全身の健康, 栄養との関連に関するコホート研究, 歯科医師自身からのエビデンス発信をめざして. 日本歯科医師会雑誌 2005; 58(9): 865-873.

花田信弘. 感染症としての虫歯. 日本薬学会誌 ファルマシアくすりの科学 2005; 41(6): 534-8.

武内博朗, 花田信弘. Dental Drug Delivery System (3DS) による病原性口腔細菌の制御, う蝕と歯周病の微生物学的リスク低減治療. 歯科審美 2005; 18(1): 54-65.

武内博朗, 奥田健太郎, 泉福英信, 西川原総生, 花田信弘. INTRAORAL CAMERA/口腔内カメラを用いたバイオフィルム検出 2. 光学的手法による歯周病関連バイオフィルムの検出法の検討. The Quintessence 2005; 24(3): 574-9.

花田信弘. 慢性持続性感染症に歯科衛生士はどう向き合うか. 歯科衛生士. 2005; 29(1): 15-24.

花田信弘. 口腔保健と全身的健康は関連するか 総論として. 産業衛生学雑誌. 2005; 47(増刊): 322-3.

花田信弘. 21世紀の最新デンタルテクノロジー 歯科検査システムの確立 齲蝕・歯周病の検査システムの確立へ向けて 予防因子と病原因子のバランスを知る. 日本歯科医学会誌. 2005; 24: 94-9.

花田信弘. 齲蝕の予防と治療 外科的治療から内科的治療へ, 3DSによる齲蝕予防. 細胞 2005; 37(3): 88-91.

花田信弘. 唾液と歯周病の発症には, どんな関係があるのでしょうか? 歯界展望. 2005; 105(3): 592.

花田信弘. 唾液を検査すると, 患者さんの歯周病のリスクはわかるのでしょうか? 歯界展望. 2005; 105(3): 590-1.

花田信弘. 口腔内の細菌に対して, 唾液はどんな働きをするのですか? 歯界展望. 2005; 105(3): 583.

花田信弘. 齲蝕・歯周病の検査システムの確立へ向けて. 東京都歯科医師会雑誌. 2005; 53(1): 20-1.

花田信弘. 除菌のメカニズム. 日本歯科評論. 2005(752): 51-8.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. 口腔保健が関係する生活の質 (QOL): WHO第2回国際共同研究 (ICS II) 報告書の概要. 日本歯科評論 2005; 65(1): 180-185.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. 社会グループ別にみた口腔に関連する生活の質 (QOL), WHO第2回国際共同研究 (ICS II) 報告書の概要. 日本歯科評論 2005; 65(2): 184-190.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. 口腔保健が関係する生活の質 (QOL): 多変量解析 (I): WHO第2回国際共同研究 (ICS II) 報告書の概要. 日本歯科評論 2005; 65(4): 168-173.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. 口腔保健が関係する生活の質 (QOL): 多変量解析 (II): WHO第2回国際共同研究 (ICS II) 報告書の概要. 日本歯科評論 2005; 65(4): 174-178.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. 国際共同研究 (ICS) の結果が示すもの, WHO第2回国際共同研究 (ICS II) 報告書の概要. 日本歯科評論 2005; 65(5): 174-179.

鴨井久一, 野村義明, 佐藤勉, 花田信弘. Topics唾液を使った新しい歯周疾患検査法について 歯周検査における基準値設定の背景. 歯科臨床研究. 2005; 2(2): 108-10.

## 著書

武内博朗, 花田信弘. 予防歯科における薬とその使い方. 朝波惣一郎, 大浦清, 編著. 薬: 口腔疾患からみる治療薬と処方例. 東京: クインテッセンス出版; 2005. p.132-140.

花田信弘. 歯周病の予防・改善. 伊藤喜久治, 編集代表. プロバイオティクスとバイオジェニクス 科学的根拠と今後の開発展望. 東京: NIS; 2005. p.51-63.

鴨井久一, 佐藤勉, 花田信弘. 唾液で診る歯周病. 下野正基, 奥田克爾, 編著. 唾液による健康づくり. 東京: 株式会社ヒョーロン; 2005. p.79-90.

花田信弘. 口腔内細菌と誤嚥性肺炎. 植松宏, 編. わかる! 摂食・嚥下リハビリテーションII, 誤嚥性肺炎の予防と対処法. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.14-25.

奥田健太郎, 高見沢俊樹, 宇山聡, 武内博朗, 宮崎真至, 花田信弘. PMTCペーストノ選択ガイド, その理解が予防プログラムを成功させる. 花田信弘, 監修. 目的別PMTCとオーラルケア, バイオフィーム制御とオーラルケアの到達点. 東京: クインテッセンス出版; 2005. p.110-116.

花田信弘, 武内博朗. バイオフィーム制御の考え方と合理的な処方. 花田信弘, 監修. 目的別PMTCとオーラルケア, バイオフィーム制御とオーラルケアの到達点. 東京: クインテッセンス出版; 2005. p.124-130.

野村義明, 西川原総生, 花田信弘. データから見た予防歯科. 花田信弘, 編. デンタルハイジーン別冊: ペリオ・カリエスに活かす, 抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.6-9.

花田信弘. 歯科衛生士が実践する予防歯科. 花田信弘, 編. デンタルハイジーン別冊: ペリオ・カリエスに活かす, 抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.10-13.

花田信弘. ブラークからバイオフィームへ. 花田信弘, 編. デンタルハイジーン別冊: ペリオ・カリエスに活かす, 抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.16-21.

西川原総生, 奥田健太郎, 武内博朗, 野村義明, 花田信弘. PMTCと抗菌療法. 花田信弘, 編. デンタルハイジーン別冊: ペリオ・カリエスに活かす, 抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.22-26.

西川原総生, 野村義明, 奥田健太郎, 花田信弘. 各種細菌検査. 花田信弘, 編. デンタルハイジーン別冊: ペリオ・カリエスに活かす, 抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.27-34.

武内博朗, 岡山秀仁, 花田信弘. Dental Drug Delivery

System (3DS) 齧蝕原性菌, 歯周病関連菌の制御と発症前リスク低減療法. 花田信弘, 編. デンタルハイジーン別冊: ペリオ・カリエスに活かす, 抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2005. p.35-42.

花田信弘. 口腔ケアの科学. 社団法人日本歯科衛生士会, 監修. 歯科衛生士校養成所指定テキスト改正に伴う「特定コース」研修テキスト. 東京: 社団法人日本歯科衛生士会; 2005. p.22-26.

花田信弘, ほか. 口腔保健と全身の健康状態に関する文献調査報告書 (1), 歯周病と循環器疾患, 歯周病と低体重児出産, 口腔の健康とQOL. 社団法人日本歯科衛生士会, 監修. 歯科衛生士校養成所指定テキスト改正に伴う「特定コース」研修テキスト. 東京: 社団法人日本歯科衛生士会; 2005. p.1-150.

花田信弘. 小学館文庫 おとなこそ歯が命. 東京: 小学館; 2005.

## 抄録のある学会発表

安藤雄一. 「8020」は何処まで進んで来たか?? 今後の行方は? 8020科学的裏づけ. 第52回口腔衛生学会関東地方会; 2005.1.30; 前橋. 口腔衛生会誌 2005; 55(3): 218-9.

安藤雄一, 平田幸夫, 石川清子, 白井和弘, 鶴本明久, 眞木吉信. 都道府県におけるフッ化物利用に関する取り組みの現状. 第54回口腔衛生学会総会; 2005.10.6-8; 東京. 口腔衛生会誌 2005; 55(4): 422.

新美完, 相田潤, 安藤雄一, 青山旬, 増井峰夫, アクター・ラヘナ, 大坂美希子, 森田学. 永久歯の抜歯原因に関する全国実態調査 (第1報) 基礎統計量の報告. 第54回口腔衛生学会総会; 2005.10.6-8; 東京. 口腔衛生会誌 2005; 55(4): 398.

青山旬, 安藤雄一, 相田潤, 増井峰夫, 森田学. 永久歯の抜歯原因に関する全国実態調査 (第2報) 歯の喪失状態に関する全国推計の試み. 第54回口腔衛生学会総会; 2005.10.6-8; 東京. 口腔衛生会誌 2005; 55(4): 404.

土井徹, 安藤雄一, 磯野威, 岡本悦司, 増田宏, 望月友美子, 山岡和枝. 国立保健医療科学院のインターネットによる遠隔教育. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 491.

大坂美希子, 相田潤, 森田学, 増井峰夫, 青山旬, 安藤雄一. 永久歯の抜歯原因に関する全国実態調査. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 901.

新井貴子, 林田亜美子, 苗代明, 今井奨, 花田信弘, 鴨井久一, 沼部幸博. 呼吸と歯肉溝滲出液中の歯周病原性細菌量との関連. 第48回秋期日本歯周病学会学術大会; 2005.9.21-23; 札幌. J Jpn Soc Periodontol 2005; 47 (Suppl): 83.

武内博朗, 泉福英信, 早川浩生, 西川原総生, 二階堂雅彦, 吉野敏明, 三辺正人, 野村義明, 花田信弘. 3DSと化学療法の併用による歯周病関連菌の除菌. 第48回秋期日本歯周病学会学術大会; 2005.9.21-23; 札幌. J Jpn Soc

Periodontol 2005; 47(Suppl): 142.

武内博朗, 的場一成, 西川原総生, 奥田健太郎, 泉福英信, 花田信弘. 歯周病関連菌由来バイオフィルムの光学的検出評価法の検討. 第54回口腔衛生学会総会; 2005.10.6-8; 東京. 口腔衛生会誌 2005; 55(4): 142.

金子昇, 泉福英信, 花田信弘, 宮崎秀夫. 高齢者における唾液中抗PAc (361-386) IgA抗体. 第54回口腔衛生学会総会; 2005.10.6-8; 東京. 口腔衛生会誌 2005; 55(4): 490.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

安藤雄一, 平田幸夫, 岩瀬達雄, 石川清子, 臼井和弘, 鶴本明久. 地方自治体におけるフッ化物利用に関する全国実態調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「フッ化物による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(主任研究者: 眞木吉信, H15-医療-020) 平成16年度研究報告書, 2005. p.183-201.

安藤雄一, 鶴本明久, 石川清子, 岩瀬達雄, 臼井和弘, 平田幸夫, 佐久間汐子, 花田信弘. フッ化物洗口の集団応用に関する新たな事例集作成に向けた取り組み. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「フッ化物による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(主任研究者: 眞木吉信, H15-医療-020) 平成16年度研究報告書, 2005. p.203-207.

鶴本明久, 安藤雄一, 石川清子, 岩瀬達雄, 臼井和弘, 平田幸夫, 花田信弘. AHP (Analytic Hierarchy Process) モデルによるフッ化物洗口普及政策の導入と住民の合意形成に関する分析. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「フッ化物による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(主任研究者: 眞木吉信, H15-医療-020) 平成16年度研究報告書, 2005. p.221-235.

安藤雄一, 相田潤, 森田学, 青山旬, 増井峰夫. 永久歯の抜歯原因調査報告書. 東京: 8020推進財団; 2005.

井手玲子, 加藤元, 安藤雄一, 東敏昭. 職域におけるオーラルヘルスプロモーション (産業歯科保健活動) のあり方に関する研究. 平成16年度8020公募研究報告書. 東京: 8020推進財団; 2005. p.55-74.

飯嶋理, 石上和男, 中村宗達, 安藤雄一. 行政歯科専門職を対象としたインターネットによる双方向情報システムの構築が公衆衛生に及ぼす影響 (2). 平成16年度8020公募研究報告書. 東京: 8020推進財団; 2005. p.79-81.

今井奨, 岸光男. 食品の口腔における有効性評価方法の確立 食品の口腔におけるエナメル質脱灰能の評価方法: 人工口腔装置による検討. 厚生労働省科学研究費補助金食

品の安全性高度化推進研究事業「いわゆる健康食品の有効性の評価に関する研究」(主任研究者: 上野川修一, H16-食品-003) 平成16年度総括・分担研究報告書, 2005. p.79-83.

今井奨, 藤山友紀. 唾液・口臭と全身の健康. 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「地域住民の口腔保健と全身的な健康状態の関係についての総合研究」(主任研究者: 小林修平, H16-医療-020) 平成16年度総括・分担研究報告書, 2005. p.67-73.

花田信弘, 今井奨, 山本有希子. 乳酸菌のバイオフィルム形成阻害作用および口臭抑制作用に関する研究. 平成16年度委託研究報告書, 2005.

花田信弘, 今井奨, 山本有希子, 澤田美穂, 速水加奈. う蝕細菌および歯周病細菌に及ぼす乳成分の効果に関する研究. 平成16年度委託研究報告書, 2005.

花田信弘, 今井奨, 澤田美穂. ビール関連素材の口腔保健機能に関する研究. 平成16年度委託研究報告書, 2005.

花田信弘, 内藤徹, 内藤真理子, 中山健夫, 野村義明, 古市保志, 宮下裕志, 湯浅秀道. 口腔と全身の健康状態に関する文献調査報告書 (1). 財団法人8020推進財団, 2005年7月.

安藤雄一, 鶴本明久, 花田信弘. フッ化物応用の保健政策 (Health Policy) に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「フッ化物による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」主任研究者: 眞木吉信, H15-医療-020) 平成16年度研究報告書, 2005. p.175-181.

安藤雄一, 花田信弘, 若井建志. 歯科医師における歯と全身の健康, 栄養との関連に関する縦断研究. 厚生科学研究費補助金医療技術評価総合事業「地域住民の口腔保健と全身的な健康状態の関係についての総合研究」(主任研究者: 小林修平. 課題番号: H16-医療-020) 平成16年度研究報告書; 2005. p.57-59.

花田信弘, 吉田友明. 咬合と全身的な健康状態の関係についての総合研究. 厚生科学研究費補助金医療技術評価総合事業「地域住民の口腔保健と全身的な健康状態の関係についての総合研究」(主任研究者: 小林修平. 課題番号: H16-医療-020) 平成16年度研究報告書; 2005. p.61-65.

花田信弘. 食品の口腔における再石灰化能の評価方法. 厚生科学研究費補助金食品の安全性高度化推進研究事業「いわゆる健康食品の有効性の評価に関する研究」(主任研究者: 上野川修一. 課題番号: H16-食品-003) 平成16年度研究報告書; 2005. p.71-77.

### Originals

Usui Y, Imai S, Saito N, Hanada N, Uematsu H. Effect of 3.8% Ag(NH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>F solution as an anti-caries agent on dentin in artificial mouth model system using Actinomyces naeslundii. J Dental Health 2005; 55: 186-93.

Hayashida A, Imai S, Hanada N, Hoshi K, Uematsu H. Relationship between breath odors and odor emission sources in the elderly investigated using the electric nose. Japanese J Gerodontology 2005; 20: 3-9.

Yano A, Onozuka A, Asahi-Ozaki Y, Imai S, Hanada N, Miwa Y, et al. An ingenious design for peptide vaccines.

Vaccine 2005; 23: 2322-6.

Yoshihara A, Watanabe R, Nishimuta M, Hanada N, Miyazaki H. The relationship between dietary intake and the number of teeth in elderly Japanese subjects. *Gerodontology* 2005; 22(4): 211-8.

Morita E, Narikiyo M, Yokoyama A, Yano A, Kamoi K, Yoshikawa E, Yamaguchi T, Igaki H, Tachimori Y, Kato H, Saito D, Hanada N, Sasaki H. Predominant presence of *Streptococcus anginosus* in the saliva of alcoholics. *Oral Microbiol Immunol* 2005; 20(6): 362-5.

Yoshihara A, Seida Y, Hanada N, Nakashima K, Miyazaki H. The relationship between bone mineral density and the number of remaining teeth in community-dwelling older adults. *J Oral Rehabil* 2005; 32(10): 735-40.

Tamaki Y, Nomura Y, Nishikawara F, Motegi M, Teraoka K, Arakawa H, Tsurumoto A, Hanada N. Correlation between patient satisfaction and dental clinic credibility in regular dental check-ups in Japan. *J Oral Sci* 2005; 47(2): 97-103.

Amarasena N, Ogawa H, Yoshihara A, Hanada N, Miyazaki H. Serum vitamin C-periodontal relationship in community-dwelling elderly Japanese. *J Clin Periodontol* 2005; 32(1): 93-7.

Nishikawara F, Nomura Y, Hanada N. Detection of mutans streptococci by mMSB-kit. *Bacterial Adherence & Biofilm* 2005; 19: 65-73.

Tamaki Y, Nomura Y, Nishikawara F, Takada Y, Katsumura S, Sato K, Kadoma Y, Tsurumoto A, Arakawa H, Sato T, Hanada N. Correlation of having a regular dentist with oral health status and subjective symptom. *Int J Oral health* 2005; 2: 27-33.

## Review

Takeuchi H, Hanada N. Physicochemical and immunological research to reduce the dental caries epidemic. A paradigm shift in the role of a caries vaccine. *J Oral Bioscience* 2005; 47(3): 243-52.

## Proceedings with abstracts

Aida J, Ando Y, Aoyama H, Tango T, Morita M.

Ecological study of caries experience in Japanese 3-year-old children. In: 83rd General Session & Exhibition of the IADR; Mar 9-12 2005; Baltimore, US.

Nomura Y, Nishikawara F, Hanada N. The construction of the caries prediction model by decision analysis. In: Joint meeting of the continental European division and the Scandinavian division of the IADR; Sep14-17 2005; Amsterdam, The Netherlands. Amsterdam: Proceedings ACTA; 2005. p.60.

Nishikawara F, Nomura Y, Hanada N. Enumeration of mutans streptococci in clinical samples by mMSB-kit. In: Joint meeting of the continental European division and the Scandinavian division of the IADR; Sep14-17 2005; Amsterdam, The Netherlands. Amsterdam: Proceedings ACTA; 2005. p.64.

Hanada N, Takeuchi H, Ida A. 3DS: a new bacterial elimination method to prevent dental caries. In: FDI Annual World Dental Congress; Aug 24-27 2005; Montreal, Canada.

Ida A, Takeuchi H, Hanada N. Elimination of mutans streptococci using dental drug delivery system. In: FDI Annual World Dental Congress; Aug 24-27 2005; Montreal, Canada.

Okuda K, Kumada M, Tamura S, Hanada N, Senpuku H. Effects of SspB-peptide for attachment of *Streptococcus mutans* to s-HA. In: 83rd General Session & Exhibition of the IADR 34th Annual Meeting of the AADR 29th Annual Meeting of the CAD; March 9-12 2005; Baltimore, USA. abstract number 2220, 2005 ([www.dentalresearch.org](http://www.dentalresearch.org)).

Yoshihara A, Watanabe R, Nishimuta M, Hanada N, Miyazaki H. Nutrient values and dental diseases in the elderly. In: 83rd General Session & Exhibition of the IADR 34th Annual Meeting of the AADR 29th Annual Meeting of the CAD; March 9-12 2005; Baltimore, USA.: abstract number 0084, 2005 ([www.dentalresearch.org](http://www.dentalresearch.org)).

Hanada N. Oral health policy for Aging Society in Japan. In: Meeting on Oral Health in Aging Societies: Integration of Oral Health and General Health (WHO Joint Project); 1-3 June 2005; Kobe.

## 生活環境部

### Department of Environmental Health

## 学術雑誌に発表した原著論文

鈴木滋, 古井滋, 山口一郎, 岡崎正敏, 中村仁信, 坂本力, 石口恒男, 一色高明, 竹部英紀, 諸澄邦彦, 山岸正文, 山口和也, 松本邦博. Interventional radiologyにおける患者被曝 脳血管塞栓術, 経皮的冠動脈インターベンシヨ

ンおよび肝動注カテーテル留置における検討. *Interventional Radiology* 2005; 20(2): 152-7.

## 学術誌に発表した総説

山口一郎. 放射線診療で患者が受ける放射線量推計の必

要性と放射線量推計の基礎的原理. 日本放射線技師会雑誌 2005; 52(9): 2090-3.

山口一郎. 放射線診療施設における放射線医療監視行政 医療放射線立入検査の意義とその役割. 医療放射線防護 2005; (42): 6-9.

諸澄邦彦, 山口一郎. わが国における医療放射線の規制の動向と今後の課題. 保健物理 2005; 40(4): 313-6.

増田宏, 安藤雄一, 土井徹, 宮間浩史, 山岡和枝, 岡本悦司, 他. 国立保健医療科学院・遠隔教育受講者アンケート調査報告書. 保健医療科学 2005; 54(3): 205-15.

## 著書

杉山英男 (分担執筆). 衛生試験法注解2005年版 放射性物質試験法. 日本薬学会編. 東京: 金原出版; 2005.1. p.552-9, p.570-1.

杉山英男 (分担執筆). 食品衛生検査指針 理化学編 第7章放射能. 厚生労働省医薬食品局監修. 東京: 社団法人日本食品衛生協会; 2005.3. p.765-76.

## 抄録のある学会発表

鈴木元, 藤原佐枝子, 児玉和紀, 伊藤玲子, 田原榮一. 放射線発癌における胃癌組織型の解析. 第64回日本癌学会学術総会; 2005.9; 札幌.

杉山英男, 前田千佳, 渡辺幸美, 阪本まゆみ, 福本敦, 桑原千雅子, 加藤文男. 生態系における微量元素の挙動: 土壌細菌から線虫, 線虫からヒラタケ菌糸へのセシウムの移行. 日本薬学会第125年会; 2005.3.29-31; 東京. 同要旨集3; 2005. p.183.

桑原千雅子, 阪本まゆみ, 前田千佳, 渡辺幸美, 福本敦, 杉山英男, 加藤文男. キノコ生息土壌より分離した放線菌 *Streptomyces* sp. K202のK輸送系を介したセシウム取込. 日本薬学会第125年会; 2005.3.29-31; 東京. 同要旨集3; 2005. p.183.

加藤文男, 渡辺幸美, 阪本まゆみ, 前田千佳, 福本敦, 安齋洋次郎, 桑原千雅子, 杉山英男. 森林土壌からのCd耐性菌の分離とその性状. 日本薬学会第125年会; 2005.3.29-31; 東京. 同要旨集3; 2005. p.183.

佐藤忠章, 金子勝登詞, 小池一男, 杉山英男, 加藤文男, 二階堂保. ヒラタケ *Pleurotus ostreatus* 菌糸の線虫捕捉機序についての研究. 日本薬学会第125年会; 2005.3.29-31; 東京. 同要旨集4; 2005. p.137.

小林淳, 寺田宙, 杉山英男. 環境試料中微量ビスマス定量におけるICP-MSの適用. 日本分析化学会第54年会; 2005.9.14-16; 名古屋. 同要旨集; 2005. p.357.

桑原千雅子, 前田千佳, 渡辺幸美, 阪本まゆみ, 福本敦, 安齋洋次郎, 杉山英男, 加藤文男. 土壌環境に生息する微生物の金属に対する耐性. 第42回全国衛生化学技術協議会年会講演集. 2005.11; 東京. p.200-1.

大野和子, 松田譲, 石口恒男, 東直樹, 山口一郎. センチネルリンパ節シンチグラフィにおける面線源利用時の患

者, 術者の被ばく線量の推定. 第9回東海腫瘍核医学研究会; 2004.10.2; 名古屋. 東海腫瘍核医学研究会記録集. 2005.9.6-7.

山口一郎. PETに関する医療法施行規則改正が放射線診療全般に与える影響. 日本放射線公衆安全学会・第一回講習会; 2005.3.13; 横浜. 日本放射線技師会雑誌 2005; 52(4): 1474 (教育講演).

鈴木滋, 古井滋, 横山直之, 鈴木将敏, 上妻兼, 山本義人, 一色高明, 山口一郎. Radiation exposure to patients' skin during percutaneous coronary intervention. 第14回日本心血管インターベンション学会学術集会; 2005.6.16-18; 東京. 日本心血管インターベンション学会誌 2005; 20(Supplement 1): 153.

山口一郎, 大西世紀. 放射線診療における手指の不均等被ばく線量の推計. 日本保健物理学会第39回研究発表会; 2005.6.30-7.1; 青森県上北郡六ヶ所村. 日本保健物理学会第39回研究発表会講演要旨集. 2005. p.102.

山口一郎. 放射性医薬品の臨床試験および放射線を用いた臨床研究に関する規制整備の現状と課題. 第21回「医療放射線の安全利用研究会」フォーラム; 2005.9.9; 東京. 医療放射線防護 2005; (44): 22-27.

山口一郎, 緒方裕光. 永久挿入線源を用いた放射線治療における規制整備のあり方に関する検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 1049.

細野眞, 米矢吉宏, 油野民雄, 日下部きよ子, 草間経二, 山口一郎, 小林一三, 渡辺浩, 並木宣雄, 藤村洋子, 堀越亜希子. 国際放射線防護委員会新勧告における放射線荷重係数等の検討. 第45回日本核医学会総会; 2005.11.11-13; 東京. 核医学 2005; 42(3): 293.

小林育夫, 片岡章勝, 山口一郎, 鈴木滋, 古井滋. 新型OSL線量計測システムによる大線量測定. 日本放射線安全学会第4回学術大会; 2005.11.23-24; 京都. 日本放射線安全学会第4回学術大会講演予稿集. 2005. p.118.

山口一郎. 医療における放射線曝露とそのリスク. 第53回日本職業・災害医学会学術大会; 2005.11.23-24; 大阪. 日本職業・災害医学会会誌 2005; 53(臨増号); 83 (教育講演).

渡辺征夫, 工藤雅子, 後藤道子, 遠藤治, 増岡洋子, 花岡良信. ミルク中のPFOS (Perfluorooctane Sulfonate) 類の分析. 日本化学会第85春季年会; 2005.3.26-29; 横浜. 同講演要旨集 (CD-ROM). 2005.

Endo O, Koyano M, Nakajima D, Goto S, Watanabe T, Takagi Y, Kohzaki K. Mutagenicity of Soils Collected at Children's Parks in Kawasaki. 第34回日本環境変異原学会大会; 2005.11.16-18; 東京. 同プログラム・要旨集. 2005. p.149.

藤田博子, 角田真澄, 小谷野道子, 杉田和俊, 遠藤治, 鈴木元. 医療施設における喫煙による空気汚染実態についてー都内A病院でのニコチンおよび多環芳香族炭化水素の測定ー. 平成17年度室内環境学会総会・研究発表会; 2005.

11.20-21; 北九州. 室内環境学会誌 2005; 8: 196-7.

小谷野道子, 角田真澄, 遠藤治, 渡辺征夫, 後藤純雄, 谷保佐知, 山下信義. 室内外空気浮遊粒子中のperfluorooctane sulfonate及びperfluorooctanoic acidの測定. 平成17年度室内環境学会総会・研究発表会; 2005.11.20-21; 北九州. 室内環境学会誌 2005; 8: 186-7.

志田卓, 飯田毅象, 牛山明, 大久保千代次, 安村和彦, 谷下一夫. 背側皮膚窓を用いた乳がんマウスの微小循環におけるリボソームの挙動. 日本機械学会第17回バイオエンジニアリング講演会; 2005.1.22-23; 名古屋. 同論文集. 2005. p.289-90.

増田宏, 廣田彰吾, 牛山明, 渡辺博, 和氣加奈子, 渡辺聡一, 山中幸雄, 多氣昌生, 大久保千代次. Intravital microscopic evaluation of acute effects on the brain by local exposure to radio-frequency electromagnetic fields in rats. 第30回日本微小循環学会総会; 2005.2.24-25; 東京. 同予稿集. 2005. p.39.

志田卓, 飯田毅象, 牛山明, 大久保千代次, 安村和彦, 谷下和夫. Behavior of conventional liposomes and large unilamellar vesicles in microvascular by mammary carcinoma-bearing mice with dorsal skinfold chamber. 第30回日本微小循環学会総会; 2005.2.24-25; 東京. 同予稿集. 2005. p.39.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

杉山英男, 寺田宙, 磯村公郎, 飯島育代. 食品中の放射性核種の摂取量調査・評価研究. 厚生労働科学研究費補助金食品の安全性高度化推進研究事業「食品中の有害物質等の摂取量の調査及び評価に関する研究」(主任研究者: 松田りえ子. 課題番号: H16-食品-015) 平成16年度研究報告書. 東京: 松田りえ子; 2005. p.67-96.

杉山英男, 寺田宙, 横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター, 神戸検疫所輸入食品・検疫検査センター. 文部科学省放射能調査研究費「輸入食品の放射能調査研究」(主任研究者: 杉山英男) 第46回環境放射能調査研究成果論文抄録集(平成16年度). 東京: 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課防災環境対策室; 2005. p.89-90.

杉山英男, 寺田宙, 加藤文男, 桑原千雅子. 文部科学省放射能調査研究費「陸生食物への核種の移行・蓄積と土壌有機体に関する研究」(主任研究者: 杉山英男) 第46回環境

放射能調査研究成果論文抄録集(平成16年度). 東京: 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課防災環境対策室; 2005. p.91-92.

井上登美夫, 赤羽恵一, 池淵秀治, 伊藤健吾, 織田圭一, 織内昇, 甲斐倫明, 菊池透, 日下部きよ子, 窪田和雄, 笹森典雄, 雫石一也, 棚田修二, 鳥塚莞爾, 土器屋卓志, 成田浩人, 西澤邦秀, 福喜多博義, 福田寛, 藤林康久, 山口一郎. PET検査施設における放射線安全の確保に関する研究班. FDG-PET検査における安全確保に関するガイドライン(2005年). 核医学 2005; 42(2): 1-26.

田中真司, 渡辺浩, 山口一郎, 大場久照, 加藤英幸, 諸澄邦彦. 法改正に伴う放射線治療部門特有の課題と対応について. 日本放射線技術学会雑誌 2005; 61(12): 1576-79.

山口一郎. 照射録の署名を電子署名とする場合の基準について. 医療放射線防護 2005; (44): 31-3.

植松甲之介, 山口一郎. 医療放射線に関する手続きにおける審査基準書の役割と課題. 医療放射線防護 2005; (44): 34-6.

山口一郎, 他. 医療機関における医療法施行規則との乖離点の整理及び医療法施行規則に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等含めた管理体制に関する研究」(主任研究者: 油野民雄); 2005.

山口一郎, 寺田宙, 杉山英男. 都市環境における放射能モニタリングに関する調査研究. 第47回環境放射能調査研究成果論文抄録集; 2005; 13-4.

渡辺征夫, 遠藤治. 生物評価試験による浮遊粒子状物質の長期曝露モニタリングに関する研究(主任研究者: 後藤純雄). 平成16年度環境保全成果集(CD-ROM). 東京: 環境省; 2005.

遠藤治. 環境中の変異原性物質に関する調査研究(班長: 渡辺徹志). 平成16年度環境省委託業務結果報告書. 東京: 財団法人日本公衆衛生協会; 2005.

大久保千代次, 牛山明, 増田宏. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「発達段階にある脳を対象とする携帯電話周波数帯電磁界曝露の血液脳関門に及ぼす影響に関する研究」(主任研究者: 大久保千代次, H16-がん予防-096) 平成16年度総括研究報告書; 2005; p.1-40.

### Originals

Sharp GB, Lagarde F, Mizuno T, Sauvaget C, Fukuhara T, Allen N, Suzuki G, Tokuoka S. Relationship of hepatocellular carcinoma to soya food consumption A cohort-based, case-control study in Japan. Int J Cancer 2005; 115: 290-5.

Hakoda M, Masunari N, Yamada M, Fujiwara S, Suzuki G, Kodama K, Kasagi F. Serum uric acid concentration as a risk factor for cardiovascular mortality:

a longterm cohort study of atomic bomb survivors. J Rheumatol 2005; 32: 906-12.

Nakanishi S, Yamada M, Hattori N, Suzuki G. Relationship between HbA(1)c and mortality in a Japanese population. Diabetologia 2005; 48(2): 230-4.

Hakoda M, Oiwa H, Kasagi F, Masunari N, Yamada M, Suzuki G, Fujiwara S. Mortality of rheumatoid arthritis in Japan: a longitudinal cohort study. Ann Rheum Dis 2005; 64: 1451-5.

Yamada M, Wong FL, Fujiwara S, Tatsukawa Y, Suzuki G. Smoking and alcohol habits as risk factors for benign digestive diseases in a Japanese population: The Radiation Effects Research Foundation Adult Health Study. *Digestion* 2005; 71: 231-7.

Wong FL, Yamada M, Tominaga T, Fujiwara S, Suzuki G. Effects of radiation on the longitudinal trends of hemoglobin levels in the Japanese atomic bomb survivors. *Radiat Res* 2005; 164: 820-7.

Yamada M, Naito K, Kasagi F, Masunari N, Suzuki G. Prevalence of atherosclerosis in relation to atomic bomb radiation exposure: An RERF Adult Health Study. *Int J Radiat Biol* 2005; 81: 821-6.

Kuwahara C, Fukumoto A, Ohsone A, Furuya N, Shibata H, Sugiyama H, Kato F. Concentration of radiocesium in mushrooms collected from Japanese forest and characterization of microorganisms isolated from mushroom substrata, 2004. *Sci Total Environ* 2005; 345: 165-73.

Kobayashi J, Kizu R, Sugiyama H. Influences of polyaromatic hydrocarbons and heavy metals on a thyroid carcinoma cell line. *J Health Sci* 2005; 51: 202-6.

Goto T, Ito Y, Oka H, Saito I, Matsumoto H, Sugiyama H, Ohkubo C, Nakazawa H, Nagase H. The high throughput analysis of N-methyl carbamate pesticides in wine and juice by ESI LC/MS/MS with direct sample injection into a short column. *Anal Chim Acta* 2005; 31: 79-86.

Yamamoto N, Kumagai K, Fujii M, Shendell DG, Endo O, Yanagisawa Y. Size-dependent collection of micrometer-sized particles using nylon mesh. *Atmospheric Environment* 2005; 39: 3675-85.

Mineki S, Takagi Y, Takahashi A, Goto S, Nakajima D, Endo O, Matsushita H. Detection of mutagenicities of chlorinated toluenes and related compounds using a gas-exposure apparatus. *Material Technology* 2005; 23: 413-7.

Okano H, Masuda H, Ohkubo C. Effects of 25 mT static magnetic field on blood pressure in reserpine-induced hypotensive Wistar-Kyoto rats. *Bioelectromagnetics* 2005; 26: 36-48.

Okano H, Masuda H, Ohkubo C. Decreased plasma levels of nitric oxide metabolites, angiotensin II, and aldosterone in spontaneously hypertensive rats exposed to 5 mT static magnetic field. *Bioelectromagnetics* 2005; 26: 161-72.

Traikov L, Ushiyama A, Lawlor G, Sasaki R, Ohkubo C. Subcutaneous arteriolar vasomotion changes during and after ELF-EMF exposure in mice in vivo. *The*

*Environmentalist* 2005; 25: p.93-101.

## Books

Shida S, Iida T, Masuda H, Yokota H, Ushiyama A, Ohkubo C, et al. Behavior of conventional liposomes and large unilamellar vesicles in microvasculature by mammary carcinoma-bearing mice with dorsal skinfold chamber. In: Asano M, Miura S. editors. *Microcirculation annual* 2005. Tokyo: Nihon-Igakukan; 2005. p.89-90.

Traikov L, Ushiyama A, Lawlor G, Ohkubo C. Changes of the magnitude of arteriolar vasomotion during and after ELF-EMF exposure in vivo. In: Ayrapetyan N. and Markov M.S. editors. *Bioelectromagnetics*. Germany: Springer; 2006. p.377-89.

## Proceedings with abstracts

Sugiyama H, Maeda C, Watanabe T, Sakamoto M, Fukumoto A, Kuwahara C, Kato F. Transfer of cesium focused on food chain from soil-microorganisms: Soil-microfauna to mushroom. In: *International Chemical Congress of Pacific Basin Societies*; 2005; Honolulu U.S.A. Abstract CD-ROM. 2005. 170.

Terada H, Iijima I, Isomura K, Kobayashi J, Sugiyama H. Daily intakes of radionuclides in Japanese standard diets. In: *Asia-Pacific Symposium on Radiochemistry-05*; 2005; Beijing, China. *Proceedings*. 2005. p.313.

Yamaguchi I, Narita H, Kobayashi K. Exposure doses to medical workers concerning positron emission tomography. In: *Proceedings of the 3rd international EGS workshop*; 2004 Aug 4-6; Tsukuba, Japan. *KEK Proceedings* 2005-3; 2005. p.280-4.

Kohtake H, Furui S, Suzuki S, Nakagomi T, Yamagishi M, Sakamoto T, Yamaguchi I, Takebe H, Niwa Y, Kageyama Y. A paper cap with radiation-sensitive indicators using functional dyestuff attached for skin dose monitoring during neuro-interventional procedures. In: *CIRSE 2004*; 2004 Sep. 25-29; Barcelona, Spain. 2004.

Endo O, Ohkubo T, Tsunoda M, Watanabe I, Yamashita N. Mutagenicity of perfluorooctane sulfonate (PFOS) and related compounds. In: *International Symposium on Fluorinated Alkyl Organics in the Environment (FLUOROS)*; 2005 Aug 18-19; Toronto, Canada. University of Toronto; 2005. p.TOX005.

Goto S, Endo O, Nakajima D, Aoki Y, Matsushita H. Mutagenic activity of airborne particles in central metropolitan Tokyo over the past 20 years. In: *9th International Conference on Environmental Mutagens*; 2005 Sep 3-9; San Francisco, CA, USA. 2005. p.22.

Ushiyama A, Masuda H, Hirota S, Ohkubo C. Effects of

50 Hz electromagnetic fields exposure with transient magnetic fields on brain tumor growth and angiogenesis in mice cranial window. In: The 6th Asian congress for Microcirculation; 2005.2.25-26; Tokyo. Abstract book, 2005. p.160.

Okano H, Masuda H, Hirota S, Ohkubo C. The synergistic effects of a static magnetic field on its hypotensive action of a calcium channel blocker in spontaneously hypertensive rats. In: The 6th Asian congress for Microcirculation; 2005.2.25-26; Tokyo. Abstract book, 2005. p.158.

Ugawa Y, Terao Y, Nishikawa M, Okano T, Shirasawa S, Furubayashi T, Ohkubo C, Ushiyama A, Masuda H, Soukejima S, Taki M, Wake K, Watanabe S. Studies on hypersensitivity to non-thermal radiofrequency electromagnetic field in Japan. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.24 in CD-ROM.

Masuda H, Ushiyama A, Hirota S, Watanabe H, Wake K, Watanabe S, Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Real-time measurement of brain microcirculation during RFEMF exposure using an "8"-shaped loop antenna. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.170 in CD-ROM.

Pouilletier de Gannes F, Sanchez S, Masuda H, Lagroye I, Haro E, Taxile G, Billaudel B, Veyret B. In vivo studies of the effects of GSM microwave exposure on heat shock protein expression. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.176-7 in CD-ROM.

Fu J, Lawlor GF, Ushiyama A, Masuda H, Ohkubo C. Changes in blood flow dynamics related to increased thermal effects of RF-EMF irradiation on rabbit ear skin. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.303-4 in CD-ROM.

Wake K, Pongpaibool P, Watanabe S, Taki M, Ugawa Y, Terao Y, Nishikawa M, Okano T, Shirasawa S, Furubayashi T, Ohkubo C, Ushiyama A, Masuda H, Soukejima S. System of human exposure to radio-

frequency fields of cellular base-station for studies on electromagnetic hypersensitivity in Japan. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.308-9 in CD-ROM.

Wake K, Watanabe S, Taki M, Ugawa Y, Terao Y, Nishikawa M, Okano T, Shirasawa S, Furubayashi T, Ohkubo C, Ushiyama A, Masuda H, Soukejima S. Experimental system for studies on prenatal and postnatal exposure of rats to radio-frequency fields of cellular telecommunications. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.503 in CD-ROM.

Ushiyama A, Masuda H, Hirota S, Watanabe H, Wake K, Watanabe S, Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Development of real-time measuring system for blood-brain barrier function and acute effects on BBB function by RF exposure to rat brain. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.510-1 in CD-ROM.

Traikov LL, Ushiyama A, Sasaki R, Lawlor GF, Ohkubo C. Low frequency-electromagnetic fields induced alterations in arteriolar vasomotion in vivo. In: 26th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society; 2005 Jun 19-24; Dublin, Ireland. Abstract Collection. 2005. p.529-30 in CD-ROM.

Ushiyama A, Masuda H, Hirota S, Watanabe H, Wake K, Watanabe S, Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Acute effects on blood barrier function by RF-EMF exposure to rat brain in vivo. In: 28th General Assembly of International Union of Radio Science; 2005 Oct 23-29; New Delhi, India. Abstract book. 2005. KP.6(01436) in CD-ROM.

Masuda H, Ushiyama A, Hirota S, Watanabe H, Wake K, Watanabe S, Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Real-time measurement of brain microcirculation during RF-EMF exposure using an "8"-shaped loop antenna. In: 28th General Assembly of International Union of Radio Science; 2005 Oct 23-29; New Delhi, India. Abstract book. 2005. K03.5(097) in CD-ROM.

## 建築衛生部

### Department of Architectural Hygiene and Housing

#### 学術雑誌に発表した原著論文

柳宇, 池田耕一. 空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究—第1報 微生物の生育環境と汚染実態. 日本建築学会計画系論文集 2005; 593: 49-56.

藤井修二, 車熙運, 鍵直樹, 柳沢樹里, 松下隆. 植物に

よる大気中窒素酸化物の吸着除去効果及び雨水の影響. 日本建築学会環境系論文集 2005; 589: 31-6.

小松明弘, 山本仁三, 小川雄司, 並木則和, 大谷吉生, 鍵直樹. クリーンルーム環境におけるHDDディスク基板へのSO<sub>2</sub>ガスの吸着特性. エアロゾル研究 2005; 20: 153-9.

米田郁夫, 糟谷佐紀, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎, 奥英久, 鎌田実. 手動車いすによる縦断勾配走行時の負担と操作難易度評価. 日本機械学会論文集 (C編) 2005; 71(701): 237-44.

鈴木晃, 中村美安子, 田代秀之, 阪東美智子. 介護保険の住宅改修サービスにおけるニーズ・アセスメントの課題ー神奈川県山町社会福祉協議会「住宅改造相談」の利用事例の分析ー. 国民生活研究 2005; 45(1): 24-36.

平野かよ子, 池田信子, 金川克子, 潮見重毅, 鈴木晃, 平山朝子, 他. 看護系大学, 短大専攻科, 専修学校別の保健師養成についてー教員と学生の保健師活動の認識等の実態調査. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8): 746-55.

### 学術誌に発表した総説

池田耕一. 良い空気とは. 空気清浄 2005; 43(1): 1-2.

池田耕一, 柳宇. 光触媒による室内空気汚染低減効果の評価. クリーンテクノロジー 2005; 15(6): 50-52.

池田耕一. 化学物質のガイドラインについての問題点. 建築設備&昇降機 2005; (54): 20-23.

池田耕一. シックハウス・シックスクール等の課題と対策. シックハウスに関する行政的対応とその問題. BE建築設備 2005; 56(5): 14-26.

池田耕一. シックスクール対策の現状と課題. スクールアメニティ 2005; 20(9): 64-70.

池田耕一. 子どもを守る! シックハウス防止のためのポイント「換気」. チャイルドヘルス 2005; 8(4): 289-92.

柳宇, 池田耕一. 一般空調用エアフィルタによる微生物粒子の除去. クリーンテクノロジー 2005; 15(3): 49-51.

柳宇. 最近の建築物衛生法における空気調和設備の扱い. 建築設備と配管工事 2005; 43(4): 61-4.

柳宇. 建築環境中の微生物汚染の現状ーSARSを中心として. エアゾール研究 2005; 20(8): 165-6.

柳宇. シックハウスとは. 冷凍 2005; 80(8): 3-9.

池田耕一, 柳宇. 空調システムにおける微生物汚染の対策ー抗菌フィルタによる微生物汚染の低減効果に関する検証. クリーンテクノロジー 2005; 15(12): 31-3.

柳宇. Indoor Air 2005について. ビルと環境 2005; (111): 31-3.

阪東美智子. 【居住支援ガイドブック】 居住支援に関わる制度や職種の現状と課題 住まうことを支援するための制度と関連職種 ホームレス(路上生活者等)に対する支援. 作業療法ジャーナル 2005; 39(7): 625-9.

筒井智恵美, 鈴木晃, 阪東美智子. 住宅改修サービス事業は満足度だけで評価できるのかー改修内容の妥当性を高める評価方法の課題の検討. 保健師ジャーナル 2005; 61(1): 18-21.

東アジアホームレス支援施策調査チーム(阪東美智子). ソウル・香港・台北におけるホームレス支援施策の現状(中). 季刊Shelter-less 2005; 24(Spring): 163-200.

東アジアホームレス支援施策調査チーム(阪東美智子).

ソウル・香港・台北におけるホームレス支援施策の現状(下). 季刊Shelter-less 2005; 25(Summer): 171-214.

阪東美智子. ホームレス地域生活移行支援事業におけるアパートの実態ー戸山公園の場合ー. 季刊Shelter-less 2005; 26(Autumn): 241-7.

鈴木亘, 麦倉哲, 大崎元, 阪東美智子, 水田恵, 成清正信. 墨田区ホームレスの特徴についてー実態調査の結果からー. 季刊Shelter-less 2005; 27(Winter): 125-41.

鈴木晃. 自立支援における居住の意義ー生活時間の自己決定と居住環境に注目して. 作業療法ジャーナル 2005; 39(7): 572-6.

鈴木晃. 真の自立支援としての住宅改修に向けてー介護保険見直しの機会に. 建築とまちづくり 2005; (335): 12-5.

### 著書

池田耕一. 空気環境と快適性. 栃原裕, 編. 生活環境の快適性. 川崎: 弘学出版; 2005. pp.37-45.

池田耕一. 発生源(許容発生量). 日本建築学会, 編. 室内空気質環境設計法. 東京: 技報堂出版; 2005. p.28-29.

池田耕一. VOCを取り巻く状況とその規制動向. 技術情報協会, 編. 室内環境を中心とした国内外のVOC規制の最新動向と放散ガス測定及び評価. 東京: 技術情報協会; 2005. pp.3-34.

目黒克巳, 池田耕一, 他. 特定建築物における建築確認審査のためのガイドライン. 東京: 財団法人ビル管理教育センター; 2005.

坊垣和明, 池田耕一, 他. シックハウス相談回答マニュアル. 東京: 財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター; 2005.

柳宇. 微生物による室内空気汚染に関する設計・維持管理規準・同解説. 東京: 日本建築学会発行; 2005. p.32-42.

柳宇. シックハウスを防ぐ最新知識ー健康な住まいづくりのためにー. 東京: 日本建築学会; 2005. p.46-51.

柳宇. 建築物の衛生確保のための設計指針. 東京: 日本ビル管理教育センター; 2005. p.30-56, 130-136.

柳宇. シックハウス診断士受験テキスト(上). 東京: オーム社; 2005. p.53-98.

鈴木晃. 高齢者福祉と居住問題ー介護保険は居住政策に何を要請しているか. 真嶋二郎, 編. 地域からの住まいづくり. 東京: ドメス出版; 2005. p.213-24.

鈴木晃. 居住環境. 平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 島田美喜, 編. 公衆衛生と関係法規. 大阪: メディカ出版; 2005. p.375-86.

### 抄録のある学会発表

中山健太郎, 戸川晃希, 光田恵, 天野健太郎, 吉野博, 池田耕一. 光触媒を塗布したゼオライトパネルにおける臭気物質の吸着・分解性能評価. 2004年度におい研究交流会; 2005. 研究論文集. pp.15-16.

祢津紘司, 池田耕一, 角田和彦, 石川哲, 吉野博, 野崎

淳夫, 北條祥子. シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状態に関する継続的調査. 平成17年度空気調和・衛生工学会大会; 2005.8.9-11; 札幌. 同講演論文集. pp.837-840.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 高島浩介, 相原真紀. 空調システムにおける微生物汚染の対策 (その1) 抗菌フィルタによる微生物汚染の低減効果に関する検証. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4.12-13; 東京. 同予稿集. p.92-4.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 範存養, 龍惟定, 劉燕敏, その他. 空調システムにおける微生物汚染の対策 (その2) イオンクラスターによる微生物汚染の低減効果に関する検証. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4.12-13; 東京. 同予稿集. p.95-7.

鍵直樹, 池田耕一, 柳宇, 藤井修二, 垂水弘夫, 並木則和, その他. 事務所ビルにおける空気環境調査 その1 エアロゾルとVOCの連続測定. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4.12-13; 東京. 同予稿集. p.61-3.

西村直也, 藤井修二, 池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 垂水弘夫, その他. 事務所ビルにおける空気環境調査 その2 SPM重量濃度, 個数濃度およびVOC濃度の関係. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4.12-13; 東京. 同予稿集. p.64-6.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹. クラスタイオンによる防菌防黴効果の調査. 日本防菌防黴学会第32回年次大会; 2005.5.24-25; 大阪. 同要旨集. p.154.

柳宇, 池田耕一, 山田花菜. 空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究 (第2報) 湿度制御による微生物生育の抑制. 平成17年度空気調和・衛生工学会大会; 2005.8.9-11; 札幌. 同講演論文集. p.1645-8.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 高島浩介, 相原真紀. 空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究 (第3報) 酵素フィルタの抗菌性能-暖房期の検証結果. 平成17年度空気調和・衛生工学会大会; 2005.8.9-11; 札幌. 同講演論文集. p.1649-52.

鍵直樹, 柳宇, 池田耕一, 田村一. 室内空気中のイオンによる揮発性有機化合物への影響. 平成17年度空気調和・衛生工学会大会; 2005.8.9-11; 札幌. 同講演論文集. p.1605-8.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 堀越玲子. ペット由来汚染物質による室内空気汚染に関する研究 第1報-微生物について. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同梗概集. p.983-4.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 堀越玲子. ペット由来汚染物質による室内空気汚染に関する研究 第2報-ペットアレルギーについて. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同梗概集. p.985-6.

鍵直樹, 池田耕一, 柳宇, 藤井修二, 西村直也, 垂水弘夫, その他. 事務所ビルにおける室内空気質の調査 調査概

要とパッシブ法によるVOCの全国調査 その1. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同梗概集. p.915-6.

石本隆, 垂水弘夫, 藤井修二, 池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, その他. 事務所ビルにおける室内空気質の調査 その2 室内空気中のVOCと粒子の精密測定調査. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同梗概集. p.917-8.

鈴木智彰, 池田耕一, 藤井修二, 垂水弘夫, 柳宇, 西村直也, その他. 事務所ビルにおける室内空気質の調査 事務所ビルにおける室内空気質の調査 その3. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同梗概集. p.919-20.

山田花菜, 柳宇, 池田耕一, 相原真紀. 真菌の測定におけるPDAとM40Y培地の比較. 平成17年度室内環境学会総会; 2005.11.20-21; 北九州. 同講演集. p.202-3.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 山田花菜. エアフィルタによる微生物粒子除去に関する考察. 平成17年度室内環境学会総会; 2005.11.20-21; 北九州. 同講演集. p.204-5.

鍵直樹, 柳宇, 池田耕一, 山田花菜, 堀越玲子. エアフィルタから発生する揮発性有機化合物の測定方法に関する検討. 平成17年度室内環境学会総会; 2005.11.20-21; 北九州. 同講演集. p.132-3.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 堀越玲子. 住宅におけるペット由来生物粒子による室内空気汚染に関する研究 (続). 平成17年度室内環境学会総会; 2005.11.20-21; 北九州. 同講演集. p.158-9.

並木則和, 林敦史, 大谷吉生, 田島奈穂子, 鍵直樹, 藤井修二, 関口和彦, 坂本和彦. 光イオン化法を用いた超微小粒子用荷電濃縮捕集装置の開発. 化学工学会 第70年会; 2005.2; 東京. B318.

田村一, 鍵直樹, 藤井修二, 並木則和, 大谷吉生, 諏訪好英, 平敏和. 室内環境中におけるガス状有機物質へのイオンの影響 (第1報) コロナ放電式イオナイザ直下におけるウェーハ暴露試験. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4; 東京. 予稿集. pp.225-7.

並木則和, 大谷吉生, 田島奈穂子, 鍵直樹, 藤井修二, 関口和彦, 坂本和彦. 光イオン化法を用いた超微粒子用荷電濃縮捕集システムの構築. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4; 東京. 予稿集. pp.231-3.

堀場容平, 藤井修二, 鍵直樹. 室内空間における超微粒子および微粒子の粒径別挙動の把握とモデル化. 第23回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2005.4; 東京. 予稿集. pp. 285-7.

鍵直樹, 田村一, 平敏和, 諏訪好英, 藤井修二, 並木則和, 大谷吉生. コロナ放電式イオナイザによるTCEPの空気中の挙動と付着. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.69-70.

小松明弘, 岩井徹, 山本仁三, 小川雄司, 並木則和, 大谷吉生, 鍵直樹. クリーンルーム環境中におけるHDDディスク基板へのSO<sub>2</sub>ガス吸着特性. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.73-4.

村上雅志, 竹田菊男, 藤本英治, 木村義孝, 坂本和彦, 関口和彦, 大谷吉生, 並木則和, 藤井修二, 鍵直樹, 福嶋信彦, 田島奈穂子, 根津豊彦, 吉村有史. 静電濃縮超微粒子装置 (ECUFP) を用いた大気エアロゾル中の多環芳香族炭化水素類の評価. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.111-2.

西村直也, 池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 藤井修二, 田中毅弘, 鈴木智彰, 垂水弘夫, 竹田菊男, 長谷川あゆみ, 高柳保. 事務所ビルにおける浮遊微粒子濃度とVOC濃度の特性. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.121-2.

村上雅志, 竹田菊男, 藤本英治, 木村義孝, 坂本和彦, 関口和彦, 大谷吉生, 並木則和, 藤井修二, 鍵直樹, 福嶋信彦, 田島奈穂子, 根津豊彦, 吉村有史. 静電濃縮超微粒子装置 (ECUFP) を用いた大気中超微小粒子の水溶性イオン成分評価. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.173-4.

嶋田いつか, 大谷吉生, 並木則和, 坂本和彦, 関口和彦, 福嶋信彦, 田島奈穂子, 藤井修二, 鍵直樹. 光イオン法を用いた超微小粒子荷電捕集装置の開発. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.189-190.

諏訪好英, 藤井修二, 鍵直樹, 田村一, 並木則和, 大谷吉生. 空気中イオン化物質の同時計数捕集法に関する研究. 第22回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2005.7; 堺. pp.211-212.

小島朋子, 池田耕一, 藤井修二, 垂水弘夫, 柳宇, 西村直也, 鍵直樹, 竹田菊男, 長谷川あゆみ, 鈴木智彰. 事務所ビルにおける室内空気質の調査 浮遊微粒子とVOC濃度の関係その4. 2005年度日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同学術講演梗概集. p.921-2.

田村一, 鍵直樹, 並木則和, 藤井修二, 諏訪好英. ガス状有機物質に対する空気イオン影響に関する基礎的実験. 2005年度日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同学術講演梗概集. p.961-2.

船戸浩二, 柳宇, 鍵直樹, 高橋順子, 白井義吾生, 本間克典. 室内環境におけるWater-Based CPCの性能評価. 室内環境学会総会講演集; 2005.11; 北九州. pp.144-5.

糟谷佐紀, 阪東美智子, 米田郁夫, 末田統, 藤澤正一郎. 車いす使用者における適切な住環境整備のあり方に関する研究 (その2) - 通路・開口幅と車いす全長の相関関係 -. 平成17年度日本建築学会近畿支部研究発表会; 2005.6.17-18; 大阪. 同研究報告集 第45号・計画系. p.173-6.

阪東美智子, 中島明子, 丸山里美. ホームレスの人々の生活再建における中間居住施設の役割と安定居住の課題. 日本福祉のまちづくり学会 第87回全国大会; 2005.8.25-26; 千葉. 同梗概集. p.132-5.

米田郁夫, 糟谷佐紀, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎, 鎌田実, 他3名. 手動車いすの操作負担の定量的評価とスケール化に関する考察. 日本福祉のまちづくり学会 第87回全国大会; 2005.8.25-26; 千葉. 同梗概集. p.219-22.

糟谷佐紀, 米田郁夫, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎, 多淵敏樹. 車いす使用者の住環境整備に関する研究 (その2) - 車いす駆動力の判定と適合スロープ勾配 -. 日本福祉のまちづくり学会 第87回全国大会; 2005.8.25-26; 千葉. 同梗概集. p.247-50.

井上結, 米田郁夫, 糟谷佐紀, 金承喜, 阪東美智子, 室崎千恵, 他1名. 住宅改修に係る専門職を対象とした意識の把握調査 - 建築分野と保健・医療・福祉分野の比較 -. 日本福祉のまちづくり学会 第87回全国大会; 2005.8.25-26; 千葉. 同梗概集. p.395-8.

米田郁夫, 井上結, 室崎千重, 糟谷佐紀, 奥英久, 阪東美智子, 他3名. 横断勾配に対応する車いす走行機構に関する一考察. 第20回リハ工学カンファレンス; 2005.9.1-3; 佐賀. 同講演論文集. p.194-5.

糟谷佐紀, 奥英久, 米田郁夫, 室崎千重, 阪東美智子, 末田統, 他1名. 車いす使用者の住宅内移動スペースに関する研究 (その1) - 廊下・開口幅と車いす全長との関係について -. 第20回リハ工学カンファレンス; 2005.9.1-3; 佐賀. 同講演論文集. p.366-7.

大崎元, 中島明子, 阪東美智子. ホームレスの人々への居住支援に関する研究 その7 東京におけるホームレス女性の「自立」支援と居住支援. 2005年度日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同学術講演梗概集F-1分冊. p.1501-3.

阪東美智子, 中島明子, 大崎元. ホームレスの人々への居住支援に関する研究 その8 カナダ, トロント市の住宅施策とホームレス対策. 2005年度日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪. 同学術講演梗概集F-1分冊. p.1503-5.

阪東美智子, 鈴木晃, 糟谷佐紀. 介護支援専門員を対象とする住宅改修研修の実態と研修プログラムの検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 849.

鈴木晃, 中村美安子, 阪東美智子. 介護保険の住宅改修におけるアセスメントの課題 - 城山町「住宅改造相談」事例の分析. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別付録): 850.

糟谷佐紀, 米田郁夫, 末田統, 藤澤正一郎, 阪東美智子. 車いす操作における段差抵抗の尺度化に関する研究. (社) 計測自動制御学会 第6回SICEシステムインテグレーション部門講演会; 2005.12.16-18; 熊本. 同講演論文集. p.153-4.

鈴木晃. 地域の居住福祉・居住支援 - 自立の支援に注目して. 2005年度日本建築学会大会建築経済部門パネルディスカッション - これからの地域居住政策の展望; 2005.9.2; 大阪. 2005年度日本建築学会大会建築経済部門パネルディスカッション資料 - これからの地域居住政策の展望. 東京: 日本建築学会建築経済委員会; 2005. p.15-20.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

池田耕一, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「諸外国における室内空気質規制に関す

る研究」平成16年度総括・分担研究報告書。2005。

佐戸谷安好, 池田耕一, 他. 日本医療・環境オゾン研究会, 編. 居住空間におけるオゾン安全利用基準制定委員会 (OSGA) 平成16年度報告書。2005。

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 阪口雅弘, 荒島康友. 人畜共通感染症に関する研究－建築衛生の観点から. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「居住環境に基づく感染性疾患とその管理に関する研究」(主任研究者: 河野茂. H16－健康－048) 平成16年度総括・分担研究報告書。2005. pp.23-32.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 阪口雅弘, 荒島康友. 人畜共通感染症に関する研究－建築衛生の観点から. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「居住環境に基づく感染性疾患とその管理に関する研究」(主任研究者: 河野茂. H16－健康－048) 平成14-16年度総合研究報告書。2005. pp.24-31.

山崎省一, 池田耕一, 他. 環境生物研究班, 編. 環境微生物の測定評価研究報告書 (第1報). NPO法人バイオメディカルサイエンス研究会。2005。

柳宇, 池田耕一. 微生物とダニアレルゲン. 日本学術会議, 建築学研究連絡委員会, 編. 日本学術会議建築学研究連絡委員会報告. 第8章, 第9項, 設計科学としての建築・都市。2005. pp.190-192.

池田耕一, 藤井修二, 相澤好治, 池尻康孝, 一条和夫, 遠藤潔, 鍵直樹, 北門彰, 小山博巳, 高貝健治, 竹田菊雄, 垂水弘夫, 並木則和, 西村直也, 本間克典, 明星敏彦, 柳宇, 山田繁晴, 横山辰巳. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物における環境衛生管理に関する研究」(主任研究者: 財団法人ビル管理教育センター) 平成16年度報告書。2005。

村上周三, 加藤信介, 田辺新一, 池田耕一, 他. 経済産業省委託社会基盤整備事業調査「室内空気汚染物質の試験方法に関する標準化調査研究」平成16年度研究報告書. 財団法人建材試験センター; 2005。

柳宇. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物における環境衛生管理に関する研究」(主任研究者: 財団法人ビル管理教育センター) 平成16年度報告書。2005. p.42-5.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「居住環境に基づく感染性疾患とその管理に関する研究」(主任研究者: 河野茂. H16－健康－048) 平成16年度報告書。2005.3. p.23-31.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学研究事業「居住環境に基づく感染性疾患とその管理に関する研究」(主任研究者: 河野茂. H16－健康－048) 平成14-16年度報告書。2005.3. p.24-31.

鍵直樹. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物における環境衛生管理に関する研究報告書」(主任研究者: 目黒克巳) 平成16年度報告書。2005。

鈴木晃, 阪東美智子. 介護保険の住宅改修におけるニー

ズアセスメントの課題－神奈川県山町社会福祉協議会「住宅改修相談事業」の介護保険前後の比較をととして－. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者: 鈴木晃. H15－長寿－027) 平成16年度研究報告書。2005. p.33-46.

阪東美智子. 住宅改造プロセスの評価に基づく住環境整備手法に関する研究 (その1). 兵庫県委託研究 (研究代表者: 井上結). 兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集 平成16年度。2005. p.111-23.

阪東美智子. 車いすの操作性の評価に基づいた住環境整備に関する研究 (その1). 兵庫県委託研究 (研究代表者: 糟谷佐紀). 兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集 平成16年度。2005. p.124-31.

阪東美智子. 各種環境バリアが車いす使用者に強いる負担量の評価法およびバリア走破装置の開発に関する研究. 兵庫県委託研究 (研究代表者: 米田郁夫). 兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集 平成16年度。2005. p.132-9.

阪東美智子. 東京における「ホームレス」女性の自立支援と居住支援. 住宅総合研究財団研究助成事業 (主査: 中島明子. 課題番号: 0321). 住宅総合研究財団研究論文集 No.31 2004年版。2005. p.229-40.

阪東美智子. 墨田区委託調査「墨田区ホームレス実態調査」(墨田区ホームレス研究会 調査分析責任者: 麦倉哲). 2005。

鈴木晃. ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発. 建築雑誌 2005; 120(8): 38-9.

鈴木晃. 年寄りに優しい住まいと都市空間. 日本学術会議建築学研究連絡委員会, 編. 設計科学としての建築・都市. 東京: 日本学術会議建築学研究連絡委員会; 2005. p.173.

鈴木晃, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(H15－長寿－027) 平成16年度研究報告書。2005。

鈴木晃, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(H15－長寿－027) 平成15～16年度総合研究報告書。2005。

鈴木晃, 阪東美智子. ケアマネジャーを対象とする住宅改修の研修実態と研修プログラムの検討. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者: 鈴木晃. H15－長寿－027.) 平成16年度研究報告書。2005. p.47-65.

鈴木晃. 研修用媒体を用いた研修の試行と評価. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者: 鈴木晃. H15－長寿－027) 平成16年度研究報告書。2005. p.67-96.

鈴木晃. 動作の容易性への環境影響を体験するための小

道具の開発. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者: 鈴木晃. H15-長寿-027) 平成16年度研究報告書. 2005. p.97-116.

鈴木晃. 住環境をベースにした個別サービス計画立案演習用ビデオの開発. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者: 鈴木晃. H15-長寿-027) 平成16年度研究報告書. 2005. p.117-133.

鈴木晃. ケアマネジャー向け住宅改修の研修用ビデオ「ケアマネジャーに必要な住宅改修アセスメント技術」活用マニュアル&資料集. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者: 鈴木晃. H15-長寿-

027) 平成16年度研究報告書. 2005. p.135-204.

鈴木晃. 住居の視点から. 国際長寿センター, 編. 平成16年度高齢者日常生活継続調査研究報告書. 東京: 国際長寿センター; 2005. p.146-55.

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

<ビデオ教材>

鈴木晃, 橋本美芽, 蓑輪裕子, 金沢善智, 中祐一郎(厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(H15-長寿-027) 研究班). 研修用視聴覚教材「ケアマネジャーに必要な住宅改修アセスメント技術 第三巻 自立支援のための居宅サービス計画の立案」. 2005.

## Originals

Fujii S, Cha H, Kagi N, Miyamura H, Kim Y-S. Effects on air pollutant removal by plant absorption and adsorption. Building and Environment 2005; 40(1): 105-12.

## Proceedings with Abstracts

Yoshino H, Mitsuda M, Ikeda K. The use of the zeolite panel for deodorization in bedroom of a nursing home. In: Third International Conference on Human-Environment System; 2005. Abstract of the Conference. 2005. p.53.

Yanagi U, Ikeda K. In Situ tests about removal performance of airborne microbe particules by an air filter. In: The 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate; 2005; China. Proceeding of the 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate. 2005. p.3000-4.

Ikeda K, Yanagi U, Kagi N, Sakaguchi M, Arashima Y. Research on the zoonosis in Japanese dwellings. In: The 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate; 2005; China. Proceeding of the 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate. 2005. p.1403-8.

Shiotsu M, Ikeda K, Yanagi U, Matsumura T. Present

status of the IAQ in Japanese National Hospitals. In: The 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate; 2005; China. Proceeding of the 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate. 2005. p.686-90.

Kagi N, Tamura H, Fujii S, Nitta J. Secondary emission from floors by ozone and UV. In: The 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate; Sep 2005; Beijing, China. Proceeding of the 10th International Conference on Indoor Air Quality and Climate. 2005. p.2.7-40.

Mizuuchi T, Nakayama T, Matsumura Y, Bando M. Action and policy for urban housing poor and homeless people in the East Asian Metropolises. In: APNHR Conference 2005. Asia-Pacific Network for Housing Research International Conference, Housing and Globalization; 2005 Sep 6-8; Kobe, Japan. Proceedings. 2005. p.219-23.

Bando M, Nakajima A, Osaki H, Maruyama S. The status of self-reliance and housing support for homeless women in Tokyo. In: APNHR Conference 2005. Asia-Pacific Network for Housing Research International Conference, Housing and Globalization; 2005 Sep 6-8; Kobe, Japan. Proceedings. 2005. p.439-46.

## 水道工学部

### Department of Water Supply Engineering

#### 学術雑誌に発表した原著

押見誠則, 藤本尚志, 鈴木昌治, 大西章博, 秋葉道宏, 国包章一. かび臭産生藻類Phormidium tenueを溶解する細菌の分離と溶藻特性に関する研究. 水環境学会誌 2005; 28(6): 25-30.

新井崇子, 鎌田素之, 島崎大, 浅見真理, 相澤貴子. 農薬の

分子構造別の塩素分解性に関する研究. 水環境学会誌 2005; 28(7): 437-44.

杉村昌紘, 福士謙介, 島崎大, 山本和夫. バングラデシュにおけるヒ素汚染地下水の浄化装置の評価とヒ素除去機構の解明. 土木学会論文集 2005; No.783/VII-34: 23-31.

新井崇子, 鎌田素之, 島崎大, 浅見真理, 相澤貴子. 農

葉の分子構造別の塩素分解性に関する研究. 水環境学会誌 2005; 28(7): 437-44.

小坂浩司, 山田春美, 津野洋, 清水芳久, 松井三郎. オゾン処理における過酸化水素の添加効果におよぼす溶存有機物の影響. 環境システム計測制御学会誌 2005; 10: 35-43.

### 学術雑誌に発表した総説

柳橋泰生, 国包章一. 日米水道水質管理及び下水道技術に関する専門家会議報告. 水道協会雑誌 2005; 74(6): 123-148.

島崎大, 国包章一. 親水性かつ難分解性有害化学物質の水道水源水域での存在状況および浄水処理での除去性. かんきょう 2005; 30(5): 42-3.

秋葉道宏, 国包章一. 水道における利水障害の発生状況とその対策. 水環境学会誌 2005; 28(5): 296-300.

伊藤禎彦, 相澤貴子, 浅見真理, 浅野雄三, 上嶋善治. ハロ酢酸類低減化処理技術. 水道協会雑誌 2005; 74(1): 28-44.

浅見真理. 育児における水分補給. 水の安全管理. チャイルドヘルス 2005; 8(7): 501-4.

浅見真理. 育児における水分補給. 水道水の成分と検査. チャイルドヘルス 2005; 8(7): 494-9.

### 著書

国包章一. 新しい凝集剤の利用. 財団法人水道技術研究センター, 編. 新しい浄水技術. 東京: 技報堂出版; 2005. p.9-13.

国包章一. 水循環の視点から水道のあり方を考える. 「自然と共生した流域圏・都市の再生」ワークショップ実行委員会, 編. 自然と共生した流域圏・都市の再生. 東京: 山海堂; 2005. p.103-110.

国包章一. 水の安全管理. 森澤眞輔, 編. 生活水資源の循環技術. 東京: コロナ社; 2005. p.152-215.

島崎大. 日本薬学会, 編. 環境・健康科学辞典. 東京: 丸善; 2005.

### 抄録のある学会報告

小坂浩司, 吉田伸江, 国包章一. ピレノの塩素反応性および反応生成物に関する研究. 第39回日本水環境学会年会; 2005.3.17-19; 千葉. 同講演集. p.534.

小坂浩司, 中島典之, 国包章一, 米沢龍夫. 浄水プロセスにおけるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルの挙動. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.176-7.

竹田憲史, 藤原正弘, 清塚雅彦, 伊藤雅喜, 向井藤利, 馬込和美, 雨宮潤治. 膜ろ過と前処理の組合せによる浄水処理の比較実験 (I) - 実験の概要と連続運転実験に関する報告 -. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.258-259.

棕橋俊文, 藤原正弘, 清塚雅彦, 伊藤雅喜, 向井藤利,

辻本渉. 膜ろ過と前処理の組合せによる浄水処理の比較実験 (II) - 原水高濁時の浄水処理への影響 -. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.260-261.

中曽根盛利, 赤嶺永正, 崎山里志, 大谷努, 眞柄泰基, 伊藤雅喜, 松本直秀, 杉本隆仁, 古屋弘幸, 高木亮太, 太田直輝, 町田幹彦. 循環型ナノろ過試験装置を用いた実規模装置の性能予測に関する研究 (I) - 運転性能予測の検討 -. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.286-287.

大谷努, 眞柄泰基, 伊藤雅喜, 中曽根盛利, 赤嶺永正, 崎山里志, 松本直秀, 杉本隆仁, 古屋弘幸, 高木亮太, 太田直輝, 町田幹彦. 循環型ナノろ過試験装置を用いた実規模装置の性能予測に関する研究 (II) - 水質予測及び除去性能の検討 -. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.288-289.

太田直輝, 大谷努, 眞柄泰基, 伊藤雅喜, 中曽根盛利, 赤嶺永正, 崎山里志, 松本直秀, 杉本隆仁, 古屋弘幸, 高木亮太, 町田幹彦. ナノろ過法を用いた急速ろ過池洗浄からの浄水直接回収法の検討. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.290-291.

森真由子, 伊藤雅喜. ナノろ過におけるファウリングの原因物質に関する研究 - カルシウムの影響評価 -. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.292-293.

中澤祐貴, 伊藤雅喜, 国包章一. 逆流防止器の性能評価と直結給水におけるリスク軽減方策の検討. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.490-491.

平松敏, 浅見真理, 島崎大, 国包章一. 水道水源において優先して監視すべき医薬品の選定に関する研究. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.554-5.

相澤貴子, 西村哲治, 鎌田素之, 浅見真理, 小坂浩司. 多地域における水道原水及び浄水中の農薬の検出状況. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-19; 米子. 第56回全国水道研究発表会講演集. 2005. p.578-9.

圓佛伊智朗, 岡部洋, 小熊久美子, 小池健一, 島崎大, 長岡裕, 横尾真子. 50年後の日本の水資源と水供給システムの持続可能性. 第56回全国水道研究発表会; 2005.5.18-20; 米子. 同講演集. p.92-3.

国包章一. 地下水の飲料水利用の諸問題 - 健康影響の観点から -. 第8回水環境制御研究センターシンポジウム「地下水利用における諸問題と地下水・土壌のバイオレメディエーションの現状」; 2005. 同講演集. 2005. p.7-8. (シンポジウム)

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

国包章一, 浅見真理, 島崎大, 他. 環境省地球環境保全等試験研究費「水道水源等における生理活性物質の測定と制御に関する研究」平成16年度環境保全成果集; 2005.

国包章一, 秋葉道宏, 他. クリプトスポリジウム症等感

染リスクの評価手法の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「クリプトスポリジウム等による水系感染症に係わる健康リスク評価及び管理に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H15-新興-16). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3

国包章一, 伊藤雅喜, 秋葉道宏, 森一晃, 島崎大, 他. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地理情報システムを用いた水道原水の保全に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H16-健康-065). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3

国包章一, 伊藤雅喜, 秋葉道宏, 森一晃, 島崎大, 他. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地理情報システムを用いた水道原水の保全に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H16-健康-065). 平成14~16年度総合研究報告書. 2005.3

国包章一, 小坂浩司, 他. 厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「水道におけるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルの濃縮機構等に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H14-食品・化学-011). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3

国包章一, 小坂浩司, 他. 厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「水道におけるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルの濃縮機構等に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H14-食品・化学-011). 平成14~16年度総合研究報告書. 2005.3

国包章一, 米沢龍夫, 他. 水道水質管理分科会報告書. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16-健康-066). 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3

眞柄泰基, 国包章一, 伊藤雅喜, 他. 無機物質分科会報告書. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16-健康-066). 平成16年

度研究報告書. 2005.3

伊藤雅喜. 日本の水道用膜標準化政策; 2005.4.22; 大韓上下水道学会共同春季学術大会政策フォーラム.

伊藤雅喜. 環境影響低減化浄水開発研究「e-Water最終成果報告会・成果普及セミナー」; 2005.8. テキスト.

高田至郎, 秋葉道宏, 他. 新潟県中越地震水道被害調査報告書. 厚生労働省健康局水道課; 2005.

浅見真理, 石井一弘, 石井賢二, 柴田康行, 瀬戸康雄. 厚生労働科学研究費補助金特別研究事業「飲用井戸の合成有機ひ素汚染による健康影響の低減化に関する研究」(主任研究者: 浅見真理) 平成16年度総合研究報告書. 2005.

眞柄泰基, 相澤貴子, 西村哲治, 松井佳彦, 浅見真理. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16-健康-066). 平成16年度総合研究報告書. 2005. p.179-320.

眞柄泰基, 伊藤禎彦, 亀井翼, 浅見真理. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16-健康-066). 平成16年度総合研究報告書. 2005. p.139-78.

島崎大. 生活排水処理施設放流水中の2-MIBおよびジェオスミンの実態調査. 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16-健康-066). 平成16年度研究報告書. 2005.

浅見真理. 育児における水分補給. 水分補給Q&A 海外旅行の時には水に気をつけてといわれるのはどうしてですか? また実際どういうことに注意したらよいのでしょうか? チャイルド ヘルス 2005; 8(7): 508-9.

浅見真理. 育児における水分補給. 水分補給Q&A 家庭用の浄水器はどんな仕組みで何を取り除いてくれるのですか. チャイルド ヘルス 2005; 8(7): 508.

## Originals

Thaveemaitree Y, Nakajima F, Furumai H, Kunikane S. Relationship between di-(2-ethylhexyl) phthalate concentration and chemical structure of organic matter on solids in drinking water treatment processes. Water Supply 2005; 4(5-6): 321-333.

## Proceedings with Abstracts

Thaveemaitree Y, Nakajima F, Furumai H, Kunikane S. Adsorption of di-(2-ethylhexyl) phthalate on coagulated floc in drinking water treatment process. In: 第14回環境化学討論会; 2005. 同講演集. 2005.

Thaveemaitree Y, Nakajima F, Furumai H, Kunikane S. DEHP adsorption isotherm on various solids generated in drinking water treatment. In: IWA-ASPIRE; Jul

2005; Singapore. Proceedings. 2005.

Shimazaki D, Asami M, Kunikane S. A survey on monitoring priority of pharmaceuticals based on their possibility of existence in drinking water sources in Japan. In: International Workshop on Rainwater and Reclaimed Water for Urban Sustainable Water Use; 2005; Tokyo. Proceedings. 2005. p.153-154.

Ohgai T, Oguchi Y, Ohno K, Kamei T, Magara Y, Itoh M. Development of evaluation methods to introduce nanofiltration membrane process in drinking water treatment. In: 1<sup>st</sup> IWA-ASPIRE Conference & Exhibition; Jul 10-15 2005; Singapore. Proceedings. 2005.

Funamizu N, Itoh M, Takeda S, Yamaguchi D, Kawamura Y, Magara Y, Fujiwara M, Taniguchi H, Nakanura H. Basic performance evaluation of low-

turbidity meters. In: 1<sup>st</sup> IWA-ASPIRE Conference & Exhibition; 10-15th July 2005; Singapore. Proceedings. 2005.

Fukushi K, Sriussadaporn C, Shimazaki D, Yamamoto K. Assessment of roadside air quality in Tokyo metropolitan area by novel biomonitoring method. In: Thirteenth International Conference on Modelling, Monitoring and Management of Air Pollution (Air Pollution 2005); May 16-18 2005; Cordoba, Spain. Proceedings. 2005.

Simazaki D, Hiramatsu S, Asami M, Kunikane S. A survey on monitoring priority of pharmaceuticals based on their possibility of existence in drinking water

sources in Japan. In: International Workshop on Rainwater and Reclaimed Water for Urban Sustainable Water Use; Jun 9-10 2005; Tokyo, Japan. Proceedings. 2005. p.153-154.

Simazaki D, Asami M, Nishimura T, Kunikane S, Aizawa T, Magara Y. Occurrence of 1,4-Dioxane and MTBE in drinking water sources in Japan. In: IWA Aspire 2005; Jul 11-14 2005; Singapore. Proceedings. 2005. Kosaka K, Kunikane S, Yonezawa T. Fates of phthalate esters in water treatment. In: 1st IWA-ASPIRE Conference & Exhibition; Jul 10-15; Singapore. Proceedings. 2005. 4P1. in CD ROM.

## 施設科学部

### Department of Facility Sciences

#### 学術誌に発表した原著論文

井上由起子, 大原一興. 住民によるケアサービスと住宅の地域への開放化に関する考察—高齢期における地域生活に関する研究—その3. 日本建築学会計画系論文集2005; 587: 1-8.

#### 学術雑誌に発表した総説

筧淳夫. 特殊疾患療養病棟全国実態調査2004の結果の概要. LTC 2005; (45): 65-70.

筧淳夫. 特集・中国の病院経営について 中国の病院建築事情. 日中医学 2005; 19(6): 22-5.

筧淳夫, 須田眞史, 三宅祥三. 療養環境の安全確保 転倒・転落対策の発想転換. 医療安全 2005; 2(1): 38-42.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第6回 老い衰えゆく人々にとっての地域居住のかたち. いい住まいいいシニアライフ. 財団ニュース. (財) 高齢者住宅財団. 2005; 64: 2-7.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第7回 暮らしを支える器～客体から主体へ～. いい住まいいいシニアライフ. 財団ニュース. (財) 高齢者住宅財団. 2005; 65: 1-7.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 生活行為から環境を考える 歩く・移動する. GPnet 2005; 51(11): 64-7.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 入浴する. GPnet 2005; 52(1): 62-5.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 排泄する. GPnet 2005; 52(3): 68-72.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 身なりを整える. GPnet 2005; 52(4): 66-70.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 生活行為から環境を考える 心身と向き合う. GPnet 2005; 52(5): 66-9.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 生活行為から環境を考える 趣味や学びを楽しむ. GPnet 2005;

52(6): 66-9.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 生活行為から環境を考える まちに暮らす. GPnet 2005; 52(7): 64-7.

井上由起子, 真野俊樹, 河口豊, 伊藤隆夫, 杉原素子. リハビリテーションの原点・からだ環境シリーズの連載を終えて—座談会—リハビリテーションの現状と今後. RIHA-TECH 2005; 2(9): 2-12.

井上由起子. 従来型特別養護老人ホームにおける居住環境の改善①今日的課題の整理. WAM 2005; (1): 28-9.

井上由起子. 従来型特別養護老人ホームにおける居住環境の改善②事例にみる改修の方向性. WAM 2005; (2): 28-9.

井上由起子. 従来型特別養護老人ホームにおける居住環境の改善③個人空間のあり方. WAM. 2005; (3): 28-9.

井上由起子. 従来型特別養護老人ホームにおける居住環境の改善④小規模生活単位型特養への転換. WAM 2005; (4): 28-9.

井上由起子. 従来型特別養護老人ホームにおける居住環境の改善⑤サテライト型特養と既存改修. WAM 2005; (5): 28-9.

井上由起子. 従来型特別養護老人ホームにおける居住環境の改善⑤改修費用と介護報酬. WAM 2005; (6): 46-7.

井上由起子. 特集 個室ユニットの新たな展開 本特集を読み解くために. 医療福祉建築 2005; 149: 17.

小林健一. 医療の機能と構造との交流 外来センターの将来 建築計画の観点からみた外来分離の意義と可能性. 病院設備 2005; 47(2): 138-9.

小林健一. 新潟中越地震に学ぶ地震対策 地震に備える病院 病院建築の視点から. 新医療 2005; 32(2): 42-4.

小林健一. 外来診療サービスの展開?特集にあたって. 医療福祉建築 2005; 147: 2-3.

小林健一. JIHa創立50周年記念展示報告. 医療福祉建築 2005; 147: 34

## 著書

笥淳夫. 保管スペースの確保. 岩崎榮, 監修. 星野桂子, 編集. 診療情報の管理 第3版. 東京: 医学書院; 2005. p215-21

小滝一正, 秋葉都子, 石井敏, 井上由起子, 大井幸次, 田中智子, 永野一生, 茂木聡, 山口健太郎編. 個室ユニットケア型施設 計画ガイドライン～個別ケアを支える居住空間のあり方～. 東京: (社)日本医療福祉建築協会, 中央法規出版; 2005.9.

石井敏, 伊藤雅春, 井上博文, 井上由起子, 大原一興, 櫻井典子, 橋弘志, 中熊靖, 西野達也, 三浦研, 山口健太郎, 山本和恵, 横山俊祐. 生活視点の高齢者施設 新世代の空間デザイナー. 東京: (社)シルバーサービス振興会, 中央法規出版; 2005.9.

井上由起子, 菅野正広. 建築設計資料 103 ユニットケアー特別養護老人ホーム介護老人保健施設・他. 東京: 建築資料研究社; 2005.11.

## 抄録のある学会報告

笥淳夫, 芦沢由紀, 申錦姫, 井上由起子, 上野淳. 回復期リハビリテーション病棟の計画要件について 患者の生活からみた回復期リハビリテーション病棟の病棟計画に関する研究. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪.

芦沢由紀, 申錦姫, 笥淳夫, 井上由起子, 上野淳. 回復期リハビリテーション病棟の計画要件について—患者の生活からみた回復期リハビリテーション病棟の病棟計画に関する研究 (その2). 日本建築学会2005年度大会; 2005; 東大阪. p.211-2.

笥淳夫, 須田眞人, 横井郁子, 橋本美芽. 患者タイプの人割割合に基づく病棟トイレの数量算定 急性期病棟における入院患者の転倒・転落への物的対策に関する研究. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪.

笥淳夫, 工藤真人. 精神科急性期病棟における施設環境と薬剤処方量推移との関係に関する研究. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪.

笥淳夫. 特殊疾患療養病棟等の現状に関する研究. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪.

笥淳夫, 周穎, 小林健一. 急性期患者に対応する病棟空間の構成と運営について 急性期病棟の現状と課題に関する調査. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪.

笥淳夫. 精神科患者における対面距離からみたパーソナルスペースに関する研究 患者の機能評価と施設環境の分析を通じて. 人間・環境学会誌 2005.12.

周穎, 笥淳夫, 小林健一. 看護方式と病棟平面の関係に関する研究. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 病院管理 2005; 42(Suppl.): 85.

笥淳夫, 横井郁子, 須田眞史, 三宅祥三, 橋本美芽. 急性期病院における転倒・転落対策物品としてのセンサーに関する研究. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京.

笥淳夫, 須田眞史, 横井郁子, 三宅祥三, 橋本美芽. 物的対策シートの作成および物的対策に要する諸物品の数量算定 急性期尿院における入院患者の転倒・転落への物的対策に関する研究2. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京.

笥淳夫, 小山秀夫, 藤林慶子. 特殊疾患療養病棟等の現状把握に関する調査分析. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 病院管理 2005; 42(Suppl.): 194.

笥淳夫, 沢村香苗, 伊藤弘人, 原田誠一, 渋谷孝之, 澤温, 宮岡等, 前田久雄, 樋口輝彦. 精神科急性期治療病棟・精神科救急入院料病棟から地域へ退院した患者の特徴. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京.

笥淳夫, 工藤真人. 精神科急性期病棟における施設環境と薬剤処方量推移との関係に関する研究. 第43回日本病院管理学会学術総会; 2005.10.27-28; 東京. 病院管理 2005; 42(Suppl.): 202.

周穎, 笥淳夫, 小林健一. 急性期患者に対応する病棟空間の構成と運営について 急性期病棟の現状と課題に関する調査. 2005年日本建築学会大会; 2005.9.1-3; 大阪.

井上由起子. まちなかグループホームにおける地域生活の具体に関する研究. 日本建築学会2005年度大会; 2005; 東大阪. p.275-6.

松原茂樹, 井上由起子, 鈴木毅, 木多道広. 小規模生活単位型特別養護老人ホームにおける生活支援方法の実態について. 日本建築学会2005年度大会; 2005; 東大阪. p.343-4.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

笥淳夫, 工藤真人. 精神科急性期病棟における治療段階と施設環境に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究」(主任研究者: 樋口輝彦. H16-障害-004.) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005.3.

笥淳夫, 井上由起子, 須田眞史. 患者タイプ分けに基づいた転倒・転落の物的対策に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療施設における療養環境の安全性に関する研究」(主任研究者: 三宅祥三. H16-医療-040.) 平成16年度総括研究報告書. 2005.3.

笥淳夫, 井上由起子, 須田眞史. 患者タイプ分けに基づいた転倒・転落の物的対策に関する研究. 笥淳夫, 他. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療施設における療養環境の安全性に関する研究」(主任研究者: 三宅祥三. H16-医療-040.) 平成16年度総合研究報告書. 2005.3.

笥淳夫. 飛沫感染に対応した医療・福祉施設の建築・設備計画と省エネルギー策. 文部科学省科学研究補助金 基盤研究B (2) (主任研究者: 山下哲郎. 課題番号: 14350320.) 平成16年度成果報告書. 2005.3.

笥淳夫, 井上由起子. 回復期リハビリテーション医療に

適した患者の環境整備に関する研究. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2)「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査」平成16年度報告書. 2005.3.

小林健一, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「地震災害に対応した医療施設の配置計画に関する研究」(課題番号: H15-医療-013) 平成16年度総括研究報告書. 2005.

## 研修企画部

### Department of Education Training Technology and Development

#### 学術雑誌に発表した総説

加藤則子. 思春期の暴力行為の原因究明と対策 巻頭言. 保健医療科学 2005; 54(2): 87.

加藤則子, 村田光範. わが国における小児の0歳から18歳までの身体発育基準について. 成長学雑誌 2005; 11(1): 21-3.

加藤則子, 村田光範. 0歳から18歳までの身体発育基準作成. 思春期学 2005; 23(1): 94.

加藤則子. 認知行動療法を応用した育児プログラムによる地域アプローチ. 思春期学 2005; 23(3): 305-9.

伊藤善也, 加藤則子, 立花克彦, 藤枝憲二. 小児慢性特定疾患治療研究事業において採用された身長基準に準拠した2000年度版「標準身長表」および「標準成長曲線」. 小児科診療 2005; 68(7): 1343-51.

#### 著書

加藤則子. BMI (カウプ指数). 数値から見る小児の成長と発達. 小児科別冊 東京: 金原出版; 2005. p.11-3.

伊藤善也, 加藤則子. 肥満度. 数値から見る小児の成長と発達. 小児科別冊 東京: 金原出版; 2005. p.14-5.

加藤則子. 身長・体重 (0歳から18歳までの連続的評価). 小児科別冊 東京: 金原出版; 2005. p.64-5.

加藤則子. 乳児期の身長・体重基準. 小児科別冊 東京: 金原出版; 2005. p.68-71.

加藤則子. 頭囲. 小児科別冊 東京: 金原出版; 2005. p.72-5.

加藤則子. 子どもの成長. 平山宗宏, 中村敬, 川井尚. 育児の辞典; 東京: 朝倉書店; 2005. p.79-88.

加藤則子. 0歳から18歳までの子どもの身体発達・発達概要ー発達・発育曲線の利用について. 児童自立支援計画研究会, 編. 子ども・家族への支援計画をたてるためにー子ども自立支援計画ガイドラインー. 東京: (財)日本児童福祉協会; 2005. p.541-7.

加藤則子. 乳幼児期女子の健康教育と健康づくりー生活習慣病の予防は子どもの時からー. 中村正雄, 安達知子, 監修. 母と子の健康教育ー妊産婦の保健相談・子育て支援ー. 東京: ライフ・サイエンス・センター; 2005. p.3-5.

加藤則子. 学童期・思春期女子の健康教育ー生活習慣病を中心とした一次予防教育ー. 中村正雄, 安達知子, 監修. 母と子の健康教育ー妊産婦の保健相談・子育て支援ー. 東京: ライフ・サイエンス・センター; 2005. p.5-7.

#### 抄録のある学会報告

加藤則子. 全国保健所・保健センターにおける多胎育児支援に関する調査結果. 日本双生児研究学会第19回学術講演会; 2005.1; 金沢. 同学術講演会抄録集. 2005. p.7.

加藤則子, 須藤紀子, 瀧本秀美, 佐藤加代子. 0歳から18歳までのBMI基準値の試作. 第24回日本思春期学会; 2005. 8; 和光. 同学術集会抄録集. 2005. p.154.

瀧本秀美, 加藤則子. 若年妊婦における低出生体重児分娩. 第24回日本思春期学会; 2005.8; 和光. 同学術集会抄録集. 2005. p.108.

加藤則子, 松田智大, 須藤紀子. わが国における双胎及び品胎の最適出産体重並びに妊娠期間に関する検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 282.

曾根智史, 武村真治, 橘とも子, 谷畑健生, 緒方裕光, 加藤則子. 健康危機管理研修における演習プログラムの開発・評価に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 455.

久保秀一, 井上孝夫, 山崎彰美, 羽田明, 加藤則子, 林謙治. 女性が働きかつ多くの子供をもつ条件とは何か (次世代育成政策における保健所の役割). 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 466.

大木秀一, 安藤寿康, 野中浩一, 加藤則子. 多胎児を産み育てる家庭に対する行政・医療機関の育児支援の現状調査. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005. 10; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 700.

加藤則子. 日本版DENVER IIによる発達判定の実践法. 第52回日本小児保健学会; 2005.10; 下関. 同学会講演集. 2005. p.80-1.

加藤則子, 須藤紀子, 瀧本秀美, 佐藤加代子. 0歳から18歳までのBMI基準値の試作. 第52回日本小児保健学会; 2005.10; 下関. 同学会講演集. 2005. p.338-9.

諏澤宏恵, 加藤則子, 山田和子. 育児ストレスに影響を及ぼす要因の構造. 第52回日本小児保健学会; 2005.10; 下関. 同学会講演集. 2005. p.178-9.

加藤則子, カトリヌ・ソバジェ, 高野暢, 加藤忠明. 保育園児の身体発育の季節差に関する検討. 第16回日本成長学会; 2005.11; 福岡. 日本成長学会誌 2005; 11(2): 34.

渡辺志津, 畑栄一, 兵井伸行. シリアにおける喫煙および受動喫煙に対する母親の知識・意識・行動に関する研究. 第20回日本国際保健医療学会総会; 2005.11; 東京. J Intern

Health 2005; 20(Suppl): 81.

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

加藤則子，主任研究者．厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」（課題番号：H16－健康－046）平成16年度総括・分担研究報告書．2005. p.1-5.

加藤則子．0歳から18歳までの子どもの身体発達・発達概要：発達・発育曲線の利用について．厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「子どもと家庭を対象とした総合評価票の開発に関する研究」（主任研究者：菅原ますみ，H16－子ども－028.）平成16年度研究報告書．2005. p.15-22.

加藤則子，田中哲郎，松田智大．児童虐待予防に関する

地域アプローチトリプルP（前向き子育てプログラム）による介入を通じて－．研究助成論文集，通巻第40号 2004年度．明治安田こころの健康財団．2005.

加藤則子．既存資料による出生体重要因の検討．厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「若い女性の食生活はこのままで良いのか？一次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討－」（主任研究者：吉池信男，H16－子ども－033.）平成16年度研究報告書．2005. p.111-59.

加藤則子，内山有子．第Ⅱ章研究の結果（1）全体の概要．厚生労働省科学研究子ども家庭総合研究事業「地域における子どもに関わる犯罪・事故回避に関する研究」（主任研究者：詫間晋平，H16－子ども－023.）平成16年度研究報告書．2005. p.3-5.

### Originals

Kato N, Uchiyama Y. Reference birth length range for multiple birth neonates in Japan. JOGR 2005; 31(1): 43-9.

Tachibana T, Takemura S, Sone T, Segami K, Kato N. Competence necessary for Japanese Public Health Center Directors in responding to Public Health Emergencies. JJOPH Nov. 2005; 52(11): 943-56.

Okamoto E, Hata E. A new method of magnitude estimation for PDM (Proportional Distribution Method) using an optimization technique and validation by Monte Carlo Simulation. J Health Care and Society. 2005; 14(4): 117-126.

### Books

Kumae T, Arakawa H. Effects in rats of forced

exercise, started from different ages, on the chemiluminescent response and cytokine excretion of alveolar macrophages. In: Tsuji A, Matsumoto M, Maeda M, Krinka LJ, Stanley PE, editors. Bioluminescence and Chemiluminescence 2004. Singapore: World Scientific; 2005. p.307-10.

### Proceedings with Abstracts

Kumae T, Arakawa H. Comparison of effects of nitrogen dioxide exposure starting from embryonic period to maturation on cells in bronchoalveolar lavage fluids between Brown Norway rats and Fisher rats. In: World Allergy Congress Munich 2005; Jun 26-Jul 1; Munich, Germany. Proceedings. 2005.

## 研究情報センター

### Center for Information Research and Library

#### 学術雑誌に発表した原著論文

緒方裕光，馬替純二．放射線防護に関する生物学・疫学分野の研究．保健物理 2005; 40: 331-340.

#### 学術雑誌に発表した総説

土井徹．青少年暴力の原因究明と対策 少年犯罪の統計．保健医療科学 2005; 54(2): 88-93.

安藤雄一，土井徹．国立保健医療科学院における遠隔研修の現状と展望．保健医療科学 2005; 54(3): 198-204.

増田宏，安藤雄一，土井徹，宮間浩史，山岡和枝，岡本悦司，望月友美子，磯野威．国立保健医療科学院遠隔教育受講者アンケート調査報告．保健医療科学 2005; 54(3): 205-215.

#### 抄録のある学会報告

緒方裕光，川上泰，馬替純二．低線量ガンマ線のリスク評価におけるメタ回帰モデルの応用．日本保健物理学会第39回研究発表会；2005.6；六ヶ所村．講演要旨集．p.127.

馬替純二，古川智春，川上泰，緒方裕光．ヒト細胞のガンマ線による増殖阻害における線量率効果の発現機構の解析．日本保健物理学会第39回研究発表会；2005.6；六ヶ所村．講演要旨集．p.125.

緒方裕光．放射線診療を受ける患者さんの放射線リスクアセスメント．第16回医療放射線防護連絡協議会年次大会「高橋信次記念講演とシンポジウム」教育講演；2005.12；東京．要旨集．p.3-7.

緒方裕光．電磁波リスクの社会的なガバナンスに関するコメント．環境科学会シンポジウム「環境・技術リスクへの社会的ガバナンス」；2005.9；名古屋．

緒方裕光. 健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究. 平成17年度健康科学総合研究成果発表会; 2005.11; 東京. 抄録集. p.16.

馬替純二, 緒方裕光, ヒト細胞の小核形成と増殖阻害における線量率効果. 低線量疫学情報シンポジウム: 低線量放射線影響研究の現状と将来—LNT仮説の科学的背景—; 2005.3; 東京.

早田紀子, 緒方裕光, 橘とも子. 東京都の市町村健康日本21地方計画策定及び推進のための情報提供支援に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9; 札幌. 抄録集. p.392.

曾根智史, 武村真治, 橘とも子, 谷畑健生, 緒方裕光, 加藤則子. 健康危機管理研修における演習プログラムの開発・評価に関する研究. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9; 札幌. 抄録集. p.455.

橘とも子, 武村真治, 緒方裕光, 谷畑健生, 曾根智史, 瀬上清貴. 健康危機管理において公衆衛生行政管理者に要するcompetencyの分析. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9; 札幌. 抄録集. p.525.

山口一郎, 緒方裕光. 永久挿入線源を用いた放射線治療における規制整備のあり方に関する検討. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9; 札幌. 抄録集. p.1049.

望月友美子. 喫煙対策 Tobacco Free\* Japan: ニッポンの「たばこ政策」への提言. 第45回日本呼吸器学会学術講演会; 2005.4.14-16; 千葉. 日本呼吸器学会雑誌 2005; 43 (増刊): 62.

柳律子, 磯野威, 緒方裕光, 土井徹. 健康危機管理支援情報システムによる研修支援と遠隔教育. 公衆衛生情報協議会研究会抄録集 (18). 2005. p.29-30.

土井徹, 安藤雄一, 磯野威, 岡本悦司, 増田宏, 望月友美子, 山岡和枝. 国立保健医療科学院のインターネットによる遠隔教育. 第64回日本公衆衛生学会総会; 2005.9.14-16; 札幌. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52 (8 特別附録): 491.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

緒方裕光. 健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究」(主任研究者: 緒方裕光) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.1-6.

緒方裕光. 患者／家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「患者／家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」(主任研究者: 緒方裕光) 平成16年度総括・分担研究

報告書. 2005. p.1-6.

緒方裕光. 健康危機管理の構成概念妥当性の検証. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.374-379.

緒方裕光, 馬替純二. 環境要因の健康リスク評価におけるメタ・アナリシスの応用に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成16年度総括・分担研究報告書. 2005. p.59-63.

緒方裕光. ヒトおよび動物における発がんリスク研究の統合. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するためメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2005. p.56-62.

磯野威, 諏訪部直子, 泉峰子, 藤沢靖子. メディア (図書, 雑誌, テレビ) における医学・健康情報流通調査. 厚生労働科学研究費補助金事業医療技術評価総合研究事業「患者／家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」(主任研究者: 緒方裕光. H16—医療—027.) 平成16年度報告書. 2005. p.7-15.

磯野威, 石井保志. 患者／家族の視点に立った情報提供 (試案). 厚生労働科学研究費補助金事業医療技術評価総合研究事業「患者／家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」(主任研究者: 緒方裕光. H16—医療—027.) 平成16年度報告書. 2005. p.33-39.

緒方裕光, 磯野威, 柳律子, 角田雅之, 藤本俊二. 健康危機管理支援情報システムにおけるハザードマップに関する研究—ハザードマップに必要な情報・機能に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金事業健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究」(主任研究者: 緒方裕光. H16—健康—033.) 平成16年度報告書. 2005. p.79-84.

緒方裕光, 磯野威. 米国CDCにおける健康危機管理情報システムについて. 厚生労働科学研究費補助金事業健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究」(主任研究者: 緒方裕光. H16—健康—033.) 平成16年度報告書. 2005. p.107-112.

磯野威, 柳律子, 宮澤博子, 泉峰子. 研究成果データベースと申請データベースとの整合性について. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「科学研究費計画書の電子受付化に関する研究」(主任研究者: 山崎力) 平成16年度報告書. 2005. p.30-35.

### Originals

Ogata H, Furukawa C, Kawakami Y, Magae J. Quantitative model for the evaluation of dose rates effects following exposure to low-dose gamma-radiation.

Radioprotection 2005; 40: 191-202.

### Proceedings with Abstracts

Ogata H, Magae J. Quantitative risk assessment in

epidemiological studies investigating dose rate effects. The 48th Annual Meeting of The Japan Radiation Research Society/The 1st Asian Congress of Radiation Research; 2005 Nov.; Hiroshima. Proceedings p.142.

Kawakami Y, Ogata H, Magae J. Effects of growth on micronucleus formation under low dose÷low dose rate irradiation. The 48th Annual Meeting of The Japan Radiation Research Society/The 1st Asian Congress of Radiation Research; 2005 Nov.; Hiroshima. Proceedings p.140.

Ogura K, Magae J, Ogata H, Kawakami Y, Koana T.

Dose-rate effect of ionizing radiation on the lethality in *Drosophila*. The 48th Annual Meeting of The Japan Radiation Research Society/The 1st Asian Congress of Radiation Research; 2005 Nov.; Hiroshima. Proceedings p.156.

Ogata H. Meta-analysis of low dose radiation risk: An application of meta-regression model to biological risk evaluation. International Symposium of “Systematic Review and Meta-Analysis”; 2005 Feb.; Wako. Abstracts p.50.